せられ、內外人の賞讃する所である。家畜類は水牛、黃牛、馬、豚等であるが、象も野生のものを捕へて各種の勞役に使用してゐる。林產物も國家財源の主要なものとなつてゐて、森林は全國面積の三分の二を占め、中にもチーク材は年々五六百萬圓の輸出をしてゐる。鑛產物は錫を主とし、輸出年額一千萬圓に及ぶ其他鐵、石炭、石油等を產するも現在の採掘額は少ない。寶石サファイヤもこの國の名產である。工業は甚だ幼稚で精米業以外には語るに足るものがない。しかしそれだけに却つて外國企業家、投資家に取つては注目すべき有望の天地でもある。

鄉水のヤチユア　暹羅では洪水が多い、そのために筏を組んで家を建て水上生活をしてゐる者が多い、古都アユチヤ上の浮家で水上に出現し、往來交通すべてこれは舟に依つて行はれる。

都會

東洋のヴェニス

首府盤谷は湄南河口を遡る四十粁の上流兩岸に跨る大都會で、郡部を合せ六十六萬六千七百餘の人口を有す。コーライトは東部暹羅の商業地、人口六萬餘。バクナムポーは北部暹羅產物の集散地、チエングマイはメピン河上流にあり、チーク材產出地域の中心地、人口三萬餘。ベツチヤブリーは馬來半島に入る關門にして軍事上の重要地、人口三萬。アユチヤは暹羅の舊都で、山田長政、木村源右衞門等が暹羅に赴きしはこゝが國都であつた時代である。人口三萬、古寺院王宮の廢墟等が昔日の榮華を語つてゐる。

日本との關係

朱印船と暹羅

日本と暹羅との交通は豐臣秀吉が文祿元年初めて朱印狀を京都、堺、長崎等の富商に授けて海外通商の特許を與へたのを發端とし、九艘の朱印船は現在の支那廣東邊から、臺灣、印度支那の東京、東甫寨、暹羅、呂宋等まで航海して貿易に從事したのである。德川家康も秀吉の政策を繼承して盛んに朱印船を海外に派遣し、通商貿易を奬勵したが、慶長九年春初めて家康が朱印狀を下附して以來、發給した朱印狀は百八十二通である、この內航海先を暹羅國と指定したものが三十七通、現在の暹羅領たる太泥國を指定したものが五通である。當時の日暹貿易の

重なる商品は日本から金、銀、銅、彫刻品、金屏風、繪畫、敷物、銅器、漆器、磁器、太刀、鎧、鎗、傘、扇子、硫黄、麥粉類を輸出し、暹羅からは花毛氈、綿布、更紗、蘇木、鮫皮、黑砂糖、猿皮、蛇皮、山馬皮、鹿皮、象牙、犀角、火藥、錫、籐、紫檀、黑檀、白檀、沈香、伽羅、麝香、西洋布、寶石、染料等を輸入してゐた。慶長年間には日本人の暹羅在留者は可なりの數に達し、彼等は王から優遇されて日本人のみの近衞兵が組織されてゐた。その近衞兵の指揮官となつたのが山田長政で、別項に述べた如く暹羅と六昆との戰ひに、この日本人の一隊が目覺ましき活躍をして暹羅王室の危急を救つたのである。慶長十三年には家康の命を受けて本多正純が暹羅に赴き鐵砲及び煙硝を求め、家康からは暹羅王に鎧を贈つたが、同十五年には暹羅王の使が來朝して寶石等を家康に贈つた。其後幕府と暹羅王室との間には屢々使節を交換し山田長政が六昆王となつてから日暹の商船の往復は一層盛んであつたやうであるが、寛永十六年幕府が鎖國を嚴にして以後は自然に交通が杜絶するに至つた。

德川家康使を派す

明治以後の交通

明治時代になつて初めて公式に暹羅を訪問したのは工部省出仕大鳥圭介、大藏省出仕川路寛堂が明治八年暹羅事情視察に赴いた時であつて、盤谷で國王に謁見して日本の事情を言上した。其後數年を經て故小松宮彰仁親王が英國からの歸途暹羅を御訪問相成り、明治二十年には暹羅外務大臣たるデッオング親王が公式の使節として來朝され、其時日暹修好宣言書が調印された。次いで明治二十三年、內國勸業博覽會が開催された時、暹羅皇族バヌランシー親王が來朝され、翌廿四年には暹羅文部省の聘を受けて日本から畫家一名彫刻家二名が赴任し、この時代から私人として暹羅渡航を試みる者が漸く增加した。明治三十年には稻垣滿次郎氏が辨理公使に任せられて暹羅に赴任し初めて日本公使館が開設され、翌三十一年二月、日暹修好通商航海條約の調印を見るに至つた。稻垣公使の在任中、暹羅皇室から日本の佛教界に對し佛骨を分與されることゝなり、佛骨奉迎使の一行は明治三十三年六月暹羅に赴き、國使に準じた待遇を受けて無事佛骨を携へて歸つた。名古屋の日暹寺は卽ちこの佛骨を納めるために建立された寺院で、建築用材は暹羅からの寄贈に係るものである。明治三十五年、前暹羅皇帝が日本に來遊された時には、特に日暹寺に參拜して佛骨奉安殿の前に松を手づから植えられた。暹羅農務省に蠶業局が創設された當時には日本から數十名の技術家が招聘され、蠶絲業改良の上に多大の貢献をなし、法學博士政尾藤吉郎氏が法律顧問として前後十六年も暹羅政府に在任したことがあり、其他海軍省や女學校等へ教師として招聘された者が數名あつた。明治四十四年暹羅先王の戴冠式には我が皇室から伏見宮博恭王殿下が御名代として、伊吹、淀の二艦を率ゐて御參列に

佛骨分與と名古屋の日暹寺

貿易關係

相成り、大正十三年三月には日暹改正通商條約が締結され、兩國は全然平等の立場に立ち邦人は暹羅に於て其の內地人と平等の待遇を受けることゝなり、兩國の關係は益々緊密を加ふるに至つた。昭和六年暹羅皇帝が皇后御同伴で渡米の途中、往復共に我國に立寄られ、朝野の盛なる歡迎を受けられたのは何人の記憶にも新なる所である。

歐洲大戰以來彼我の貿易は增進し、暹羅からは米、碎米、チーク材等を輸入し、我國からは綿糸布類、綿毛布、エナメル細工、絹織物、雜貨、紙類、陶磁器、麥酒等を輸出してゐる、最近では暹羅政府から我が鐵道省へ鐵橋材料の大量注文があつた。最近に於ける我國の對暹貿易は左の如き數字を示してゐる。（單位圓）

	輸出	輸入
昭和四年	一〇、六三三、三六八	二〇、八一一、七七二
同五年	九、四七六、六二一	一八、八四三、〇一七

○主なる會社商店　盤谷に三井物產會社出張所、山口洋行、伊藤洋行、江幡洋行、大山洋行、大谷洋行があつて貿易を營んでゐる。

○在留邦人　內地人二百五十九人、外に朝鮮人十六人、臺灣人四十九人が在留してゐるが、內地人の職業狀態は、會社銀行商店員三十九人、貿易商六人、官公吏雇員五人、物品販賣業十人製版印刷業六人、媒介周旋業三人、旅館料理店遊戲場業等四人、理髮業浴場業等六人、醫務に關する業十四人、敎育關係者三人、運輸業、鐵道從業者各一人、寫眞師美術家等十二人、この外に農業、漁業、洗濯業、機械製造等に從事する者が一人づゝである。

多事なりし國際關係

歷史

上古にはメラネシアン、インドネシアンの兩種族が國を建てゝ居て、紀元六世紀の頃柬甫塞の屬國となつたが、其の後南方支那から移住してきたタイ族の手に歸してランブーン帝國を建設した。一二五七年英傑ルアングがソコータイ帝國を建て勢盛んであつたが、アユチア王朝が出現してから中部暹羅は全部其手に歸した。以來四百年間隣邦緬甸とは常に相爭つて居たが、一五六九年アユチア在留の日本人五百名は、アユチア王朝を援けて大に緬甸と戰つて緬甸軍を破つた。一七八二年現王朝の始祖ピアチャックリーが出で、柬甫塞と戰てアンコール、バタンホングの兩地を得た。一八二一年二世プラブッタロートラーが卽位して馬來半島を征伐した。三世サムデットプラナーングクラオは一八二四年に卽位し、巧みに英、佛、蘭、葡其他諸國と接衝した。四世モングクットは一八五一年に卽位したが、當時佛國は安南に蟠居して、暹羅の

英佛兩國の壓迫

暹羅皇帝陛下と宮殿　暹羅の現皇帝は非常に進歩主義の方で、諸般の制度を革新して國狀の改善に努められてゐる明主であるる。圖はチニヤツクリー宮殿と稱し結構壯麗を極めた建物であるる。

附屬國であつた東甫塞の保護權を主張したので、一八六七年佛國と條約を結び、佛國の東甫塞保護權を承認した。第五世チユラロンコルンは一八六八年に卽位し、一八七一年爪哇及佛領印度支那を視察して東亞の大勢を察し一八八九年奴隷廢止の詔勅を發した。其後佛國と湄公(メーコン)下流で衝突し、英國と馬來半島で釁を生じ、遂に若干の領土及利權を兩國に讓つた。此國難の爲め王は益々治道に精勵し、泰西の文明を採用し、又敎育を起し、法典を完成し、海陸の軍備を充實して獨立國たる面目を備へ、一九〇七年より一九〇九年に亘り佛英二國をして治外法權を制限せしめた。一九一〇年に王は五十八歲で崩御し、ヴアジラウ

國政改革

英主と良臣

ツド王が卽位した。同王も英明にして國民の愛國心竝に尙武觀念を鼓吹すると共に、銳意內政外交を齊へ、一九一七年には獨墺に對し宣戰を布告し、遠征軍を西部戰線に送つた。一九二五年には國王崩御せしも、この年佛、英、獨、佛、葡、西、蘭、瑞等の各國との條約及び英暹間の仲裁々判條約調印されて、暹羅は立法自主權を得たるのみならず、關稅自主權をも獲得した。現皇帝も先王の意思を繼いで有爲の臣僚と共に國力の充實を圖り、藍赤白の三色旗を翻しつゝ毅然として亞細亞の一角に獨立國家たる面目を發揮してゐる。

政治上の地位

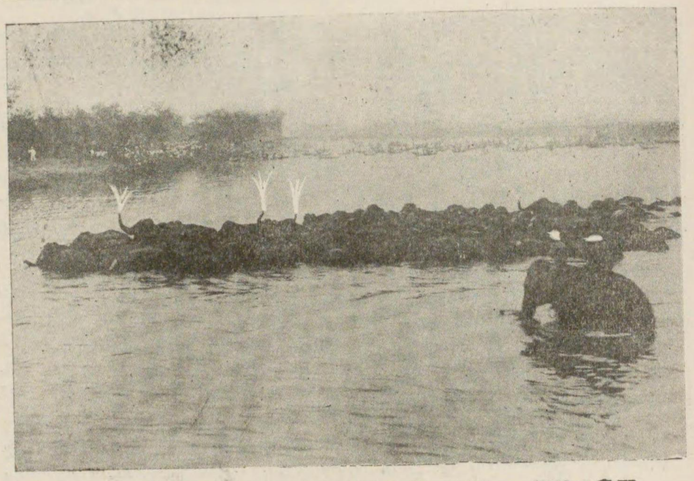
前世紀の後半から今世紀の初頭に於ける暹羅の國運は、歐洲諸國の勢力に搖蕩されて、さながら風前の燈火の如き危險の狀態にあつた。唯だ英佛二國の勢力が互ひに拮抗して、各自の無遠慮なる呑噬を牽制される關係にあつたのと、暹羅の宮廷に英主と良臣とがあつて、この危急存亡の時代に善處することを得た結果、辛ふじて社稷を保持することが出來たのである。第五世チユラロンコルン王の治世に外務大臣たりしデヴアオングス親王が英邁の人材で、當時の宮廷顧問たりし白耳義の國際法學者ローラン・ジャクミンの細心なる獻策を容れ、國王を輔けて

新しき發展への一路

隱忍自重に努め、屈辱の涙を呑みつゝ、戰爭狀態の發生するを避け、英國及び佛國をして乘ずべき隙を見出すを得せしめなかつたのである。若し當時に於て外交上一歩を誤れば、忽ち英佛何れかの呑噬に遭ふか、或は英佛二强の瓜分する所となつて、暹羅は滅亡の外なかつたであらう。されば、その軟弱にして屈辱に滿ちた外交も、弱小なる國家が存立を圖る方法としてはこれより外になかつたのであつて、暹羅宮廷の苦心を想見すると共に、當時の國際環境を回想してそゞろに肌に粟を生ずるの感なきを得ないのである。

しかし、今や暹羅は完全なる獨立を確保して、過去の國難を回顧しつゝ新しき發展の一路を進むべき時代に到達してゐる。而して暹羅の將來に取つて重要なことは、その國際關係に存せずして、內政問題に存し、現代暹羅の爲政者が如何にして國運を進展せしめんとするかは大いに注目に値する。財政事情の方面から見れば、近年諸外國との條約改正を完了して關稅自主權を回復し、關稅收入を增加することを得、又國有財產たるチーク森林及び錫鑛の特許稅等により國庫の收入狀況は良好を示し、且つ鐵道、郵便、電信電話、水道、發電所などの官業を經營して漸次財政的の基礎を鞏固ならしめてゐるから、概して健全なる軌道を歩んでゐるものゝやうである。併し乍ら國內がまだ未開發の狀態にあることを思ふと、今後幾多の新施設を行ふに

前途尙ほ難問題を存す



野象の渡河　野生の象の大群を群をなして河の方へ追詰め、祭禮の行事の一つとして河へ追込んで渡せる。見物人は舟に乘つて見物し、象は吼へたり、水を噴き揚げたりして凄まじい勢で河を渡つて行く。實に壯快な行事である。

あらざれば眞に國家としての健全なる發達は期待し難く、つぶさに國內事情を觀察すると其處には尠からざる難問題の潛んでゐるのを發見する。國家の重要なる收入源たるチーク森林の如きも、チークの良材を得るまでには約百年の樹齡を經ることを必要とするのであるから、收入の增加を圖つて濫伐の弊に陷らば久しからずして行詰りに陷る危險があり、國庫收入中重要なる地位を占むる阿片專賣の如きも、之を廢止して禁煙を斷行するにあらざれば、國民の保健上甚だ憂ふべき結果に到達する危險があるのみならず、國際上の盟約によりて是非とも之は早晩廢止しなければならぬ運命にある。現在暹羅では阿片專賣は各種財源中關稅に次ぐ重要なる地位を占めてゐる

のであるから、その收入がなくなるといふことは非常な打擊であつて、之が廢止の曉には必然に他の新財源を發見しなければ財政を破綻に導く虞れがある。尤も現行の稅制によれば所得稅營業稅、相續稅、印紙稅等の如き稅目が設定されて居ないで、今後稅制上の改正を行ひ、租稅收入の增加を圖るべき若干の餘裕は存するのであるから必ずしも悲觀は要しないが、暹羅の社會事情に徵すれば、國民の大部分が無資產の農民であつて、資產階級と目すべきものが少いから、それらの新稅による收入に多くを期待し得べきかどうかは疑問である。尙ほ之と關連して考へられることは國民經濟上支那人が優勢なる地位を占めつゝあることであつて、暹羅に於ける商工業機關は殆ど支那人の手中にあるといふも過言でない。暹羅國民の大部分は農民で、米作がその唯一重要の產業である。然るに暹羅が從來米の輸出によつて對外貿易を有利に維持し來つた地位に對し、近時一抹の不安を宿すに至つたことを注意しなければならない。それは暹羅が東隣に印度支那、西隣に緬甸といふ二大米作國を控へて競爭的の立場にあり、近時この兩隣地の產出米に壓迫されて暹羅米の聲價が漸次衰へつゝあること、並に暹羅米の需要地たる馬來半島に米作が勃興しつゝあることである。斯く米作に一抹の不安を伴へる上に商工業方面に於ける活動乃至利益が在留支那人のために壟斷されてゐるといふことは、暹羅國民の將來に取

支那人問題の重要性

變態的な國民經濟

暹羅の古代劇　現在の暹羅王室の先祖が、皇妹を敵將に嫁せしめて國家の安泰を計つたといふ歷史に因んだ劇で、國王と皇后と皇妹と敵將とが和睦の舞をしてゐる情景である。

つて甚だ考慮すべき重要問題である。思ふに暹羅の國民が米作にのみ依賴して他を顧みないのは、國民經濟を甚だ變態的のものたらしめ、且又その經濟生活を危險に晒らすもので一朝凶作に見舞はれると忽ち國民經濟を極度に沈衰せしめ、尙又通常の狀態にあつても國外に於ける暹羅米の需要が減退するとすればその生活條件を著しく不良ならしめる結果となる。この點に就ては暹羅國民たるものは深甚なる考慮を必要とするのである。

由來、暹羅の國民が一般に面倒な仕事や緻密な業務に携はるを好まないのは、熱帶國といふ特殊の環境に住める自然の結果でもあらうが、かうした一般的の傾向を帶べるに乘じて支那人が著しく進出し、暹羅が漸次に支那化さ

警しむべき國民安逸の風

れつゝあるは暹羅視察者の齊しく驚く所の現象である。暹羅國民が安逸に狎れて經濟的能力を鎖磨しつゝあるに對し、勤勉にして營利的觀念に富める支那人が移住し來つて經濟的活動をなすとすれば、結局原住民族を壓迫凌駕することゝなるのは寧ろ當然である。既に暹羅は永い間支那人の移住によつて人種的に混血し、全暹羅國民中、支那系統の種族が純粹の暹羅人を凌ぐ程の多數になつてゐると稱せられる、假にこれらの混血種族は問題外とするも、純粹の支那人が年々その數を增して現在では百五十萬乃至二百萬に及び、商工業方面の實權を握つてゐる事態は、單に經濟上のみならず、政治上にも非常に關心すべき現象で、將來暹羅を攪亂するものは英人でもなく、又ソヴエートロシヤの赤化でもなく、それは恐らく在留の支那人であらうとさへいはれてゐる。現に支那移住民が近來著しく國民主義的風潮を帶びてゐると見られる徵候が歷々と存するのであるから、暹羅の財政事情等に對照すれば、一層そこに留意を要する理由がある。

日本と暹羅

顧るに日本と暹羅との關係は歷史的にも甚だ深く、その民族性に於ても頗る相似た點が存する。然るに我が國民は海外發展といへば直に一攫千金を夢みて、功業の地を遠くに求め暹羅の如き近距離の國を閑却してゐる傾向がある。支那人が年々十萬內外も暹羅に入國しつゝあるに

自彊の道

對し、日本人の暹羅在留者は現在でも僅々三百人に滿たない。これは暹羅が日本人を排斥する結果ではなくて、日本人が寄付かない結果である。暹羅國民は人情美しくして、しかもその國土は天產物に富み、肥沃なる壤土は今後更に開拓を待つこと切である。日本國民の如き農業方面に特殊の能力を有する國民に取つては正に理想の天地である。單に農業のみならず一般產業の方面に於て日本人の參加すべき範圍は廣いのであるから、一層彼我の親善を增進し、交通貿易の振興を圖ると共に、着實なる用意の下に彼地に赴き、富源の開發に協力することは當然の使命といはなければならない。

若し夫れ暹羅自身のためにいへば、國民の自覺を促し、勤勉自彊の氣風を振作して、產業の開發を圖り、米作にのみ偏傾せる產業を改めて多角的ならしめることが要務である。又主要生產物たる米についても品質の改良を圖ることは必要なる施設の一つであつて、品質の改良こそ米產國としての暹羅を生かす道である。國民の尙武的氣象を振作する義勇虎隊の組織や、ボーイスカウトなどが盛大であることは、要路者の指導的精神の旺盛なるを示し、洵に賴もしく思はれるところであるけれど、產業方面の事が舊態依然たる有樣では國運の前途に多大の期待を拂ふことが出來ない。暹羅の政治が從來外國から招聘した顧問の畫策に依賴する所多く、それ

が國政の上に寄與した點の大なるはいふまでもないが、斯の如きは元より過渡的の便宜に出づるものであつて、眞に國民に自主的信念を與へる所以ではない。近時「暹羅國民の暹羅國」といふ標語が宣揚せられつゝあるのも、外國人が餘りに各種の事業に關與してゐる弊害を反映せるものと思はれるが、この風潮を利導して確乎たる國民主義の下に國運の進展を圖るは蓋し國家存立の要諦であらう。

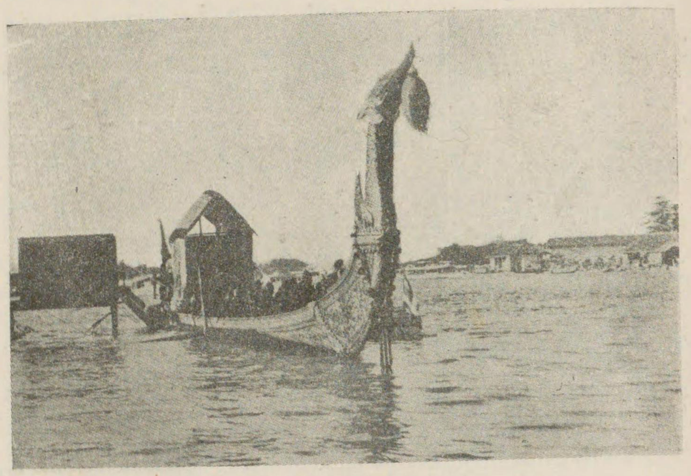
風俗

美しい社會

○民性　暹羅の國民は老幼男女を通じて佛教に對する信仰が篤く、それが日常生活の上に濃厚に現はれて美しい社會をなしてゐる。社會の不幸なる者に對しては國家の救濟施設を待つまでもなく、各個人が進んで救濟に任じ、互ひに有り餘るものを他人に施すことを正義と心得てゐるから、自然に救恤事業が完全に行はれるのである。一般に從順親切で禮儀を重んじ宗教的良心が甚だ強いが、惜しいことには男子は物に飽き易く懶惰の風がある。男子に比すると婦人の方が寧ろ强健で且つ勤勉である。

○服裝　男子はパヌンといふ大幅布の腰卷を腰に卷き付け、白の詰襟の上衣を着るのが一般の

禁酒の反對に喫煙



古式の丸木舟　暹羅の古代から存する丸木舟で、今日でも王室の儀式にはこれを用ひて祭事を行ふ。之をトートカトンチと稱し、金色燦然と塗り立てた美しい舟である。

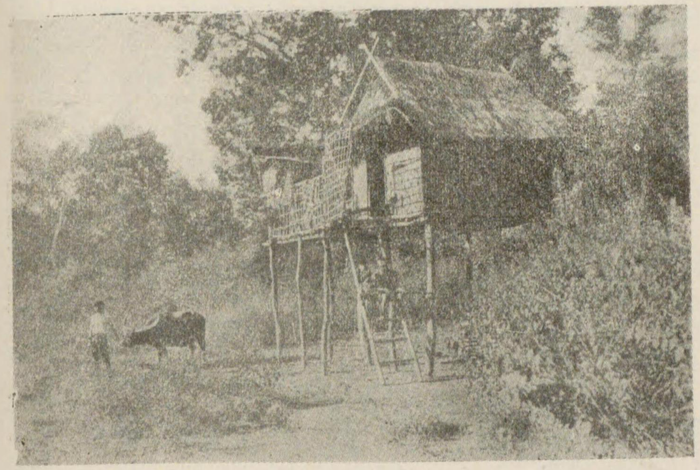
風俗であるが、漸次洋服を着る傾向を示してゐる。中流以上の者は靴を穿き、中流以下の者は多く跣足である。婦人は男子と同じやうにパヌンを腰に卷き、家居の時は乳を隱す程度の袖無しシャツを上衣とし、外出の時には薄布の洋裝のやうな上衣を羽織る。男子のパヌンは無地であるが、婦人のは派手な花模樣や唐草模樣のついたものである。又婦人は耳環、頸飾、腕環、指環等の裝身具を好み各階級を通じてそれらの品には金目を厭はない。

○飲食　暹羅で著しいことは、男女を通じ酒を飲まないことである。これは佛戒を重んずる結果で、公開の宴席、來客の接待等にも酒を饗することは非常に惡いことだとされてゐる。だから暹羅は現代に於て最も完全に禁酒の行

はれてゐる國である。酒を飲まない代りに喫煙の風は盛んである。食物は米が主要食糧で副食物は我國などゝ大した相違はない。たゞ唐辛子胡椒等の刺戟性香味料を甚だ愛用する。果實の產出が多いから、これが補助食糧として上下を通じ多く食用に供される。

○住居　民家は木造又は竹造で床下を五六尺の高さにして梯子で出入する、屋根は棕梠の葉その他で葺き、一家の周圍には日光を遮るために檳榔樹、椰子、芭蕉などを植えてゐる。それらの樹木は日光を避けると共に美味な果實を得る用をもなすのである。特色のあるのは浮家であつて、これは雨季に河川が氾濫するため自然に發達したものであるが、竹の筏を組んでその上に小屋を建て河川の水面上に

浮家市街



暹羅の民家　暹羅の山地々方は猛獄が多く、平原には又洪水の虞れが多い。さうした原因からこの地方の民家は床下が非常に高く、下座敷のない二階屋のやうな構造である。

浮べ、杭に繫ぎ付けて其處に住居するのである。一家族でかうした浮家を四つも五つも結び合はせて住居してゐるのもあり、アユチヤその他の都會には河の上に浮家市街が出現し、小賣商人などは舟で浮家市街の間を漕ぎ廻りつゝ商賣をしてゐる。バンコックなどでも雨季になると多數の浮家が一ヶ所に集つて水上市街をなしてゐる。

○婚姻　結婚年齡は男子廿四五歲、女子十七八歲を普通とし、結婚する男女は暫らく許嫁として交際するが、男子は結婚前に一時僧侶になることゝ、兵役を果すことゝの二つの社會的義務を果さねばならぬとされてゐる。結婚制度は嚴格に形式を守る風があり、相思の間柄でも必ず正式に媒介者を立てゝ、結納の交換、佛式による儀式等を經た後同棲生活に入るのである。結婚には身分以上の見榮を張る習慣があつて、一般に多大の費用をかける。

結婚制度は嚴格

第三節　佛領印度支那

位置面積人口

支那の南方に位置し、恰も金魚が跳ねたやうな形を以て西に暹羅を抱きつゝ南支那海及び暹

羅灣に臨んでゐる。面積二十八萬五千方哩（七十三萬八千方粁）、人口二千七十萬を算する。

政治上の區劃

五自治地區

固有の歴史的沿革に基き全土を、東京（トンキン）、安南（アンナン）、交趾（コーチン）、柬甫塞（カンボチヤ）、老撾（ラオス）の五自治地區に分ち、佛國政府の任命せる印度支那總督が統治してゐる。その内、東京、安南、柬甫塞、老撾は佛國の保護地といふ名目を保ち、交趾だけは佛國の植民地である。今、各地の政治狀態その他を箇別的に述べると次のやうなものである。

政治狀態

○東京　面積四萬五百方哩（十萬五千方粁）、人口七百十六萬を算し、國内は佛國の駐在官を戴く二十一州と、その他の四軍區及び二市（河内、海防）とより成り、佛國高等駐在官の下に保護會議があつて土人もその議員である。別に土人諮問會なるものが設けられ、土人はその議員に選擧されるが、高等駐在官は之を解散する權能を持つてゐる。

○安南　面積五萬八千方哩（十五萬方粁）、人口五百十七萬を有し、舊安南王國の君主は政治の實權を有せざるも、教化、貴族及び名譽に關する權利を掌握してゐる。佛國の高等理事官が置かれ、この理事官は保護會議と共に一般事務を、土人諮問會と共に土人に關する事務を行ふ。

煙管の羅宇は昔からラオス産の竹を用ふるから起つた名である

アンクルコルの佛塔　柬甫塞の古都アンクルコルの宮殿寺院の遺蹟に於て有名である、圖は名高いアンクルコルワツトで周囲四粁に及び日本人の所謂祇園精舍とはこゝのことだと稱せられてゐる。

保護會議及び諮問會の組織は東京と同樣である。國内は十二州に分ち、各州の知事は土人から任用されるが、佛國の駐在官の監督を受けてゐる。

○老撾　面積八萬二千六百方哩（二十一萬四千方粁）、人口八十三萬七千を有し、一軍區と十州とに分れ、その中にルアンプラバング、バツサク、ムオングシング三保護國を包含してゐる。行政組織は東京と同樣である。

○柬甫塞　面積六萬七千五百方哩（十七萬五千方粁）、人口二百四十六萬五千を有し、舊柬甫塞王國の王が現在も土人に君臨してゐる。王の下に五人より成る大臣會議及び保護會議があつて、何れも佛國の駐在官が議長となつてゐる。國内は十二州に分れ、各州に土人の知事

があるが、更に數州を合して駐在區が設けられ、佛國駐在官が土人知事を監督してゐる。

○交趾　面積二萬一千六百方哩（五萬六千萬粁）、人口四百萬で印度支那中最も人口密度が高い。この地は佛國の植民地として佛國人たる知事及び書記官長が行政權を握り、樞密會議及び植民會議があつて、植民會議議員二十四人の定員中六人だけは土人から選擧される。全體を二十州と西貢及びチョロンの兩市に分ち、夫れ〳〵行政官及び議會が置かれてゐる。

トンキンの女風俗　外出の時にはケカンと稱する鉢卷をしてをのもな地味ため染に色蒿概大は衣服、く歩つて笠を被大きな足跣で歩くのである。

人種宗教

人種上の分派

全印度支那の人口二千七十萬餘の內、約一千四百萬が安南人で、これらは主として交趾、安南及び東京に住居し、二百三十萬は東甫塞人で東甫塞及び西部交趾に居り、百萬はタイ人で各地方に分布してゐる。その他約四十萬の支那人と馬來種族たる若干のチャム人及びモイと呼ばれる土人も居住してゐる。宗教は佛教を奉ずる者が大部分を占め、カソリック教を奉ずる者が安南に三十萬、東京に四十萬程ある。又教育のある階級では儒教を尊奉する者もあるが、拜祖教と佛教と儒教とを混淆したやうな信仰に立つ者も多く、一體に祖先を尊敬する習慣を有し、靈魂不滅の思想が深く養はれてゐる。

都市

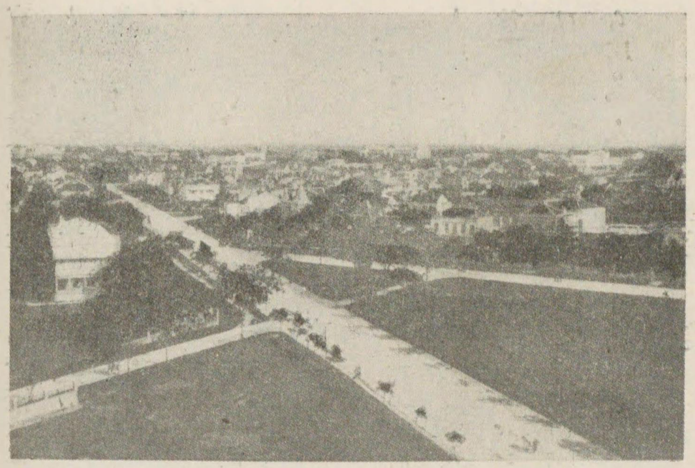
南支經營の策源地

河內（ハノイ）は佛領印度支那及び東京の首府で、佛國の南支經營の策源地であり又交通の要地である人口約八萬。海防（ハイフオン）は北部の重要港で人口七萬五千を有する。ユエは古名を順化と稱し、安南の首府で人口六萬三千。ルアンプラバンは老撾の首府、媚公河の左岸にあつて人口十八萬。西貢（サイゴン）は交趾の首府で佛領印度支那最大の輸出港である。佛蘭西西貢、ショロン、ギヤヂンの三部から成り、人口約三十四萬を算する。

產業

主要產物は米

農業が主要な生業で、米を第一として甘蔗、玉蜀黍、豆類、コ、椰子、煙草、棉、ゴム、漆、胡椒、珈琲、茶、香料等を產し、林產物にはチーク材、籐、椰子、肉桂、樟腦、樹脂、竹、染料等がある。鑛業は東京で採掘される良質の無煙炭を始め錫、銅、鉛、亞鉛、金を產し、魚類も豐富で交趾及び東甫塞では主要な輸出品の一となつてゐる、工業は幼稚で工場工業としては精米、セメント位のものに過ぎぬ。生糸、絹織物、蘭吳座、綿レース、竹製品、陶器等の製造が家庭工業として行はれてゐる。畜產は牛、水牛、豚、家禽等であるがその輸出高は少い。



河內市街　印度支那を統治する佛蘭西總督の駐在地としてして河內は佛蘭西化されたれ美しきき都市であるる、建物や街路などは近代都市としての清新さを漂らしてゐる。

交通

河內を中心として、南方順化に達する鐵道及び支那國境から雲南に到る佛國の利權鐵道たる濵越鐵道と連絡せる一線、其他西貢を中心とする小鐵道を合し、延長哩數は一千四百八十五哩であるが、この外に國內の河川運河と沿岸航海とにより、交通運輸の便は相當に開けてゐる。國內道路の改良も次第に行はれつゝある。

日本人の史蹟

日本との關係

日本と安南との交通上の歷史は可なりに舊い。從つて安南に於ける日本人の史蹟が近年次ぎ〳〵に發見されて興味ある話題を提供しつゝあることは前に述べた通りであるが、寬永九年正月九日、肥州の住人森本右近太夫一房が、千里の海を渡り、アングコル・ヴアットの大伽藍に詣で、中廊の大石柱に親族の冥福後生を祈願する旨の落書を留めてゐることが、近頃發見されたのなどは、日安交通の昔を回顧する上に於て甚だ意義深き事實である。まして安南には昔各所に日本人町が存在してゐた程、日本人が澤山行つてゐたのであつて、それらが鎖國政策のため遂に自然に消滅するに至つたとはいへ、當時の日本人が安南民族の中に遺した血液は、後代の安南人の血管中にも依然として流れてゐる筈である。その點に於て日本と安南とは特殊の因緣を存する譯で、この地に於ける古い傳說等を尋ね求めて行けば一層吾人の興味を刺戟するも

安南志士の來朝

のが現はれて來るであらう。

明治十年代、米澤の人海軍大尉曾根俊虎なる人、東亞の大局を想ふて興亞會を起し、同志と共に大に亞細亞經綸の策を講じつゝあつたが、當時佛國の安南侵略の手が伸び來るや、亞細亞のために憂慮措く能はず、同志と共に安南後援を策し、當局の忌諱に觸れて投獄されたやうな事件があつたけれど、其後久しく我が國民の安南に對する注意は冷却してゐた。然るに明治三十年代から安南の志士潘是漢等が皇族疆樞侯を戴いて國内の同志を結束し、獨立計畫を進めてゐた折柄、日露大戰に於て日本が大捷したとの報道達し、之がために安南志士が國家の獨立を圖らんとする熱望は一段と盛んになり、「今、日本は露國を破つて新に强く、或は全亞細亞振興の志もあらうから、日本に赴いて同情を求むれば軍器を借り若くは之を購ふこと必ずしも困難ではあるまい」といふので、潘是漢は支那商人の姿に變裝して安南を脱出し、明治三十八年四月後援を求めるために初めて日本に來朝した。當時支那の梁啓超が横濱にゐたので、彼は梁にたよつて日本の有志家との接觸を計つた。潘は初めて國外に脱出して日本の偉大なる進歩と發展とに驚き、同志を日本に送つて頭腦眼光を一洗せしむるの急務を痛感すると共に、軍器を手に入るゝことの至難なるを知つて、滯在僅に數ヶ月の後再び安南に歸り、新に見聞した所を同志に告げて將來の計を講じた上、同年十月又もや日本に來朝した、當時安南の青年志士も相次いで來朝し、振武學校、同文書院等に入學する者があつたが、潘は「遊學を勸むる文」(勸遊學文)を草し數千部を印刷して窃に故國に送り安南青少年の日本留學を鼓吹したので、安南を脱走して日本に來る者は漸くその數を增加し、疆樞侯も國を脱して日本に來朝した。日本留學中の潘是漢は「海外血書初編」「新越南記念錄」「越南史考」「海外血書續編」等を著述して反覆數千萬言、沈痛淋漓の健筆を揮つて之を印刷に附し、故國に密送して全國々民の愛國心を鼓舞振作するに努め、次ぎ〳〵に來朝する留學生のため經費調達の途を講じた。潘伯玉、譚國器、鄧子敏などゝ稱する安南の俊秀が來朝したのも此頃で、明治三十九年から四十年に掛けては命懸けで危險を冒しつゝ支那の廣東廣西に來る者が可なりの數に達し、香港には越南商團公會なるものが設けられ、それが遊學生の斡旋、文書金錢の受授を初めとし越南國民黨の秘密事務所となつた。日本では犬養毅氏を始め在野黨の有志が陰に之を助けつゝあつたが、明治四十年から四十一年頃が東京に於ける留學生の最盛期で、其頃新越南公憲(安南憲法)も制定され臨時假政府の輪廓も漸く出來た。

留學生相次で來る

斯くの如き日本との接觸によつて起つた新風潮は忽ち安南の國内に於ける民心にも活潑なる

佛國官憲の抑壓

影響を及ぼして、安南では佛蘭西軍人毒殺事件や、租稅不納同盟の運動等が發生したので、佛國官憲の越南國民黨に對する抑壓取締は頓に嚴重となり、巨額の費用を支出して一部の安南國民を買收し、多數の密偵を放つて國外留學生の行動を調査し、それらの留學生の父兄親族を逮捕投獄し、遂に金錢書信を發送するの途を奪つてしまつた。

陳東風

留學生の大部分は東亞同文會の經營せる東京目白なる同文書院に在學し、孜々として研學に從ふ傍ら頻りに兵式體操等を行つて家國恢復の志を勵ます所あり、幼きは十歳前後より長は三十歳に近き學生まであつたが、留學生は益々增加する一方であるのに右の如き事情により故國よりの送金を杜絶され、その經濟的事情には一抹の暗雲の漸く濃くなり行くをどうすることも出來なかつた。一行中の陳東風と稱する青年は安南々塘縣第一の富豪の息で、年少時代より潘是漢等の獨立運動に共鳴し、夙に潘等の窮乏を救ふ所があつたが、この經濟的不安の中にあつて陳は家產を投じて全留學生の急に應ぜんと志し、百方その策を求めたが遂に故國からの音信に接せず、慷慨淋漓、國亡び黨困み、同志大に艱む、この時に當つて吾が家は巨富を擁して同志を救ふ能はず、家信の來らざるは父の鄙吝に因るやも測り難い、斯の如くにして何ぞ男子の面目を保ち得んやと、死を以て父に出資を勸むべく、憐れにも一篇の遺書を留め、小石川目白臺の或る寺院に入つて自殺を遂げた。之は明治四十一年五月の出來事で、陳東風はその時二十一歳であつた。焉んぞ知らん家信の到らざるは父の無情のためではなくて、總ての書信が佛國官憲の押收する所となりつゝある結果であつた。今も雜司ヶ谷墓地の老松の下には「同胞志士陳東風之墓」と刻んだ一基の石碑が弔ふ人もなく年々に苔の綠をのみ加へてゐる。

禁止的關稅

其後間もなく佛國政府は日佛協約に基き、我が政府に對して一行中の首魁の引渡と在留學生の解散を要求したので、可惜此等の有爲なる青年達も、危險の身に迫るを知つて忽ち四散し支那方面へと退去してしまつたのである。

兩國の通商關係に就ては、安南の一般民衆は日本に對し好感を持つてゐるけれど、佛領たる關係上、經濟上の實權は佛人の手に存し、佛國人たる政商が佛本國を動かして、日本商品に對し殆ど禁止的の高率なる關稅を課してゐるため、我國は近距離にあるに拘らず通商上の發展を妨げられてゐる。

佛領印度支那關稅問題は日佛間の二十餘年來の懸案で、佛國側は日本政府の年來の解決要求に對し、頑として交渉に同意しなかつたものであるが、佛國政府は他の諸國に對しては、一九二九年以降商品の全部若くは一部に對し最低稅率の特典を附與してゐるに拘らず、唯だ日本と支

報復關稅の途あるのみ

那にのみは全商品に對し禁止稅同樣の最高稅率を賦課してゐるため、我が輸出貿易は年々減退を來し、今や全面的總退却の窮地に陷つてゐる。日本政府從來の交涉方針は英獨と同樣に最惠國約款を要求し來つたのであるが、佛政府の强硬なる態度に鑑み、最近に至り方針を變更して特定商品に對して合理的な互惠稅率を設定するといふ程度にまで讓步したに拘らず、佛國政府は依然として不同意を唱へ交涉に應じないので、我が外務省も近頃に至り報復關稅賦課といふ非常手段を取るに決したやうである。斯くなると、每年印度支那から日本に輸入する東京の無煙炭が年額五百萬圓といふ巨額に達してゐるだけに、これには在印度支那の佛國資本家の受くる打擊が大であるから勢ひ反省せざるを得ないであらう。彼我の貿易額を示せば次の通りである。（單位圓）

	輸出	輸入
昭和四年	二、六九五、四〇三	九、五九〇、五八七
同五年	二、四一二、四五七	七、九〇七、二八四

○主なる會社商店　本店又は支店を設けてゐる重なる日本の會社商店は、河內に貿易及雜貨商下村洋行、西貢に寫眞及雜貨商森瀨商店、陶器雜貨販賣及貿易を營む鹽田商會がある。

○在留邦人　河內總領事館管內に百六十九人、西貢領事館管內に百三十四人、合計三百二人の內地人が在留し、この外に朝鮮人六十七人、臺灣人十八人がゐるが、內地人の職業狀態は、農業畜產關係の業に從ふ者三人、同勞働者十四人、飲食料品嗜好品製造二人、物品販賣業十九人貿易商六人、會社銀行商店員三十四人、旅館料理店其他之に類する者九人、理髮業浴場業等五人、官公吏七人、敎育關係者、醫務關係者各一人、美術家寫眞師等五人、其他自由業八人である。

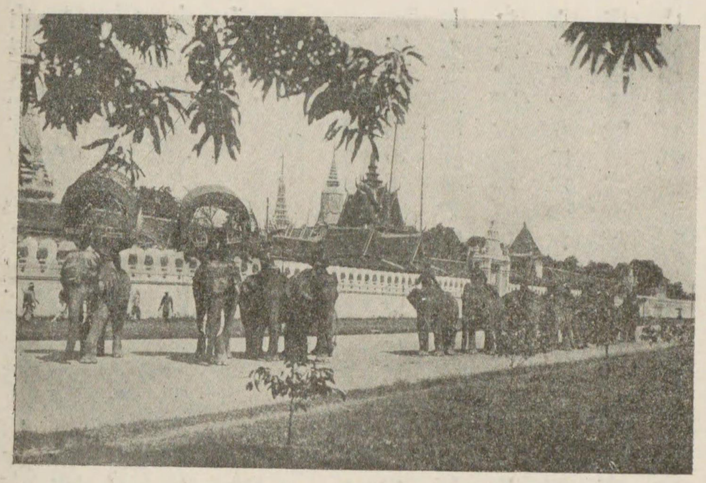
支那と安南の關係

歷史

安南が殆めて支那の史上に現はれたのは堯の時代で、その頃は國號を南交と稱してゐた。久しく支那に屬し、秦の始皇帝が天下を統一して郡縣の制を布くに及び、この地方を象郡と稱したが、唐代（西曆六七九年）に安南都護府を置いてから安南の名が始まり、その名を以て世に知られるやうになつた。十世紀の中葉以來、丁、李、陳、黎等の諸氏が交々王朝を建て、その都度國號を改めて大越、大南、天南、廣南などゝ稱し、時に支那に貢を納れて名義上藩屬の地位に立つたけれど、實は自ら治めて獨立的の存在を保つてゐた。黎氏が衰へて後阮氏が興り、阮氏の時代に新阮舊阮が對立して內爭を生じたが、舊阮中興の祖たる嘉隆王が新阮を滅して國內

を統一し、更に高棉（カオマン）、哀牢（アイラオ）（東甫寨、老過）の地を併合して國號を越南と呼んだ。その時代は安南の版圖が最も擴大された時代で、國勢愈々振ふべく見えたが、この頃から歐洲の勢力は漸く東洋を搖撼するに至り、越南も遂に佛蘭西の領有に歸すべき運命を餘儀なくされた。

佛蘭西は一六六四年佛蘭西東印度會社を創立し、新領土を獲得のため探檢家を東洋に送つたがシャベリエーなる者が一六八四年始めて印度支那の東京に派遣され、更にその翌々年にはヴエレーが交趾支那に來り、崑崙島を商館設置の適地と認め愈々之を手に入れるべく畫策したが、當時佛蘭西本國に內亂が發生した爲め一時之を中止した。その後六十餘年を經て佛蘭西の植物學者ボアブルが渡來し、



東甫寨の王宮　東甫寨の王樣は圖の如き壯大な宮殿の中に住んでゐる、公式の囱簿には象が乘用に供されるが、近頃王の乘用自働車が購入された。

佛の禍心漸次に實現す

之が調査報告を發表するに及んで佛蘭西爲政者は安南に對する野心を深くするに至つた。

○當時安南では王室に內訌を生じ、阮福映と阮文惠とが相爭ひ、阮福映が戰ひ敗れて暹羅に亡命してゐたが、一方佛蘭西は印度に於ける爭奪戰に於て英吉利に制せられ、到底印度に力を伸ばす能はざるを感じ、頻りに新植民を物色してゐた時とて安南の內爭を利用して力を印度支那に伸ばさんと欲し、ゼスイット派の宣敎師ペニヨーの發議に基き、ペニヨーを阮福映に接近せしめ、國家恢復計畫の援助を建議せしめた。阮王はこの甘言に誘はれて一七八四年皇太子景を巴里に赴かしめ、佛安密約を締結して佛蘭西の援助を得ると共に、ツーラン島の貸與並に崑崙島の割讓を約した。これ佛蘭西が印度支那に魔手を伸ばすに至つた發端である。この密約は佛蘭西の革命により調印を了するに至らなかつたが、一八二六年以後佛蘭西はこの密約案を提示して頻りに安南に實行を迫り、之が拒絕せらるゝに及び、宣敎師が安南に於て危害を被つたのを口實に西班牙と聯合して軍を進め、武力を以て威嚇を試みるに至つた。安南は佛西聯合軍と交戰すること三年餘にして遂に力盡き、一八六二年西貢媾和條約を結んで南邊三州と崑崙島とを割讓し、ツーラン外二港を開港するを約した。

安南の社稷遂に空し

斯くして佛蘭西は乘ずべき機會のある每に武力を以て安南を强壓し、一八七四年には安南に

對する宗主權を獲得し、やがて又支那と戰つて支那をして安南に對する佛蘭西の宗主權を認めしめ、着々野望を遂行して一八八七年遂に交趾支那、東京、安南、東甫塞を合せて佛領印度支那と稱し、佛蘭西總督をして之を統轄せしむるに至つたのである。越南に於ける阮氏の社稷は實にこの時に至り全く覆つた。

佛國の保護下に立つやうになつてからの安南は、歷代の王が唯だ虛位を擁するだけで、佛國の苛酷なる壓制政策により人民の利福が全く無視せられるので自然に反抗的運動が釀成され、今世紀の初頭から家國の恢復を圖る志士の活動が始つた。一九

彊槇侯

潘是漢と畿外侯

〇三年には安南の志士潘是漢が、安南中興の英主嘉隆王直系の王族として國民信賴の的となつてゐる畿外侯阮福彊槇を奉じて國民黨を組織し、窃かに獨立を謀つたが事未だ熟せざる內に佛

回天の業屢々敗る

官憲の知る所となつて彈壓を受け、明治三十七年黨命を奉じて日本に來り、支那の亡命客梁啓超等と會して家國恢復の計畫を謀る一方、日本民間の志士と交つて佛國治下に於ける安南の實情を訴へ、やがて彊槇侯も本國を脫出して日本に來り、更に相次いで幾多の青年志士も日本に亡命し、一時東京は安南志士の一根據地となつた。佛蘭西も之を知つて非常に警戒してゐたが、偶々日佛協約が新に成立した當時だつたので、日本政府に對し安南志士の引渡しを要求するに至つた。之がために彊槇侯、潘是漢等を始めとして安南の志士は殆ど悉く日本を追はれて支那方面に去つてしまつた。

爾來潘是漢等は東西に奔馳して同志の結束に努め、安南再生の計畫に生命を打込んで、明治四十五年には支那の廣東で越南光復會を組織し、潘は推されてその總理となり、「越南光復軍方略」を定め、「越南光復軍々票」をも作つて安南擧兵の準備を進めると共に、廣東方面の支那有志と聯絡を取り、「振華興亞會」を組織し、安南を恢復することゝ支那の强大を計ることゝを結び付けて勢力の增大を期した。偶々廣東に兵變が起つて龍濟光が廣東省督軍となるに及び佛蘭西官憲の意を承けて潘以下一味の幹部を逮捕投獄するに至つたが、潘は海南島に連行された機會に乘じて危地を脫し、歐洲大戰が起ると共に多年國の內外に雌伏してゐた愛國志士は踴躍して

機到れりとなし、安南獨立の叫びを擧げ、國民も亦之に呼應して事を起したけれど、何れも佛國官憲のために鎭壓され、一九一五年には順化に於ける獨立の陰謀が摘發されて幾多の志士が峻嚴なる處刑を受け、越南第十一世維新王は廢位されて南印度洋の孤島に流謫の身となつた。第十二世哲定王は在位十年の後、一九二五年歿し、現在は第十三世保大王が位にあるが、王とは名のみで遠く巴里に客寓し、佛蘭西の監視の下に身を處してゐる。國民黨の巨頭潘是漢は支那に在つて故國の志士と連絡を取りつゝ畫策に努めてゐたが、大正十五年上海に於て佛蘭西官憲に捕はれ、河內に送つて投獄された。當時安南の工商團體及び青年學生は之がために各種の示威運動を起し、佛蘭西總督に特赦を要求したので、佛蘭西政府も已むを得ず出獄を許し、順化に住居させて監視に努めてゐる。歐洲大戰後も安南に於ては反佛運動が繰返され、その度每に峻嚴なる法律により多數の安南人が極刑に處せられたが、反佛運動は之がために毫も衰へないで、一九三〇年には一層大規模の動亂が起り、或る地方が革命軍に占領されたり、佛軍駐屯隊の將校以下に尠からざる死傷者を生じたり、在留佛人中には故國に避難する者があつたりする程の大事件となり、一旦鎭靜後再び動亂を勃發するなど、佛國官憲をして心膽を寒からしめた。現在は鎭靜を保つてゐるが、國內は尙ほ不安の情を帶びてゐる。

近時の不安

佛國の統治政策

苛斂誅求

政治上の地位

佛國の印度支那に於ける統治の成績は、唯だ二千萬の被征服民族をその權力下に拘束してゐるといふ以外に殆ど成功と稱すべきものがない。勿論、經濟的には印度支那の產業が或る程度まで開發され、それに對して佛國の搾取が行はれ、佛國はそれによつて利益を占めると共に、この地を足場として東洋に進出する便宜を得たに相違ないが、宗主權をこの地に打建てた當然の任務として被保護者たる安南民族の福祉を增進すべき所以の道に至つては全く捨てゝ顧られず、寧ろ虐政と稱すべき苛酷な統治方針に終始してゐる。之は異人種たる安南民族が永く佛國の統治下に在るを甘んぜず、早晚獨立運動を起すべきを見越して、出來得るだけその覺醒を妨げ、經濟的にも知能的にも無力な狀態にあらしめやうとする方寸に出でたものであるが、さうした人間的慾望を無視した政策が終局の成功を贏ち得べき筈もなく、遂に今では民族的反抗に脅えざるを得ない事情に立到り、豫て優秀なる植民政策を誇りとした佛國としては、印度支那に關する限りその誇りを捨てなければならぬ破目に陷つてゐる。試みに佛國の印度支那に於ける統治方針を一瞥すると、先づ目に付くのは甚しい苛斂誅求の政策であつて、印度支那の人民

は滿十七歳以上六十歳までの者が悉く人頭稅を課せられ、其他凡そ課稅せらるべき目標となるものについては殆ど漏らす所なく、結婚や葬儀に對してすら課稅せらるゝことゝなつてゐるに至つては、全く人民をして寸毫の經濟的餘力をも留めしめざる搾取の組織である。又、國民は國外に出づることを禁止されてゐるのみならず、國內に於ても五十里以上の旅行を禁ぜられて居り、刑法に於ては「二人以上その行爲を商議すれば之を陰謀として放逐の刑に處す」といふ如き規定を設けて言論集會の自由を奪つてゐるのである。斯の如き有樣であるから大多數の人民は極めて貧窮なる狀態に置かれ、文化に遲れ知識に惠まれず、唯だ戰々兢々として佛國官憲の監視の下に亡國の悲みを嘗め、國全體を擧げて甚しく陰慘の氣に滿ちてゐる。然るに時勢の潮はこの禁獄のやうな國土の中にも流れ込んで、種々なる秘密結社を生じ、或は革命黨と稱する一團となり、或は越南國民黨と稱する結社となり、現在では凡そ次の如き五派の團體が發生してゐる。

解放を目指す團體

一、革命黨、二、越南國民黨、三、越南青年革命同志會、四、東洋共產黨、五、越南共產黨

之れらの諸團體はその中心思想とする所に於て各々特色を持つてゐるが、佛國の統治から離脫して、安南の獨立を圖らんとする根本要求に於ては一致してゐるのであるから、これが支那の國民革命の影響を受け、或は印度のガンヂー一派の獨立運動に刺戟されつゝ徐々に進展し來る曉には、暴壓的な佛國の統治政策に對して如何なる力を持ち來るか測られない。昭和五年春に起つた動亂に際し、佛蘭西軍は銀一千元の賞を懸けて、動亂の首謀者を逮捕若くは密告した者に與へる旨を公告したけれど、一名の密告者も現はれなかつたといふことであり、又當時エンバイ市の佛軍駐屯隊が安南革命黨に襲はれた際にも、佛軍中の安南兵士は革命軍に投ずる者が相次ぎ、然らざる者も騷ぎに乘じて逃走するといふ有樣で、革命運動には總ての者が、消極的にもせよ積極的にもせよ、兎に角共鳴してゐることが立證され、佛蘭西側に尠からざる脅威を與へたのである。

安南人兵士の行動

現在印度支那には、植民地步兵二聯隊、騎兵二大隊、東京警兵四聯隊、安南警兵一聯隊、以上計二十三箇大隊の外、植民地砲兵二聯隊(十三箇大隊)、工兵二中隊、技術兵二中隊、タンク二半小隊、自動車二半小隊が常備されてゐる上に、必要に應じては佛本國から增兵するから、斷片的な動亂によつて獨立を謀つても到底目的を遂ぐる可能性はないが、さうした動亂の裡に漲る民族的の解放精神が種々の形で現はれつゝある間には、如何なる事態にまで進展するか、輕々に豫斷することを許さないのである。この意味からして佛領印度支那の政治上の地位は前

途頗る多事なるべきを想はせる。

風俗

特色ある服裝

○服裝　安南人は大概代赭色の木綿の筒袖の上衣に男はズボン、女は袴を着け、赤、綠、紫又は黃色など各自好み〳〵の帶を前結びにしてその兩端を長く垂れてゐる。少しく身分のよい男子は白の上衣、白のズボンに黑の薄物を羽織り、黑い帽子を冠る。婦人も身分のよい者は派手な絹布を纏つてゐる。婦人の頭髮は束髮にして、その周りを鳶色の綿布で鉢卷のやうに包むのが習ひであるが、外出の時には頂の廣い扁平な笠を頂く。ラオスでは一般に男子は藍色の木綿の胴着にゆるやかなズボンを穿き、婦人は胸に幅廣の布を卷き付け縞目のある木綿の裳を裾長に纏つてゐる。

○住居　家屋は總て粗末で、通常屋根は椰子の葉で葺き、周圍はがら明にしたまゝで、內に土間がある。市街地では煉塼風の建築が多く、屋根も油瓦で葺き、田舍の家に比べると大分整つてゐる。村落では盜賊を防ぐために村の周圍に堤防風の圍ひを造り、その上に竹や樹木を植ゑ夜は入口の門を閉めるやうにしてゐるところがある。

ラオスの結婚式

○結婚奇風　ラオスの土人間には結婚風俗に奇習があつて、婚禮の日に兩家から男女同數の老若が、酒肴野菜などを籠に盛つて新婦の家の前に集り、男組と女組とに別れて戰爭ごつこをする、男隊は新郎方、女隊は新婦方となり、男方は老翁、女方は老婆が指揮して、防禦軍たる女組は手桶、籠など手にして男組の侵入を防がうとするのを、男組は押切つて突貫する。かくして犇き合つた後男組が勝つと花婿は迎へられて新婦の家に乘込むのである。其處で式が擧げられた上、新郎は數日間新婦の家に逗留してから兩々相携へていよ〳〵男の家に歸つて行く。

プノムペンの婦人の結婚晴着　プノムペンの婦人の結婚の晴れ姿は彩色華やかだ。盛裝の時の式禮服で、左肩を露出なんこと來甫塞

○貪物　米飯を主とし蔬菜、魚類、雞、鶩を副食物にしてゐる。

世帶窶れの女

○氣質　安南人は思慮も乏しからず商工業を營むに足る能力を持つてゐるが、多年壓迫を受けて屈從を强ひられた結果、溫和で從順である半面には、陰險なところがあり、又博奕を好む風がある。ラオス邊では男子には怠惰な者が多く、女が一生懸命に働いて生活を支へなければならないので、既婚の女は見るもいたゝしく憔悴してゐる者が多い。

第四節　緬　甸

位置、面積、人口

緬甸は印度支那半島の西部を形成し、北は支那の雲南及び西藏に、東は佛領印度支那及び暹羅に、西は印度本部に、南はベンガル灣及び馬來半島に接してゐる。地勢は北に高くて南に低く、サルウイン(怒江)、イラワヂの兩大河が源を西藏に發してベンガル灣に注いでゐる。面積凡そ二十三萬一千六百方哩(六十萬方粁)、人口は約一千三百二十一萬である。

人種宗教

大部分が佛教徒

住民一千三百萬中約七百九十萬が緬甸人で廣く國内各地に分布してゐる。其他下緬甸の森林地方にはカレン人が住居し、イラワヂ河の上流から西藏の國境地方にかけてはカチン人が居り西部にチン人、東部にシャン、インタ、パラウングの各族が居る。又東北部にはワと稱する別派の種族が住んでゐる。宗教は佛教が最も盛んで住民の八割五分までは佛教信者である。回教、印度教を奉ずる者もあるがその數は少ない。

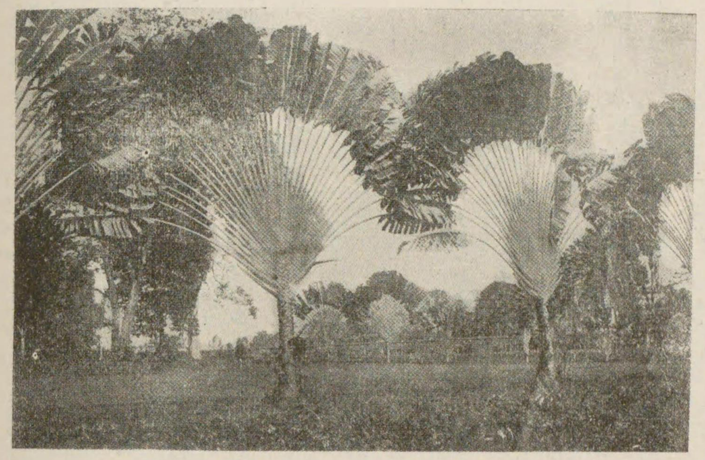
政治上の區劃

緬甸は一九二三年以來印度帝國の一州として統治されてゐるが、シャンを除外して七縣に分け(上緬甸三縣、下緬甸四縣)之を更に三十八郡に區劃し、州知事が統轄してゐる。立法州議會は百三人の議員から成り立ち、その内八十人が公選の議員で、二十三名は任命による議員である。南北シャンは英國委員の監督下に土侯が行政權を有してゐるが、一九二二年から土侯の聯合が成り土侯會議が設けられた。

都　市

米の蘭貢

首府蘭貢は人口三十四萬を有し、蘭貢河から二十一哩を溯つた地點にあるが、築港設備がよく整ひ、米の輸出は世界第一位にある。市内のシウエダゴン寺には釋迦の遺髮を祀り佛教徒の參拜する者が多い。マンダレーは緬甸の舊都で、現在でも上緬甸の要市である、人口約十五萬。サルウイン河口のムルメインはチーク材及び米の輸出港で人口約六萬一千を有する。



トラベラーツリー　孔雀が尾を張つたやうな形をなす化美層一物の風景を擴げ葉の緑に直垂のそ、木樹で所の緬甸は他に類を求め難い。

產業

住民の生業は農を主とし、耕地面積六萬方粁中の約七割二分は米田に充てられ、米の年產額は六百五十萬噸に達する。又、小麥、玉蜀黍、黍、莢豆、煙草、棉、胡麻、落花生等を

豐富なる產物

產し、鑛產物は石油の產出量に富む外に銀、錫、鉛を始めルビー、サフアイア、琥珀等の寶石類が採取される。工業は造船、織物、陶器、貴金屬細工、塗物、彫刻等に稍見るべきものあるも概して微々たる程度のものであり、工場工業としては精米、製材、繰綿、製油等が發達してゐる。林產としては優良なるチーク材を產する。

歷史

緬甸は支那の唐時代に驃國といつた地方である。其後元の時代に金齒、緬の二國となり、先づ金齒が元に降服し、次で緬も元の將軍納速剌丁のために征服された。然るに十六世紀の中頃、明の世宗の時代に莽瑞體といふものが緬甸の王となり、有爲にして武略に長じ、葡萄牙人を傭ふて近衞兵となし、盛に四方を侵略し、東は老撾や暹羅を破り、北は雲南にまで侵入して、明の朝廷を震駭させた。よつて明の世宗は劉綎を將として征討の軍を送り、遂に緬の國都阿瓦を陷れたが、この戰亂に乘じて白古部が叛を圖り、勢ひ猖獗を極め遂に阿瓦をも占領するに至つた。然るに緬甸に於ては別に雍籍牙が起つて白古部と戰を挑み、之を擊破して阿瓦を占領し新緬甸王國を建て、餘威に乘じて暹羅に侵入し、遂にその國都アユチヤを攻陷し、更に轉じて支

支那と緬甸の史的關係

那の雲南にまで攻入つた。時に支那では清の高宗が位に居り、傳恒を將として緬甸討伐に向はせたので、緬甸王孟雲は到底之に抗し難きを覺り、十年毎に一度清へ貢を納れることを約して和睦を講じた。暹羅もその機會に乘じて緬甸の兵をアユチヤから擊退し、新に國都を盤谷に奠めて國勢を回復した。

英緬戰爭

當時印度に於てはアッサムに内亂が起り、國狀が亂れてゐたので、緬甸はアッサムの鎭定を圖るといふ名の下に兵を出してその地方を占領したゝめ、アッサム王は英國に保護を請ひ、英緬戰爭が開かるゝことゝなつた。時に我が仁孝天皇の文政七年(西曆一八二四年)である。この戰爭に於て緬甸は英軍のために散々の敗北を嘗め、アッサム、アラカン、テナッセリムの諸州と償金二百萬磅を英國に贈つて媾和條約を結んだ。豫てこの地方を侵略すべき野望を抱いて畫策しつゝあつた英國に取つては、實に勿怪の好機を摑んだ譯である。其後、英緬の關係は險惡の狀態を持續し、嘉永五年(一八五二年)の第二英緬戰爭の結果、緬甸の南部は英國に割讓され、更に明治十八年第三英緬戰爭が起つて、英軍は長驅マンダレーに入り、緬甸王朝は滅亡して完全に緬甸は英國の領有に歸した。緬甸は一九二三年から印度の一州として印度政廳の管轄下に移されたが、印度の獨立運動とは懸け離れて被征服者たる運命の下に永く繫がれやうとしてゐる。豐饒の國土も國亡びて山河空しく存するのみである。

國亡びて山河空しく存す

印度と緬甸の關係

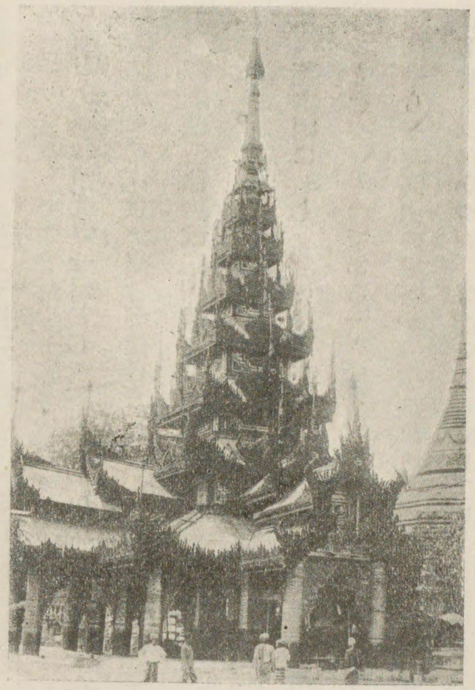
政治上の地位

緬甸は現に印度の一州として英領印度の統治下に屬し、行政上の組織は州知事の下に百三人の議員から成る立法州會が設けられてゐる。州内は七縣に分け、之を更に三十八郡としてあるが、印度統治法の改正問題と關連して將來緬甸を如何に處置すべきかは漸く重要問題化せんとしてゐる。昭和五、六年に亘つて開かれた倫敦の英印圓卓會議に於ては、緬甸代表者から「緬甸は英本國に　し愛着の念を有するものであつて、吾等は偉大なる英帝國の一員として發達せんことを望むものである」と述べ、結局緬甸を印度から分離するといふ原則を採擇したが、これは恐らく英國側の策略から生れ出でた案であつて、緬甸全民衆の共通意思と合致するものとは解せられなかつた。果然これに對しては印度國民會議派が反對を唱へ、昭和六年春の全印國民會議議事委員會に於ては反對決議案を可決するに至つた。何が故に緬甸分離案に反對するかといへば、英國が緬甸の分離を强制せんとするのは緬甸に對する英國の支配權を永久ならしめ、緬甸の石油と新嘉坡の軍事的設備とを結付けて東部亞細亞における英國帝國主義の堅壘たらし

英國の眞意

めんとする意圖に出づるものと解釋し、斯くすることが東方諸國を脅威する結果となるからいけないといふのである。だから印度の獨立を庶幾する印度の政治家は、緬甸も矢張り英領印度の一部として共に解放を圖るを以て上策とし、何處までも緬甸分離案には反對せんとするのであつて、その主張は甚だ合理的であり、且又印度獨立の將來に取つて重要なる關係を持つてゐるものといはなければならない。

尙ほ緬甸と支那との接壤關係は「支那の政治上の地位」に於て述べた如く極めて尖鋭なる利害によつて對立し、緬甸の方面から伸びる英國の侵略的壓力は甚だ强く働いてゐる。滇緬鐵道が豫定の通り敷設され緬甸國境を越えて揚子江の中流を扼することゝなり、



ビルマの佛塔　緬甸人は佛塔の建立を最も尊い奉仕と信じてゐるのである。この大佛塔は高さ二八八フイートの壯麗極まるもので、緬甸の代表的建築物である。

英國の軍事的並に經濟的の勢力が容易に支那の中原に及び得るに至れば、その及ぼす所の影響の如何に至大なるかは言はずして明である。この關係からいへば緬甸が印度から分離して永久に英國の支配下に立つか、それとも印度と共に獨立して亞細亞の同胞たる一國になるかは、結果において非常なる相違を呈する。印度の國民會議派の政治家がいつてゐる如く、新嘉坡の軍事的設備と緬甸の石油とが結付けられて、帝國主義的目的のために利用されることは眞に東方諸國の脅威でなければならぬ。この意味からして緬甸が如何に處置されるかは重視すべき價値を多分に持つてゐる。

交　通

鐵道は蘭貢から起り一はイラワヂの谷をブロームまで走り、一は北走してマンダレーに達し、こゝから分岐して北の方ミイトキイナに達するものと、東北走してクンロンに達するものがある。又蘭貢＝ミイトキイナの幹線には中途からムルメインに赴く支線と、バモに達する支線がある。支那に伸びやうとする滇緬鐵道はすなはち此のバモ線を延長して雲南に入る豫定の下に計畫されたものである。

日本との關係

日緬貿易の現狀

緬甸は所謂蘭貢米の產地として多量の米を日本に輸出し、又造船材料としてのチーク材を日本に供給してゐる。日本からは綿布類、莫大小、タオル、陶磁器、化學製品、塗料、絹織物、雜貨等を輸出し、最近一ヶ年の貿易額は日本からの輸出二千七百九十萬ルーピー、緬甸からの輸入四千百四十萬ルーピーで、逐年增進の趨勢を示してゐるが、對緬貿易收支勘定は常に日本の輸入超過となつてゐる。在留邦人は四百八十九人を算し、主なる會社商店は蘭貢に三井物產支店、山田洋行、大信貿易商會、蘭貢燐寸製造所等がある。

尙ほ昭和六年三月の外務省通商局發行海外經濟事情所載の對緬輸出貿易の振興に關する在蘭貢帝國領事館の報告は甚だ參考となる點が多いから、その一節を茲に紹介する。

一望無涯の耕地

『緬甸は其領域略ぼ我日本帝國全土に比敵し、地勢概して平坦廣濶、我日本全國の耕地よりも猶ほ廣大なる一望無涯の耕地茲に展開し、河川縱橫に貫流し自然に灌漑舟楫に便に、雨量熱量共に豐富にして氣候農耕に適し、又日本本土よりも廣大なる大森林あり、而して此大森林は緬甸及暹羅にあらざれば他に其產出を見ざる無比の造船材料チーク其他の良材を潤澤に包藏し、又石油、鉛、錫及ウルフラム等の良鑛に富み、又蜒々一千餘浬に亘る沿海及大河竝湖沼には水產豐富なるあり、其天惠の豐富饒多なる垂涎禁じ難きものあり。若し文化と覇氣とを以て之が開發に力めん乎、緬甸は農、林、水、畜、鑛產國として資源を天下に競ふに到るべきが、其開發遲々として未だ進まざるも、徐々に進步しつゝあるを以て其經濟的發展の將來は大に刮目に値すべく、從つて緬甸との貿易の前途も亦大に囑目するに足る。緬甸は石油、鉛、錫及ウルフラムに富むも、鐵、石炭に惠まれず、國人亦た智能勤勉の稟賦に乏しく、且資本に惠まれざれば、近代的製造工業國としての發展の見込甚だ薄く、自然農業に立脚せざるべからざる國情にあり、現に米作が國民經濟の生命をなし、而して日本としては將來緬甸より米、木材、棉花、鉛等各種の工業原料を輸入すること益々大となるに至るべく、之に對し日本は緬甸に對して工業製品を輸出し居れるも、現在は緬甸よりの輸入に偏重し、彼我貿易收支關係より之を觀れば我れに頗る不利なる狀況にあるも、原料輸入は我國の國民經濟上極めて重要なる事項であり、必ずしも輸入抑制の要を認めざるを以て、我方としては輸出方面に一段の努力を拂ひ貿易改善の實を擧ぐべきなり。元來日本の工業製品の販路は之を歐米諸國の先進國市場に求むるよりも、寧ろ工業の發達我よりも遙に幼稚なる後進國に之を求めざるべからざるが、緬甸は恰も我が希

農に立脚する經濟

最有望の市場

望する販路として中華民國、印度、南洋諸國、波斯、亞弗利加と共に將來最有望なる市場の一なり。緬甸に對する日本綿布の輸出が既往十四年間に於いて、量に於て六十二倍し、價額に於て二百四倍し、綿ブランケットが二百六十八倍し、タオルが三倍し、琺瑯鐵器が六倍し、陶磁器が十倍し、硝子製品が四倍し、生地、染糸織各種綿布に於ては過去幾十年間に亘り緬甸市場を獨占し來れる英國の勢力を打破して英國の地位に取つて代り、莫大小、綿ブランケット、タオル、琺瑯鐵器、陶磁器、硝子製品の供給に於て各國中にて覇を稱し居れり。我が對米輸出が八億六千萬圓の巨額に達し、輸出全體の四四%を占むと雖、其殆ど全部が唯一の生糸に依つて占められ、生糸以外の工業製品の輸出は所謂九牛の一毛だに過ぎざるものとは大に其趣を異にし、對緬甸輸

緬甸の雨祈ひ　緬甸では降雨があるとる雨祈ひの祭禮を行ふ。其時には裸體になつて踊をするのが天へ捧げる感謝のしるしとしるされてゐる。

朝野一致の努力を要す

出は前記の綿布、莫大小、綿ブランケット、タオル、琺瑯鐵器、陶磁器、硝子製品の外に、輸出金額は未だ少額なるも兎も角一萬留比を超ゆる各種の工業製品約五十種の多きに達し居れる事實に徴し、如何に我工業製品が緬甸人及印度人の嗜好、趣味及財嚢に至適せるかを知るべく、同時に對緬甸輸出の振不振が如何に我工業界の各方面に影響を波及せしむるかを知るべく、從て我工業及輸出の全般的且平衡的繁榮、卽ち健全なる發達と國際貸借の改善を企圖するには是非とも中華民國、印度、南洋竝に緬甸方面に對する各種製品の輸出振興を圖らざるべからざるや今更贅言する迄もなき所なるが、關税の障壁あり、各國の競爭あり、事甚だ容易ならず、朝野一致の努力に俟たざるを得ざるが故に、吾人は我が朝野が此方面に我國運の進展上甚深の關係あることに想到し、不斷の注意を怠らざらんことを切望す。我對緬甸輸出が今日迄急進的發展を繼續し來りながら、猶且緬甸全體の輸入の僅々六%六を占むるに過ぎず、又印度の五分の一、英國の四分の一に過ぎず、而も我國が緬甸より輸入する所のものゝ六〇%に過ぎず、英國が緬甸より購ふ所の倍額以上を供給し、莫大なる貿易上の差益を收めつゝあるに反し、我國は反對に莫大なる差損をなしつゝあり。我國の供給率の少き丈け其れ丈け、我が熱心努力如何に依ては販路開拓の餘地十分に存し、一層努力の必要あり又價値あることを切實に認識し、彼我

の經濟的發展卽ち共存共榮の實を增大せしむべき有效適切なる方策を眞劍に且不斷に敢行せんことを翹望す』

○在留邦人職業狀態　農耕園藝畜產業三、同勞働者四、森林々產物業六、同勞働者二、漁業製鹽業八、同勞働者二三、化學工業三、洗濯染色業二、飲食料品製造業一、被服裝身具製造一、工場勞働者八、物品販賣業二三、貿易商二、會社銀行商店員六七、旅館料理店等三、理髮浴場業八、其他の商業一、官公吏雇員三、醫務に關する業二一、美術家寫眞師等二二、其他の自由業五、家事被傭人二三等である。

風俗

緬甸人は一般に輕信で、迷信の風があるが、一方又信義を重んじ、從順で、服從心に富んでゐる。殊に他國人に比して目立つ處は氣輕に、始終愉快げに、ニコ〳〵してゐる事である。女は非常に優さしく、禮儀が正しくて、粗暴の擧動がなく、又なか〳〵の働き手である。農作始め外の事は主に女の務で、男は家に殘つて勝手元や臺所の仕事をする。女は又算盤とつての懸引も上手で、二十歳前後の女の活動振りは、有髯の男子も敵はない位である。唯だ國民として

男女の地位の顚倒

簡便なる服裝

の缺點は進取的氣象と學問の力の無い事である。

○服裝　緬甸人の服裝は至つて簡便で、人好きのする物である。男は幅二尺四五寸長さ三丈近い腰卷を卷いて、其の上に無地の木綿か又は絹のジャケツトを着てゐる。頭の髮は綺麗に梳つて絹の手巾（ハンカチーフ）で飾つてゐる。女の腰卷は幅が廣くて、恰度西洋婦人の袴の樣に見える。又頭を包まずに手巾を肩からふわりと掛けてゐる。尙一般に婦人は化粧に注意して、『サンカ』と云ふ香の芳ばしい木皮の粉を水で練つて體や顏に附け、頭髮は椰子油で艶をつけてゐる。

緬甸美人　彼等の服裝は上は支那服風で、袴は華美な地布で出來てゐる。傘を差してゐる風姿は洒落たものである。

○住居　近來敎育が普及し、且つ東西の人と接觸し出した結果、だん〳〵舊慣を脫して、家屋

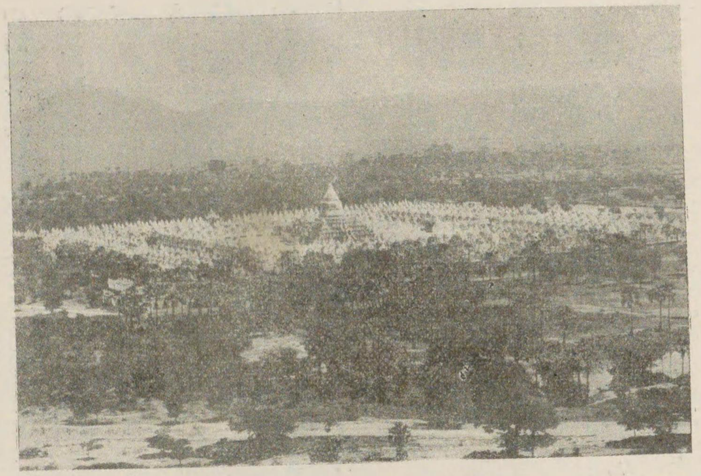
誕生と教養

も先祖傳來の竹舍は日に增し跡を絕つて、今では大方は煉瓦造りか又は木造に變つてしまつた。從つて取り立てゝいふ程の特長が無い。

○誕生　緬甸の誕生式は歐羅巴に似てゐる。生れてから七日目に命名式を行ふが、其名は運命表に據つて僧侶が附ける。男兒なればモンアンとか、モンゴークとか、女兒なればマーエミとか名づけて、其後何度でも取替へる事が出來る。

男兒は八九歲になると、最早愉快な腕白時代は過ぎて、是非とも修學の爲に寺院へ遣られる。學課と云つても簡單なもので、讀書と數學の初步に過ぎない。一二年すると自宅へ歸つて來て、やがて十二三歲になると、沙彌の黃衣を身に着ける。此着衣式を『シンビュー』と稱へて、誕生や葬式に次いでの大禮式になつてゐる。黃衣は謙遜を意味する法衣であつて、之を着けた彼等は續いて托鉢の生活に入つて、經文三昧の中に短くとも七八年、永いのは十四五年の日を送る。

緬甸では文身も亦兒童の一儀式で、運命表に照して吉日を撰んで之を施行する。文身は普通腰から膝の下へかけて行つて、胸や腕や脊や其外にする者は甚だ稀れである。婦女子には文身の式はないが、貫耳式を以て女子最初の吉禮としてゐる。此式には親類緣者友人等を招んで茶菓を饗應し、談話音樂等が一としきり濟んだ時分に、式の主人公の女兒は華やかな服裝をして



マンダレーの四百五十塔　マンダレー市の北東丘上に建てられた大黃金塔を中心に多數の塔が立林する名有な四百五十塔は實際の數が四百五十以上に及ぶといはれ壯觀大一を呈してゐる

其の席に出て來る。すると親類緣者が其の周りを取り卷き、貫耳者が時を見計つて、刀を採つて耳を刺すのである。

女兒は十三歲頃までは家事の練習の傍ら、讀書と算術（四則位迄）とを勉强する。

○婚姻　結婚の儀式は誕生や葬式に較べて却て輕く見られて居り、且つ毫も宗敎味を帶びてゐない。然し男女間の關係は嚴重である。青年は意中の女性を見出すと、先づ兩親に告げる。すると兩親は村の長老者と同伴して、女の家に行つて結婚を申込み、相手方の承諾を得ると、直ぐに結納の條件を取極めて置いて、三年の後に吉日を選んで、初めて結婚式を擧げる。式は二人が握手をしながら、相愛の印として一皿に盛つた食物を、互に口に移すの

である。式後夫婦は手を携へて、赤色に染めた米を撒き降らしながら花嫁の室に至つて、七日の間閉ぢ籠もる。尤も近年はその日數は減じたやうである。

○葬式　緬甸の葬式は少しくお祭趣味を帶びてゐる。屍體は家の一番手廣い處へ移し、胸から下を白無垢の布で蔽ひ、男兒か女兒かの髪の毛で足の指を結束する。又銀貨を口中に入れる事もある。それから棺に收めて釘附にして、村の西方に位する墓地に、僧侶の讀經の中に葬る。貧民は大抵死んだ翌日に葬るが、有産者は葬式迄の間が永く、又行列が華やかで、まるで祭禮の樣である。墓標は木柱を樹てるか、又は煉瓦石を積み重ねて築く。火葬した骨灰に鋸屑を混じて、之を松脂で固めて佛像を作つて、家の佛壇に安置するやうな風習もある。

第五節　馬來半島

位置、面積、人口

暹羅灣の西を限つて南に長く突出する半島で、北部は暹羅の一部をなし、南部は一帶英領である。面積は五萬二千八百方哩(十三萬七千方粁)、人口は四百五十六萬餘を算する。

馬來の統治方式

政治上の區劃

全體を皇領海峽殖民地、馬來聯邦、保護諸州の三に區分し、海峽殖民地には英國皇帝の代表者たる知事が在任し、この知事は馬來聯邦及び保護諸州に對しては高等委員として監督の地位に立つてゐる。海峽殖民地は新嘉坡、彼南、マラツカ、ラブアンの四殖民地から成り、馬來聯邦はペラ、セランゴール、ネグリスミラン、パハンの四州に分れ、保護諸州はケダ、ペルリス、ケランタン、トレンガヌ、ジョホールの五州に分けてある。政治機關として海峽殖民地は行政會議と立法會議を有し、馬來聯邦には聯邦會議があり、海峽殖民地知事が議長となり英國駐在官の指導の下に行政が行はれる。保護諸州では英國顧問官の參與により土侯が統治を行ひ外交權は一切英國が之を代行することになつてゐる。

優勢なる支那人

人種宗教

海峽殖民地に於ける人口の二分の一以上は支那人で、三分の一以上が馬來人、十分の一以上が印度人で、白人は僅に百分の一に過ぎない。馬來聯邦も五割六分が馬來人、二割七分强が支

那人、一割五分が印度人といふ割合で白人は僅少である。保護諸州では馬來人が壓倒的多數を占め、之に次で支那人、印度人といふ割になつてゐる。馬來人は殆ど全部回教を奉じ、同一人種中この地方に住む者は比較的文化の程度が高い。尙ほ半島全體では馬來人が四割九分、支那人が三割五分、印度人が一割四分といふ人口割合を示してゐる。

新嘉坡と彼南

都市

新嘉坡は海峽殖民地政廳の所在地で人口四十萬を有する大都市であるが、市民の七割が支那人で經濟的に最も勢力を占めてゐる。マラッカは人口二萬一千、ピナンは十三萬、クワラランプルは馬來聯邦の首府で、ゴム及び錫產地の中心を占め人口八萬を有する。ジョホールの首府ジョホルバールは人口一萬五千である。

交通

鐵道は新嘉坡を起點として半島西海岸に沿ひジョホール、ネダリスミラン、セランゴール、ペラ各州を縱走し、聯邦州の首府クワラ・ランプルを經て暹羅國境バダンブサールで暹羅國有鐵道と連絡し、別に東部線はネグリスミラン州ゲマスより分れパハン州クワラ・リピスに達してゐる。總延長二千百餘粁（千二百餘哩）を算する。半島內の道路はよく發達し、鋪裝道路だけでも三千四百哩以上に及んでゐる。

馬來の鳳梨園　馬來を始め南洋には一體に美味な果物が富豐である、パイナップルも亦南洋果物の代表的なもの一つである。

產業

ゴムの栽培を以て知られ、栽培法も大規模で植付面積二百二十七萬英反、投資額四億弗を超えてゐる。之に次いで錫の產額多く世界全產額の四割を占め、鐵鑛も年額一千萬噸內外を產する。その他コプラ（椰子の乾仁）、サゴ（椰子の一種、その果實から澱粉を造る）、籐、タピオカ、（カサヴァ澱粉）、甘蔗、茶、胡椒、香料、寶石、燐酸石灰、鳳梨、煙草、棉等をも產する。又沿

海漁業が盛で、將來益々有望とされてゐる。一九二九年度の輸出入總額は十八億三千萬弗を算した程で、土地狹小なるに拘らず、經濟上輕視すべからざる地位を占めてゐる。

日本の貿易上の地位

日本との通商關係

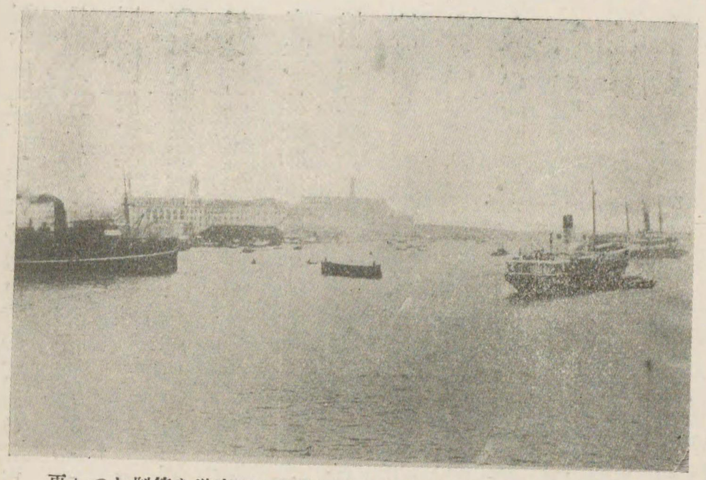
日本からは綿布、人造絹布、絹布、衣類、莫大小、乾鹽魚、罐詰類、小麥紛、セメント、石炭、金屬製品、硝子類、賣藥、自轉車及自動車部分品、糖菓、小間物化粧品、玩具、敷物等を輸出し、馬來からはゴム、錫、鐵鑛等を輸入し、可なり密接な通商關係を持つてゐるが、同地輸入額の全體からいへば、日本からの輸出額は僅にその百分の二・五を占めるに過ぎず、英國、支那、米國等に比し遙に下位にある。在留邦人は七千八百七十五人を算し、朝鮮人、臺灣人を合すれば八千人を超える。最近二年間の彼我貿易額は左の通りである。（單位圓）

	輸出	輸入
昭和四年	二七、九二八、三三九	四一、六三四、三〇一
同五年	二六、九三〇、九二九	二八、九二五、三六二

○主なる會社商店　新嘉坡には日本領事館を始め、日本郵船會社、大阪商船會社、正金銀行、臺灣銀行、三井物產、三菱商事等の支店や出張所あり、貿易業の千田商會、鑛業の石原產業公司等は內外人間に勢力を持つてゐる。又日本の商品陳列館も此地にあり、馬來全體に亘つては日本人の經營する護謨園が諸所にあつて、歐洲大戰中には非常に成功を示したが、現在では不振の狀態を呈してゐる。

○邦人職業狀態　馬來半島に於ける在留邦人は、夙に堅實なる經濟的地步を築き立てつゝあるが、その職業狀態を見ると次のやうな數字を示してゐる。農耕園藝畜產業七五、同勞働者六二、森林、林產物業八、漁業製鹽業二七、同勞働者八一二、採鑛冶金業七、窯業二、金屬工業一四、機械機具製造業九、化學工業一、洗濯染色業七六、竹木類製造業四、飲食料品嗜好品製造一八、被服裝身具製造一一六、土木建築業一〇、大工左官石工ペンキ職一一九、製版印刷業一一、學藝娛樂裝飾品製造業九、其他の工業一六、工場勞働者二四、物品販賣業一九〇、貿易商一二、金融保險業三、媒介周旋業一、會社銀行商店員一四二六、旅館料理藝妓業遊戲場興行場業二一三、藝娼妓酌婦四八〇、理髮業及浴場業一三七、其他の商業一一七、車馬業自動車運轉手一七、船舶從業者五三、運輸取扱業二四、官公吏雇員一七、宗教關係者一一、教育關係者八、醫務に關する業一五一、新聞雜誌記者通信員著述業一〇、美術家寫眞師等一三四、其他自由業二二、其他有業者二二、其他勞働者一五、家事被傭人五七三。

新嘉坡軍港の設備



シンガポールルー　シンガポールは英國が印度洋を制管し更に太平洋に進出し來る重要な足溜りであるこゝに大規模な軍港設備が出來て極東に一大威脅を與へるや日も亦近づきつゝある。

新嘉坡軍港

新嘉坡軍港は大正十二年英國の保守黨内閣時代に着手されたもので總工費は不明であるが軍港設備費七千七百五十萬圓、浮ドック費九百七十萬圓が豫算として計上されて居り、この外に重油貯藏所や航空設備費が追加されることになつてゐる。右の浮ドックは英國造船所で製造され、既に新嘉坡に回送されたが四萬五千噸の大艦を入渠させることの出來る尤大なもので、回送の際はスエズ運河で一時他の船舶の往來を止めて通過させたといふことである。軍港には造船所、浮ドック、重油タンク、無線電信臺を設け、重油タンクには百二十萬噸の重油が貯藏され、無線電信は英本國海軍省と一日中ぶつ通しに通信を交換し得る能力を有し、飛行機根據地は陸上機と水上機の敷地が六哩を距てた地點に別個に設けられ、海峽内に無數に散在する島嶼には絶對不可侵の要塞が築造される筈である。同軍港は香港との距離千四百浬であり香港と我が東京との距離は千五百浬であるから、共に驅逐艦潛水艦の行動範圍内にあつて我國に取つては非常な脅威である。英國では勞働黨内閣時代に屢々この海軍根據地の工事を中止するやうなことを口にしたけれど、事實は着々と工事が進められ豫定通り昭和十二年までに完成の筈である。

歐洲人の馬來爭奪戰

歴史

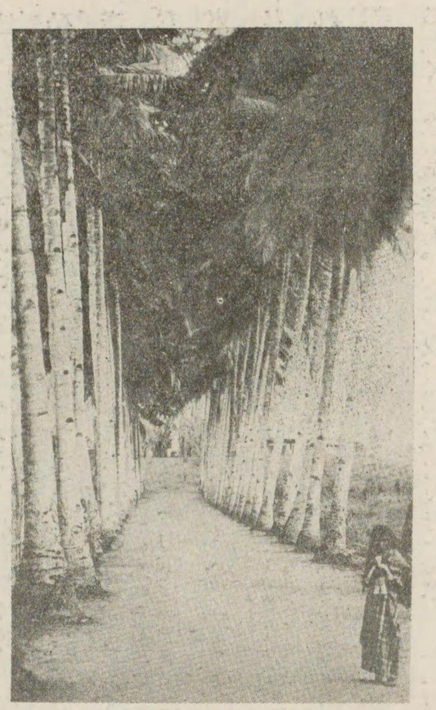
馬來半島に初めて歐洲人が足跡を印したのは、我が後柏原天皇の永正十二年（西暦一五一五年）葡萄牙人がマラッカ海峽の最狹部に當るマラッカ市を占領したのに始まる。マラッカは其後和蘭人の奪ふ所となつたが、十九世紀になつて遂に英人の掌裡に歸した。英人が最初植民地として選んだのはピナンで、我が天明六年（一七八六年）東印度會社の支店が其處に設置された。それより前、マラッカ地方には一つの王國があつて、古くから支那と交通し、西暦一四〇〇

年頃にはマラッカ王が支那に赴き、支那皇帝に謁見して、マラッカ王位の繼承に關し支那の承認を仰いだといふやうな記錄もあり、其頃、暹羅の來侵を被り、支那の後援を求めたこともあつた。葡萄牙人がマラッカを占領した後も、マラッカ王軍は屢々之を擊退すべく逆襲を試み、マラッカの王子中に機略縱橫、精力絕倫の人物があつて、非常に葡萄牙人を惱ましたが、一五二六年この王子が死去したゝめ、葡萄牙は始めてマラッカ附近を確實に占領することを得たのである。其後マラッカは東洋及び南洋の產物、特に香料の集散市場として諸人種が集まるやうになつたが、葡萄牙人は强ひて土人の基督敎化に努めた爲め回敎徒たる土人の反感を買ひ、和蘭人の現はるゝに及んで之に凌駕せらるゝ有樣となつた。和蘭は我が慶長十一年(一六〇六年)有力なる艦隊を送つてマラッカ海峽で葡萄牙艦隊を破り、其の餘威に乘じて徐々に勢力を伸ばし、一六四一年遂にマラッカを掌裡に收めた。其後和蘭本國に革命起るに及び、英國が之に代つて馬來に雄飛することゝなり、十八世紀の後半、キャプテン・ライトがピナンに據つて畫策に努めた結果、遂に牢乎たる基礎を固めるに至つた。然るにナポレオン戰爭後、一八〇二年英佛間に成立したアミアン條約により英國はマラッカを和蘭に還附することゝなつたので、當時スマトラ島ベンクーレンの副總督たりしサー・スタンフォード・ラッフルスはマラッカに代る新植民地

葡萄牙の失敗

ラッフルスの達見

を求めて諸所を探檢した末、新嘉坡の有望なるに着眼し、ジョホール王に交涉して僅に六萬ドルで之を買收した、時に我が文政二年(一八一九年)である。斯くして一八二六年にはマラッカと併合して初めて英領海峽植民地の名を冠し、爾來半島內の酋長國に權力を及ぼして、一八九五年馬來聯邦を構成せしめ、之を保護管理することゝなり、更に一九〇九年暹羅との條約により、現在の保護州たるケダ、ケランタン、トリンガヌ、ペルリスを英國の保護地とするに至つた。顧るにラッフルスが新嘉坡を買收してより僅に百餘年にして、今日の如き發達を遂ぐるに至つたのは洵に驚歎すべき事實である。



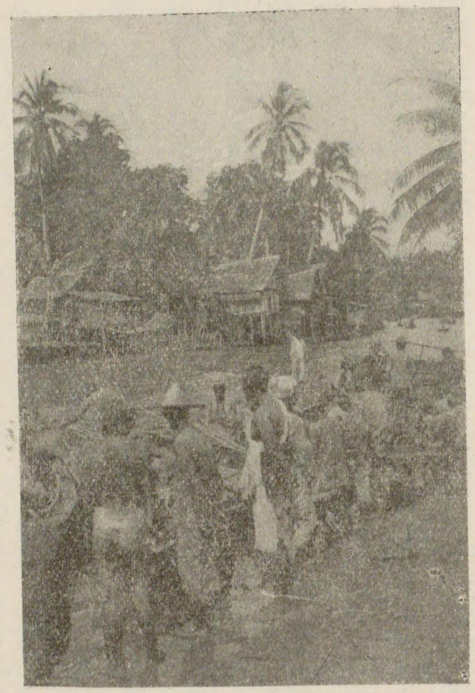
椰子の並樹　何十尺の高さを有する椰子の木が亭々として幹を並べた並樹路は南洋に於ける特殊な風趣を呈する。

馬來の今昔

政治上の地位

總ての海洋と海岸とを支配せんとする英國の傳統的政策に照らして、馬來半島が一つの重要地點たる地位を占めてゐるのは改めていふまでもない。百年前までは馬來土人の居住地として殆ど荒蕪にひとしい未開の地であつたこの半島が、現在では目覺ましい經濟的の價値を有する産業地帶となつたのみならず、交通上からいつても、軍事上からいつてもその地位は甚だ重要なるものとなつた。英國は西にスエズを勢力下に置き東に新嘉坡を有し、各國をして歐洲から東洋に出でんとするにも、東洋から歐洲に赴かんとするにも、是非この關門を通過しなければならぬ立場に立たしめてゐるのであつて、この二關門により英國の寶庫たる印度の安泰が保たれ、少くとも海上から來らんとする外力に對しては枕を高くして眠ることが出來るのである。英國は前に日英同盟を結びて、英國自身のために充分利用した揚句、恰も一片の反古紙を捨てる如くに之を廢棄し、その後で忽ち新嘉坡に海軍根據地の築造を始めた。その設備費の大部分は香港、馬來聯邦、ニュージーランド、濠洲等に於ける住民の寄附に係り、同軍港の築造はこれら各地の住民の希望に出づるものゝ如く揚言してゐるけれど、何が故に斯の如き大軍港を造らねばならぬかの根據に至つては甚だ不可解であつて、勞働黨内閣は、その第一次内閣の時代に工事中止の意あるを仄めかし、更に倫敦軍縮會議の開かれんとする際にも、工事を中止する方針なることを明にしたのである。然るに事實に於て工事は着々と進められ、こゝ數年後には恐るべき攻擊力と防備力とを持つた軍港が完成される筈である。印度の獨立運動が急激に進展して、そこに不安が醸されてゐるに對し、これが押へのために軍備が必要であるといふのならば一應の理由をなさぬこともないが、それに對してはより適切な方法がある筈で、特にマラッカ海峽へ持つて來て難攻不落の軍港を造る必要はないのである。殊に倫敦軍縮會議直前、英國のアレキサ

不可解なる軍港築造



馬來風物　河で漁獵をするのを、岸邊に立つて呑氣さうに眺めてゐる。高い椰子が茂つてゐる、水邊には土人の簡素な家並んでゐる。是れ南洋の樂天地を示す一幅の活畫圖。

華府會議と日英米

ンダー海相は下院に於て「軍縮會議と新嘉坡軍港築造計畫とは不可分である」と述べ、マクドナルド首相も「軍縮會議の協定次第で新嘉坡軍港計畫は拋棄の意圖である」と述べてゐるに徵すれば、同軍港が印度それ自身に對する押へのためのものでないのは明かである。元來華盛頓會議に於て、日本は主力艦の比率に關し英米の七割を要求したるに拘らず、後に之を引込めて六割を承認したのは、グアム、比律賓及び香港の防備を原狀維持とすることを條件とし、これによつて國防上の安全を保たんと欲したに外ならぬ。然るに英國は新嘉坡が華盛頓條約による防備制限外であるのを奇貨とし、尨大なる海軍根據地の築造に着手したのであつて、軍縮協定の精神を裏切るものである。愈々同軍港が完成すればこゝを主力艦の根據地となし得るのみならず、驅逐艦や潛水艦も其處からは航續力を利用して我國の海岸を脅かすことが出來るのである。思ふに英國が斯の如き設備によつて對抗しなければならぬ國は東洋に於て日本以外にはなく、それだけ日本に與へる刺戟は深刻であり、且又東洋の平和を脅威すること甚だしい。

印度洋管制の價値幾何ぞ

英國が印度の安全を保つ上からいつても、印度洋の管制權を確實にするだけでは、最早多くの意味をなさないのは少しく印度の事情に通ずる者の能く知る所で、今日では印度の憂患は外に存せずして實に印度の內部にある。英國から離れ去らうとする印度に對し、馬來の備へを如何に固くしたとて今更多くの效果を期待することは出來ない。印度にせよ、馬來にせよ、熱帶圈內にあるので英人は暑熱の生活に耐へ兼ねて來住する者が少く、極く少數の居住者によつて支配權を行使し、今日まで既に絕大の經濟的利益を占めたのだから、その支配權に破綻を來さんとする場合、武力にたよらんとするのは無理もないが、時勢の變化は武力だけでその優越權を安泰ならしめないのである。併し印度の問題は暫く措いて、馬來についていへば、英國の馬來統治は大體に於て成功を呈してゐるから、近き將來に英國政治家をして憂へしめるやうな事態がこの地に發生する懸念はない。英國としては新嘉坡を何處までも自由貿易港として馬來半島全體を自由貿易主義の上に立たせ、東印度諸島を包括した一個の經濟圈の中心地たらしめ、新嘉坡の繁榮を長く保持するを最上の策とするのである。

日本と馬來

日本からいへば馬來半島は日本商品の市場として將來益々有望であるのだから、平和的の經濟競爭に一層の努力を拂ひ、より多くの進出をこの方面に期する所がなければならぬ。馬來半島は、その商業的實情からいへば、英人の馬來でもなく、馬來人の馬來でもなく、實に支那人の馬來と化した觀がある。支那人が赤手空拳で馬來方面に出稼ぎし、堅忍不拔、微を積み細を累ねて所謂華僑たる地位を築き立て、遂に南洋方面の商權をも支配する實力を養ふに至りしに

對し、日本人たるものは大いに省みるべき必要あるは勿論、殆ど行詰りとなれる内地を去つて、この新天地に獨自の運命を開拓するは今日の際最も策の得たるものである。馬來半島から一歩を進めれば、其處にスマトラ、ボルネオ、ジャヴの諸島があり、快適なる常夏の國は有爲なる邦人の到るを待つこと頻りである。

風俗

○氣質　馬來人は射倖心の強い怠惰の人種で、智能の力が缺けてゐる。馬來半島には彼等のために醫科大學が設けられてゐるけれど、支那人や印度人の入學する者が多きに反し、馬來人で其學校を卒業した者はまだ幾人もない。彼等に取つて唯一の望みは回教の本山メッカに巡禮して、ハジの稱號を受けることであるが、怠け者の彼等には終生かゝつてそれだけの目的をすら達する者が少い有樣である。

怠惰なる馬來土民

○服裝　馬來人の男は上に襟のないワイシャツのやうな物を着、下に一枚のサロン（腰卷樣の物）を卷いてゐる。頭には土耳古型の庇の缺けた帽子を冠り、足は跣足である。女は上下二枚のサロンを着用し、肌には薄いシャツを着て乳房を隱してゐる。結婚後の婦人は人に顏を見られるのを嫌つて、上のサロンを頭から被つて顏を出さない。之は女の身嗜みとして上流社會になる程嚴重である。

○住居　家屋は極く粗末で、屋根は椰子の葉等を重ねたに過ぎない。又海岸に住む者は淺い水の中に家を建てゝゐるのが多く、一見日本の涼み小屋のやうである。一般に唯一室しかなくて臺所は勿論便所の設備もない。隨つて馬來名物の蚊軍の襲來を防ぐ用意もないが、その代り土人はカラツバ油といふ、香氣の強い油を全身に隈なく塗つて寢に就くので、蚊は其香に辟易して寄りつかない。又彼等の便所は獨特のもので實に簡便至極である。彼等は朝の日課として鍬を手にして家を出て、籔蔭や木の間に穴を掘り、その中へ用を足して土を被せて歸つて來る。

涼み小屋式の家

蕃族の音樂　馬來半島に棲むジヤヤンクン族の音樂隊。野豬の皮を張つた太鼓や、絃を張つた樂器などを賑やかに鳴らして一種の諧調を現はす。彼等も生れ乍ら の音樂家である。

娘の賣買

○婚姻　熱帶地方の常として、男女の間が頗る自由であるから、自由結婚成立の機會が多い。然し正式に行ふのは兩方の親同志が約束し、仲介者が立つて相談を整へて式を擧げる。初め男の方から女の家に結納を贈り、女は之を持つて嫁入をする。其後新夫婦が相携へて里方に行つて婿入の式を行ふが、此邊は日本に似てゐる。又地方によつては娘の賣買が行はれ、高くて五十弗、廉ければ十弗位で處女を買つて妻にする者もある。馬來人の家庭では一般に女權が頗る强くて、妻の外出には必ず夫が從いて行き、夫婦喧嘩のあげく、男が追ひ出される事も珍しくない。

○葬式　葬式は回教の儀式に依つて行はれるから、土耳古其他の回教國に於けると殆ど同じであるが、其大體を述べると、水葬にするか土葬にするかは土地の便利に依つて定められ、屍骸は白布で卷いて戸板に載せ、サロンを被ぶせて、近親の者四名で擔ぎ、その後ろから家族親戚知己朋友と云ふやうな順序で、つき從つて墓場へ向ふ途中、口々に大聲で御經を唱へるが、愈々葬る時になると、有らん限りの聲を出して慟哭する。

第六節　比律賓

位置、面積、人口

住民の九割は基督教徒

我が臺灣の南方に散在する島嶼で、面積十二萬方哩(三十萬方粁)、人口千三百一萬四千三百である。ルソン、ミンダナオの二大島を主に七千八十三の群島から成る。

人種、宗教

住民は馬來人種が大部分を占め、その信奉する宗教によつて、異教、モロ、基督教比律賓の三派に分けられるが、基督教比律賓人が全體の九割を占めてゐる。モロは回教徒で、異教といふのは偶像教を奉ずるイゴロト族である。別にネグリトと稱する黑人種があつて山間地方に住んでゐるが、その數も少く、且つ人類中最も下級に屬する種族である。

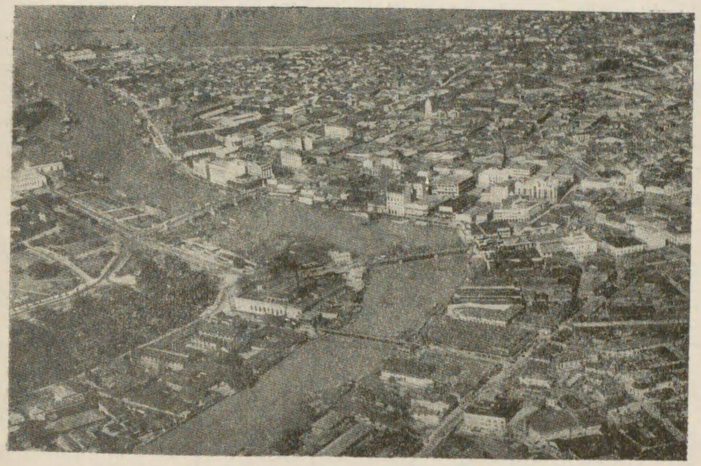
政治上の區劃

米國大統領から任命された總督及び副總督の下に、上下二院からなる議會を有し、上下兩院議長及び行政長官を以て構成する國務會議なるものがある。地方は三十七州と二特別州に分かれ、行政局によつて統轄されてゐる。

都市

耕地は僅に一割

首府マニラは古くから開けた港で、人口三十萬を有す。その他、レガスピ(六萬)、イロイロ(五萬)、セブ(六萬五千)、ザンボアンガ(三萬)、カビテ(二萬二千)、バギオ(一萬)、ダヴアオ(一萬一千)の諸市がある。右の内カビテは米國海軍の要港である。



マニラ市街　比律賓の首府マニラはルソン島の西岸にあるる比律賓第一の繁華の都であ、市街の中央を流るゝパシグ河で左岸の海近くに陸軍司令部があ。圖中右岸の上方なる海面は即ちマニラ灣で、常に日本漁夫が活動してゐる漁場である。

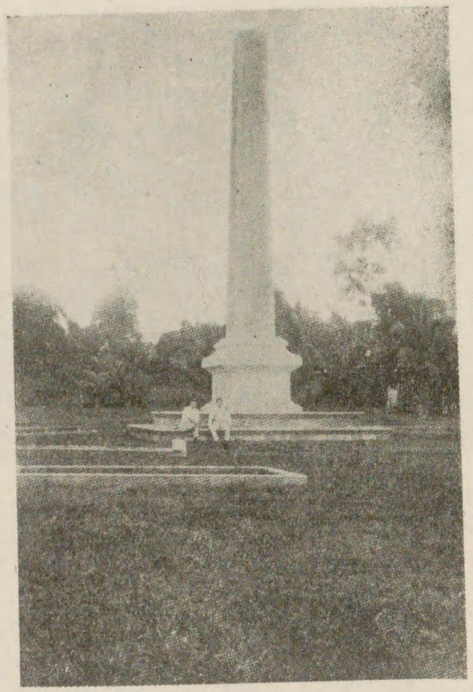
産業

土地の過半は今でも森林に蔽はれ、耕作面積は全土の約一割位に過ぎぬ。マニラ麻、煙草、米、砂糖が四主要作物とされ、其他コ、ア、椰子、ゴム、蠶絲、木材等を産し、鑛産には金、鐵、銅、硫黄、石炭、石油等がある。

日本との關係

古き交通の歴史

日本と比律賓との交通は足利時代から豐臣時代にかけて開かれ、呂宋(ルソン)といふ名は夙に我が國民の間に知られてゐた。天正年間に於ける原田孫七郎、文祿年間に於ける呂宋助左衞門等は日比交通史に興味を留むる人物である。鎖國時代を經て明治年間に及び先覺の士は比律賓に赴いて日比の交通を促進すべく努力したが、十九世紀の末期、西班牙の暴政に反抗して比島志士の獨立運動が高潮するやうになつてから、日本の有志は熱烈なる義俠心と、高遠なる國防上の見地から頓に比島に注意を拂ふやうになつた。

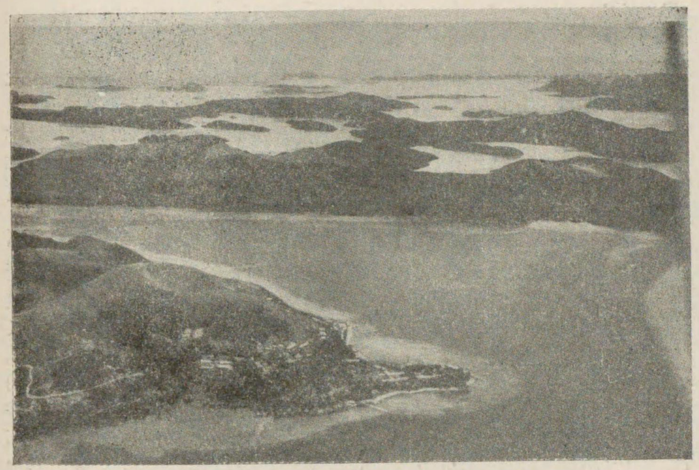


先驅者の記念碑　ダヴアオに於ける日本人發展の先驅者たる太田恭三郎氏の功勞を永く傳へんとて留邦人が建てた記念碑である。地圖は邦人の集團ミンタルの丘上に燦然と立つてゐる。

福岡の人長野義虎氏は日清戰爭の前臺灣から比律賓に渡航し、同島獨立の氣運漸く熟するを

獨立運動と日本有志

看取し、歸國して平岡浩太郎氏や內田良平氏等に說き、比律賓の獨立を助けて我が勢力を南洋方面に扶植するの急務なるを主張し、特に內田氏とは深く協力を約する所があつた。其後幾何もなくして米西戰爭が起り、比律賓の志士は米國の奸策に陷しいれられ、前門の虎を攘はんとして後門の狼に食はれた如き形となつたので、比島獨立の首領アギナルドは更に米國に對して獨立を企つるに決し、ポンセを特使として日本に遣はした。ポンセは當時橫濱に在つた支那革命黨の首領孫文と親交を結び、孫文の紹介で我が有志家にその意を通じた。內田良平、平山周、宮崎寅藏氏等の有志は更に頭山、犬養、平岡の諸氏に謀り之が援助に努むる所があつた結果、一部の有志は獨立軍應援のため比島に急航し、內地に留る有志は中村彌六氏等を中心として特使の爲に小銃及び彈藥の購入方を斡旋し、汽船布引丸を購入して之を積込み比島に向ふ計畫を立てた。同志の一人內田良平氏は九州に赴いて、更に有爲の士を比島に送る策を講ずると共に、叔父平岡常次郎氏を說いて石炭の無代供給を受くる承諾を得、布引丸は愈々門司に入港して石炭積込み及び軍器の搭載をも終へ長崎稅關にては支那に送る鐵道枕木なりと稱して通稅手續を濟まし、明治三十二年七月十九日朝、錨を拔いて比島に向つた。



比律賓の島々　比律賓は大小七千からの島群の寄り集りであるよ、飛行機の上から俯瞰した此の寫眞は比律賓の面影を傳へてゐる、左の大き島はミンダナオである。

內田氏等の義擧

當時支那の革命を圖る孫文と比島獨立を企つるポンセとの間には、孰れか先づその目的を達成したものが他の後援者となり、その志を遂げやうといふ盟約が成つて居り、之を繞ぐる日本有志家は比島獨立の成つた曉には右に支那と相抱き、左に比島と提携して、東洋民族の統一を成就せんと期してゐたのであつて、その志の高遠なるものありしは言ふまでもない。然るに布引丸は出帆後海難に遭ひ同月二十一日上海沖合で沈沒し、同志の苦心は果敢なくも水泡に歸してしまつた。

布引丸の沈沒

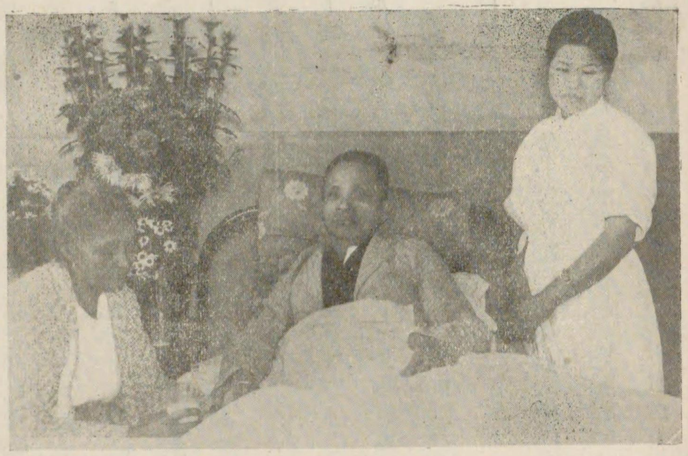
一方比島に於ける獨立軍に投じた近藤五郎(本名原禎)平山周の諸氏は、獨立軍が兵器彈藥に缺乏し、常に突貫又は斬込みの夜襲を行つて敵を苦しめてゐるのを見るにつけても、日本から

到着する筈の軍器彈藥を待つこと大旱の雲霓も啻ならず、餘りにその到着が遲れるので西内眞鐵、稻富朝次郎の二氏が督促のため歸國すべく、比軍の大尉を案内として米軍の戰線を通過するに當り、案内の比軍大尉が米軍に捕へられ、審問の結果獨立軍と我が有志との關係、軍器購入の事などが暴露したので、駐日米國公使バックは我が外務省に詰問的警告をなすに至り、やがて布引丸沈沒の報が比軍本營にも達し、最早兵器彈藥を得る道が全く絶えたことが明かになつた。よつて、平山周、近藤五郎、中森三郎等の諸士はアギナルドを始め本營の諸將に別を告げ、辛ふじて米軍の重圍を脱し、壯志遂に酬ゆる所なくして歸國するの餘儀なきに至つた。比島獨立軍も益々旗色惡しく、遂に收拾し難き潰滅狀態に陷つて、アギナルド將軍は米軍の捕虜となり獨立の壯擧も茲に全く挫折してしまつたのである。

獨立戰爭の失敗

比島獨立に關する日本志士の活動を叙し來つて、尙ほ茲に擧げなければならぬ日本に關係深き比島の一老志士がある。それは現に横濱に在住してゐるアルテミオ・リカルテその人で、リ氏は一八六六年比律賓ルソン島ベタク町に生れ、夙にマニラ市の單科大學及びサン・トマス大學に學んだが、自ら被壓迫民族の悲哀を深く體驗した結果、比島獨立の志を立て、早くから秘密結社に加盟して會員からはヴイボラ(蝮)の綽名を以て呼ばれ、比島革命の前後を通じ、最も頑

蝮將軍リカルテ



アルテミオ・リカルテ氏夫妻

強なる將軍として革命軍の陣營に勇名を馳せた。最初、革命の氣運はリカルテ氏等の熱誠に依りて漸く熟し、一八九六年の獨立戰爭は遂に幕を切つて落された。當時リカルテ氏は十九時間の激戰の後西班牙軍を擊破し、アギナルド將軍はマグタロ一帶の地を占領し、漸次勝利を制して一八九七年には新比島中央政府を組織し、リカルテ氏は滿場一致を以て共和國大總統に推された。この革命は結局失敗に終つたが、次で米西戰爭勃發するや、アギナルド將軍は米國提督デユウエーと謀つて第二回の革命を策し、リ氏はアギナルド軍の師團長として活躍したけれど、戰勝後米國の背約によつて又々鴻圖挫折し、次で一八九九年二月、米人に依つて挑戰された時には、マニラ郊外にあつて頻りに米軍に對する劃策を凝らし、一九〇〇年六

快擧成らず囚虜となる

月末に至り愈々米軍襲擊の策を立て、部下と共に各自一挺のナイフを携へてマニラ市に入つた。然るに未だ快擧を行はざるに先ちて米軍の襲擊に遭ひ、衆寡敵せず敵の捕虜となつた。彼は米軍司令官の前に引出されて訊問を受くるや、昂然として「吾人は外人の支配下に奴隷的服從をなすを欲せざるが故に、如何なる目に遭うとも最後まで戰ひ拔く考へであつた」と答へ、遂に多くの革命家と共にグアム島に二年間の流刑を宣告された。グアム島に於ては朝夕三時間づゝの體操を行つて將來の活躍に備へる體力を練り、一九〇二年刑期の終了と共に、多くの人々は米國政府に忠誠を誓約することに依り、赦免せられたが、氏と今一人の同志マビニとは斷乎として之を拒絶した爲め、又もや同島のアサン監獄に投ぜられた。やがて一九〇三年二月、リカルテ氏等二人は米國汽船トマス號に乘せられて、マニラに向つたが船中に於て再び誓約を强ひられ、當時病氣であつたマビニは之に服したが、リカルテ氏のみは頑强に之を拒んだ爲め香港に追放さるゝに至つた。

鳴呼雲を失へる蛟龍

孤影茫々として香港に上陸した氏は同地の印刷工場に入り、一ヶ月僅に二十五メッタス（約二十圓）の給料を得て糊口に資した。時に日露の風雲漸く急ならんとするを知り、比島米政府顚覆の好機到れりとなし、同年十二月秘かにマニラに入り回天の事業を策した。偶々病氣に罹り、一時は生命も危きばかりの容體であつたが、やがて快復して再起を期しつゝある折柄、早くも氏の入島を探知した米政府當局は二萬圓の懸賞を附して捕縛を圖つた爲め、賣國奴ベルタサールに密告され、一九〇四年五月二十九日、マリベレス町で同志と密議すべく同町に赴いた處を捕縛され、快速船カルメン號でマニラ市へ護送された。裁判の結果、禁錮一年、懲役六年、罰金二萬圓の宣告を受け、又々囹圄の人となり、外部との一切の通信を禁止された。投獄中米國官憲は如何にもしてその反抗心を取り去らんと試み、ルーズベルト大統領時代の副大統領チャイルド氏の如きも、數時間に亘つて彼れと懇談し、米政府に對する歸順の意を表すれば相當高き地位を供與すると說いたが、現在に於て斯くの如き勸告を考慮に入れることは餘りに非人道的であるとて、斷乎として之を拒絶し、出獄の時も重ねて忠誠の誓約を求められて又拒絶したゝめ再び香港に追放され、香港で家庭を營みつゝ隔週刊行の雜誌に從事してゐる中、一九一五年香港英國政廳は不穩人物といふ名目の下に彼れを上海に追放した。上海では又々米國官憲の陷穽にかゝつて監禁され、家族と共にマニラに送還されることゝなつたが、途中香港で極力マニラ行を拒んだ結果再び上海に追放された。彼れは米國の魔手を逃れるためには日本に赴くより外に途がないと考へ、日本行の旅券を手に入れて同年夏我が愛知縣瀨戸町に流浪の身を現

快男子の眞骨頭

邦人發展の概觀

はしたのである。爾來春風秋雨十餘年、當年の反抗兒も寄る年波に一個の好々爺と化した觀はあるが、眉宇の間に尙ほ鎖磨せざる覇氣を留め、比律賓に獨立の旗が飜るまでは斷じて故國の土を踏まぬと稱してゐる。民族主義の權化アルテミオ・リカルテ翁が櫻咲くこの日本帝國に數奇の身を托しつゝ比島獨立の日を待望してゐる氣持こそ悲壯にして且つ痛ましい。

○在留邦人と職業　比律賓群島及びグアム島を合し一萬五千七百七十二人の邦人が在留するが、その職業狀態は次の通りである。農耕園藝畜産業二八〇九、同勞働者三二九五、森林業林産物業二六、同勞働者一八二、漁業製鹽業五八六、同勞働者四一〇、採鑛冶金業一、同勞働者九、土石採取業一、窯業五、金屬工業一四、機械機具製造二〇、化學工業三、染色洗濯業四、竹木類製品業三、飲食料品嗜好品製造三七七、被服裝身具製造三四、土木建築業四四、大工左官石工ペンキ職八四一、製版印刷製本業四、其他工業七、工場勞働者八〇、物品販賣業三〇〇、貿易商一四、媒介周旋業五、銀行會社商店員八三八、旅館料理貸席藝妓業其他娯樂場三五、藝娼妓酌婦六、理髮浴場業六八、其他の商業一〇二、鐵道勞働者四、車馬業自動車運轉手九五、船舶從業者六、運輸取扱業一八、軍人一、官吏雇員七、宗教關係者六、教育關係者一五、醫務に關する業二六、新聞雜誌記者二、美術家寫眞師六六、其他自由業四七。

重要貿易品

○主なる會社商店　マニラには日本郵船、大阪商船、正金銀行、三井物産等の支店出張所、比律賓木材輸出株式會社、貿易業岸本商店、雜貨商高橋商店、貿易業大阪バザー、小倉貿易、大同貿易の諸會社、ダヴアオに麻及コブラの栽培販賣を營む古川拓殖會社、麻、椰子の栽培販賣を營む太田興業會社等がある。

○對比貿易　は次の如き數字を示し、日本からは、綿糸、綿織物、絹織物、莫大小、人絹織物石炭、セメント、陶磁器、硝子類、琺瑯鐵器、紙類、玩具其他廣範圍に亘る商品が輸出され、比律賓からは、大麻、黃麻其他の植物纖維類、コブラ、木材、葉煙草等が輸入される。

	輸出（單位圓）	輸入
昭和四年	三〇、五九六、五九九	一八、〇四四、二三八
同五年	二八、三六九、四九九	一〇、七五九、六三三

西班牙の虐政

歷史

比律賓は我が大永元年（西暦一五二一年）西班牙人フエルヂナンド・マゼランが發見し、永祿八年（一五六五年）當時比島を領してゐたセブー王國を征服して久しく西班牙の植民地としてゐた地で、比律賓の名も當時の西班牙皇太子フイリツプの名に因んで付けたものである。西班牙

米西戰爭

がこの島を領有して以來、非常な壓制的政策を取り、島民は政治上、社會上、宗教上殆ど何等の自由を享くることが出來なかつたので、島民は憤恨の餘、一八六八年本國西班牙の内亂に乘じて獨立を宣言し、十二年の永きに亘りて抗爭を續けたが遂に力盡きて屈服し、一時鎮靜に歸したる後、一八九四年に至り再び叛亂を起した。この時西班牙政府は鎮定の爲めカンポス將軍を派遣して叛軍を討伐せしめたが容易に目的を達せず、更にウエイラー將軍と代はらせ、一八九七年には又新にブランコ將軍を總督に任じ討伐軍を督せしめたけれど、叛軍は頑强なる抵抗を續けて屈服する狀が見えなかつた。

然るに西班牙軍の島民に對する態度は頗る殘酷で、その悲慘なる狀態は人道上看過し難き程の虐政と見られたので、米國は遂に西班牙に對して虐政改善の忠告を試るに至つた。之に對して西班牙は斷然拒絕したのみならず、一八九八年二月ハバナ港に碇泊してゐた米國軍艦メイン號を擊沈し、二百五十餘人の乘組員を殺した爲め、米西兩國は遂に開戰することゝなつた。當時の事情に徵し、米國は已むを得ずして起つたやうであるけれど、實は豫てより比島を手に收めるべく野心滿々たるものありしは爭はれない。斯くして兩國交戰の結果、米國はマニラ灣及びサンチヤゴで西班牙艦隊を擊滅し、開戰後僅々二ヶ月餘で西班牙をして戰意を放棄せしめる

底止する所なき獨立運動

程の決定的勝利を得、豫定の筋書通り比律賓を割讓せしめたのである。しかし比律賓住民は西班牙の領有時代に三十餘回も獨立を企てゝ目的を達しなかつたので、米領に歸してからも、頻りに獨立を要望し、米國の政界にも比島の獨立を認めんとする主張があり、米國議會には屢々比島獨立案が提出されるけれど、殆ど年中行事のやうになつて、却々實現せられない。昭和五年二月には第一回比島獨立大會を開き、各方面の代表者が集つて、獨立要求十四ヶ條の決議案を可決した。比島に於ける各政黨も獨立のスローガンを掲げ、獨立主張者でないと議員に選出されないといふ程、全民衆の間に獨立熱が漲つてゐる。

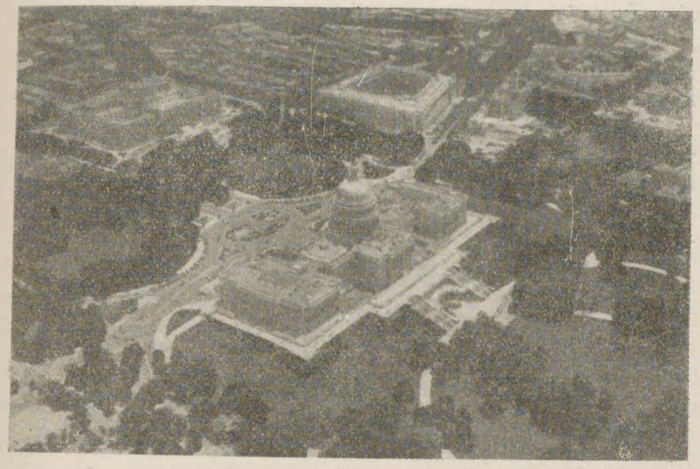
政治上の地位

甘言を以て志士を誘ふ

明治三十二年、米西媾和條約の結果、比律賓が米國の領有に歸して以來、比律賓の志士は常に獨立運動を續けてゐる。最初、米西戰爭の起るや、米國は比律賓の西班牙軍を擊攘するに苦み、豫てより西班牙に對して獨立を企てつゝあつた比律賓のアギナルド將軍等を甘言を以て誘ひ比島内に叛亂を起させ、それを利用して比島を占領したのであるが、當時、比島獨立軍と米國との間には、西班牙軍を擊攘した曉には比島に獨立を與ふべき旨の約束が取結ばれてゐたの

である。然るに米西媾和條約成立するに及んで、米國は前約を捨てゝ顧みず、アギナルド將軍等が憤激して米國に對し宣戰を布告するやこれを破つてアギナルド將軍等をして降伏の餘儀なきに至らしめ、斯くして完全に比島の統治權を得たのである。

かうした經緯によつて米國の治下に立つに至つた比島民は、爾來、獨立の希望を寸時も捨てず、政治的手段によつて米國の羈絆を脱すべく運動を續けてゐるのであつて米國の政界に於ても、民主黨は夙にその政綱に比島の獨立を承認することを掲げてゐる程であり、米國の議會にも毎回、比島獨立案が提出される程であるが、實際上の趨勢は寧ろ比島民の期待を裏切り、米國政治



比律賓議事堂　廣場の中に西洋菓子のやうな形をしてつ立てつてゐるのがマニラの比律賓議事堂である、この議事堂で毎議會會比律賓獨立の叫びが揚げられるのである。左方に之と對立するのは比律賓政廳である。

米國政治家と比島

家の間には永く比島を米國統治の下に置かうとする主張が有力となりつゝある。その重要なる理由の一つは經濟關係から來るもので、比島の土地の大部分が米國政府の所有に屬せるを以て、之を最も米國に都合よきやうに利用し、米國の製造工業の原料として必要なる熱帶產物の供給地たらしめんとする要求である。特に米國資本家はこの目的の下に比島へ資本を投下しつゝあるのであるから、遽かに比島を米國の統治から解放せんとする政策には反對を表し、それが政治家を動かして比島の獨立を困難ならしめるのである。尙又同じく經濟上の理由としては、列强の經濟競爭の舞臺が太西洋から太平洋に移り、米國の對外貿易の中心は將來太平洋にあることが明なる今日、比島を拋棄することは非常なる損失であるといふ觀念から出發するものである。すなはち太平洋を經濟競爭の舞臺として考へる場合、米國に取り最も有利の地位を占むるのはマニラであつて、こゝを配分中心地としてその周圍を眺めると、其處には米國商品の好市場たる亞細亞及び濠洲が將來の發展を豫示しつゝ控へてゐる。假にその範圍を著しく縮小して考察しても、附近には、南支那、印度支那、馬來半島、及び蘭領東印度諸島があつて、夫々に米國の市場として極めて有望な將來を持つてゐる。「比律賓の獲得は、米國のために太平洋へ橋を架けたやうなものだ」といつてゐる米國人としては、たやすく之を手放すべき筈もなく、比

マニラの地位

日米戰爭の豫想

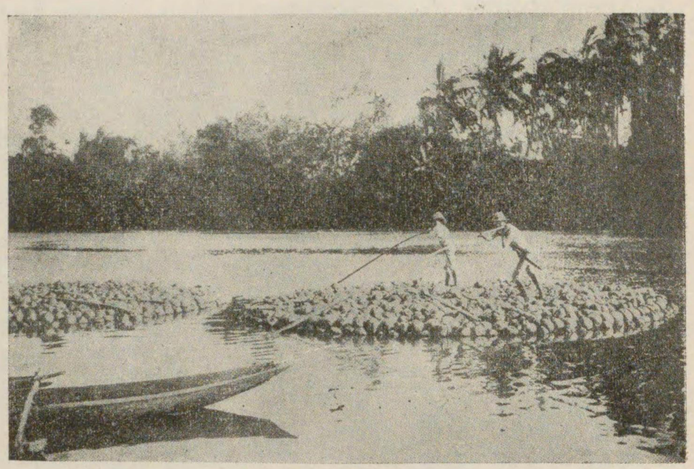
島獨立問題を唯だ「永久の議會の問題」としてのみ取扱はうとしてゐるのである。

それから今一つ重大な理由は、常に米國人の頭に幻影として浮ぶ日米戰爭の豫想であつて、米國が出來得るだけ日本と近距離にある土地へ海軍根據地を置かねばならぬといふ要望に對し好個の場所を與へるものは比律賓群島である。パナマ運河の開通は、紐育、桑港間の距離を八千九百四十哩短縮して、僅に四千七百八十七哩にしたが、日米戰爭の場合を豫想すると、それだけの短縮では甘んじられない。是非とも太平洋の中に有力な海軍根據地を置かなければならないとするのである。マニラか、それともカビテか、その港は何れにもせよ兎に角之を比律賓群島の、一地點に擇ばねばならぬ。「どうして比律賓を手放せやうか」といふのが米國海軍論者の極めて有力なる主張である。

右の如き主張は、主として米國共和黨の側に於て强調せられつゝあるものであるが、それが豫て比島の獨立を約したルーズベルト以來の一部米國政治家の主張を制して、次第に現實的の力を持つやうになつたことは否認し難く、それだけ比律賓島民の獨立運動の前途には滑らかなる坦道が開かれてゐないことが豫想される。しかしながら、一方、比島民の獨立運動の本體を考察すると、勿論、期成的であり、熱情的であり、殊に夙に公約が與へられてゐる問題である

獨立運動の本體

比島の軍備制限

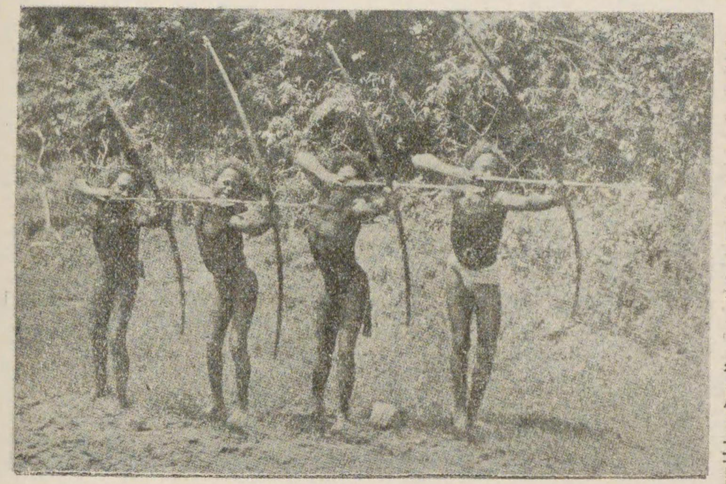


椰子の實の筏　比律賓では累々たる椰子の實を筏に組んで流し行く、南洋の景物として珍らしく感ぜられるものゝ一つである。

だけに、米國自身の都合のみによつて阻止されたからとて、無力となり、挫折に終るべき性質のものでなく、遮らるれば遮らるゝだけ益々反撥の度を强め來るべきは必然である。されば比島獨立運動が、今後如何なる推移を辿らんとするかは、亞細亞の一角に存する重要問題として注意すべき理由が多分にあるのである。

因に比島に於ける軍備問題は、華盛頓會議及び倫敦會議に於て、我國は米國をして同群島に軍事的設備をなさゞることを二重に約せしめたのであるから、米國が比島に海軍根據地を築造せんとしても、海軍々縮條約の有效期間内には如何ともすべからざる關係となつてゐる。だから比島の軍事的價値は今の處甚だ薄弱であるが、他日こゝに海軍根據地を築造する如き事態を

生せば、その我國に與ふる脅威は英國の新嘉坡軍港以上である。この意味からいつても、比島は我國と地理的に重要なる關係を有することを知らねばならぬ。

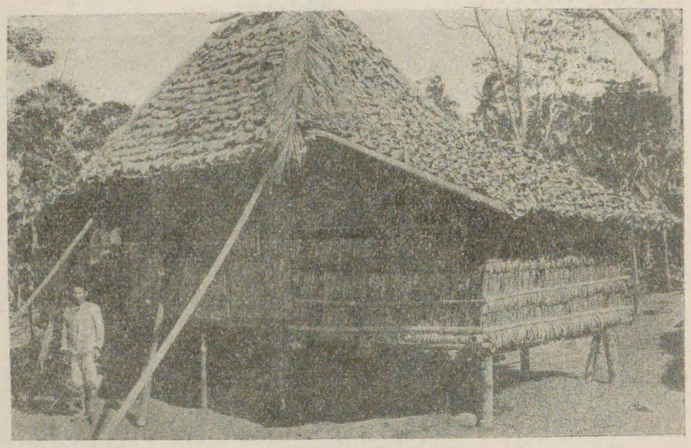


女尊男卑の風

比律賓のネグリートー族 ネグリートー族はそのそのの原始的な末組な射が圖は狩を山野にて弓矢をしてし生活するあるのである。擊の競技をやつてゐることろである。

風俗

○民性 比律賓は近年、教育機關が發達して五千校の小學、七十校の中學を始め大學、專門學校、女學校等が設けられ、比律賓人の教養は漸次高まつて來たが、土人は一體に獨立自營の才能に乏しく、商業上の實權などは全く支那人の手にある有樣である。元來女尊男卑の風が著しく、家庭上のみならず社會上に於ても婦人の地位は他の東洋民族の婦人に比して高い。家庭にあつては主婦が家計を司り、主人は主婦の機嫌



比律賓の民屋 屋根も周圍も棕櫚の葉を用ゐたもので、至極簡易に出來てゐる。殆ど建築費を要せず、手輕に短時間で建てられるのである。

を取るに努めてゐる有樣である。蕃人に至つては本來怠け者で、生活の向上とか生產方面への活動といふやうなことには甚だ冷淡を極め、何時までも山野で狩獵をなし果實を食つて滿足してゐる。

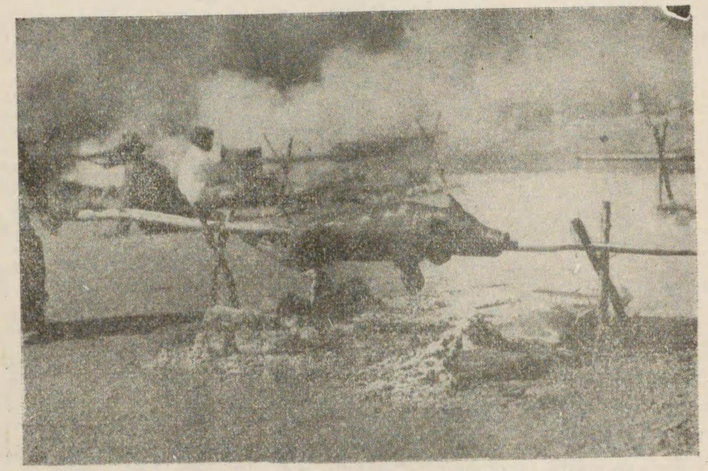
○服裝 比律賓の土着民は細別すると幾十種ともなり、中には臺灣生蕃のやうに最近まで首狩をしてゐたやうな蕃民もあるので、一々それらの服裝を述べることも出來ないが、暑熱の强い土地であるだけに服裝は簡單で、今でも女は布を腰に卷き、男は褌を締めてゐるだけの種族があり、市街地ではハイカラな洋服を着てゐる土人もある。特異なのは婦人の服裝で我國で用ひる袴のやうな角張つた蟬の羽に似た薄いものを着て、下はスカートと同じものを着けてゐる。

三保松原の天女

これは昔からの風俗で日本の傳說にある三保の松原に舞ひ下つたといふ天女といふのが、或は比律賓婦人が漂流して三保の松原に着いた時、かうした服裝からして羽衣を着た天女と解せられたのではないかといふ說がある。

アタ族の食事　比律賓の山地に住む住アタ族は樹上に木を組んで居を營み生野の果實を食つて生活してゐる。圖は今も美味い果實に舌鼓を打つてゐるところ。

○住居　比律賓の蕃人中には立木の上に小屋を造つて住む者もあれば、海濱に水上小屋を建てゝ原始的の生活をしてゐる者もある。普通は草葺又はトタン屋根で、床を高くして濕氣を防ぎ周圍は壁の代りに草を縦に並べ、竹を渡して編み付けたといふ程度の簡單なものである。在留の日本人勞働者などもこの程度の住宅で結構生活することが出來て、建築費用は甚だ安直で濟む。但し市街地の住宅は漸次歐風化し、却々立派な家屋に住んでゐる土着民もある。



豚の丸燒　比律賓には生野の豚が棲んでゐる、獵者達は一日狩りくらして獲物は早速丸燒にしてし舌鼓を打つのだ。豚の丸燒はちよつと豪氣な料理でゐる。

○食物　野に山に美味な果實がみのり、パパイヤ、バナヽ等の熱帶食物が豐富であるから、蕃民はそれを主食物とし狩獵によつて肉類を得、全く食糧難といふことを知らぬ安樂な生活をしてゐる。パパイヤの木には累々として常に美果がなるのだからそれを二三本も植えて置けば年中見事な果實が得られて食ひ切れぬ程である。米、玉蜀黍、甘藷等が耕作されるので進歩した分子は米を常食とし、水は熱帶地特有の驟雨が毎日のやうに降るからそれを溜めて使用するので甚だ清潔である。日本人が渡航しても食事の點に於ては殆ど本國同樣のものが得られ何等の不自由を感じない。否それよりも生活費は日本內地に比し却つて安くて濟むのである。

第七節　東印度諸島

國際的興味の中心地

馬來半島の南方から東方に亘り、赤道の南北に横はる諸島で、全部熱帶にある。主なる島は爪哇、スマトラ、セレベス、モルツカ（以上蘭領）、ボルネオ（蘭英分領）、チモル（葡英蘭領）等で、其他多數の島嶼がある。氣候は季節風帶に屬するため氣溫が高くて變化が少なく、雨量が一般に豐富であるから、地味の肥沃なのと相俟つて植物がよく成長し、各種の產物に富み、所謂南方の樂土として國際的興味の中心となつてゐる。我が國民の南方發展も主としてこの方面を目標とするもので、邦人の移住に適する有望な地方である。島とはいひながら面積が廣大で、ボルネオは世界第三の大島、スマトラは世界第五の大島たる地位を占め、その經濟的の價値は絕大である。

政治上の區劃

東印度諸島の大部分は和蘭の所領に屬し、總面積凡そ五十八萬方哩（百五十萬方粁）の內、ボルネオ島北部及びラブアン島等、約七萬六千六百方哩（十九萬五千八百方粁）の地域は英國に屬し、チモル島の一部六千百餘方哩（一萬六千方粁）が葡萄牙の領地となつてゐる。蘭領諸島は總人口五千百萬以上を算し、外交事務に關する立法及び行政は和蘭の政權によつて行はれ、一般行政は和蘭の統治權の下に蘭領印度總督及び蘭領印度議會が行ふことになつてゐる。右の議會は六十人の議員から成り、議員の內二十五人は土人、三十人は和蘭人、五人は在留外國人で、一部は選擧、一部は任命の形式によつて選ばれるのである。全土を三百六の自治州、二十二の制限自治州及び全く自治權なき土人地方とに區分してある。住民の九割七分七厘が馬來人で、之に次では支那人、歐米人、亞剌比亞人といふ順位である。

蘭領の總人口

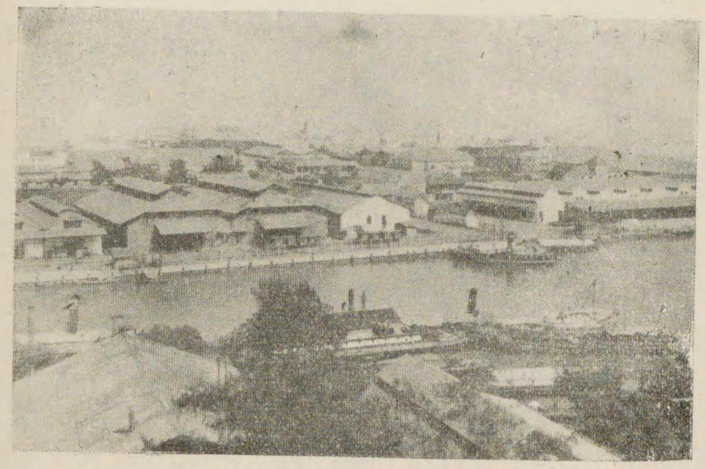
爪哇

南洋諸島の王座を占むる爪哇

○面積人口　本島の面積四萬五千八百方哩（十二萬一千六百二十二方粁）、屬島を加へて五萬七百五十六方哩（十三萬一千四百四十一方粁）。人口は凡そ三千六百四十萬で人口密度が高い。

○人種宗教　大部分が馬來人種たる土人で、これをスンダ、バドビ、テンゲル、ジャバ、カラング、マヅラ等の各種に細別することが出來る。その中にてジャバ人と稱せられる一派が比較的最も高い文化を有してゐる。宗教は一般に回教を奉ずる。土人の外に約四十五萬の支那人、

十八萬の歐人、三萬餘の亞刺比亞人が居住してゐる。

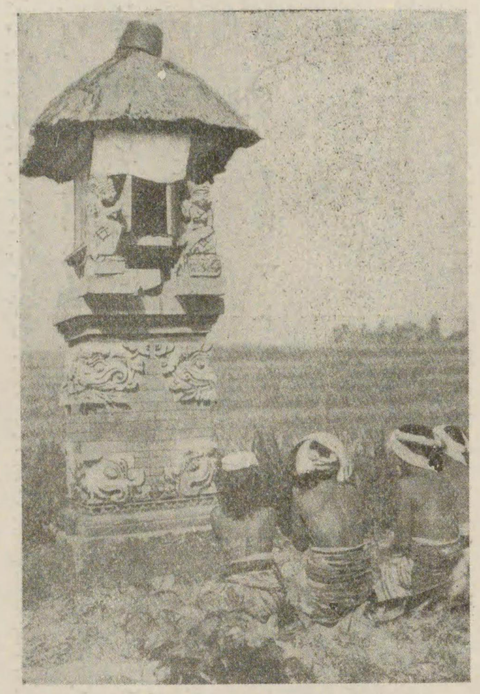


スラバヤ市街

○都市　バタビヤは蘭領東印度の首府で人口三十萬市の東方七粁の地タンヂョンプリオクに築港が設けられ輸出入貿易が盛んである。スラバヤは東爪哇の商港で、軍港を兼ね、これ又人口二十五萬を有する繁榮の都市である。其他スラカルタ(人口十五萬)、スマラン(十五萬)、バンヅング(十四萬)、ボイテンゾルグ(四萬七千)、チェリボン(三萬二千)等の都市があり、舊爪哇王の居城のあるヂョキャカルタ市も人口十一萬を有し、周圍四哩を有する王城内には今でも、王族、文武百官等約一萬五千の人が居住してゐる。

○産業　土地の約四割が農耕に適し、低地からは、米、玉蜀黍、タピオカ(甘藷に似た補充食料品)甘蔗

棉が收穫され、特に甘蔗から製する砂糖の生産額は年百七十萬噸以上を算し、世界産糖額の約九分を占めてゐる。高地からは煙草、珈琲、茶、規那等を豐富に産し、森林からはチーク材を出す。又ゴムの栽培も行はれ、牛、水牛、馬等の家畜の飼養數も多く、鑛産物としては、錫、石油、硫黄、滿俺、金銀鑛がある。されば一ケ年の輸出額は七億ギルダー(一ギルダーは約我が八十錢)以上を算し年々輸出超過を續けてゐる。島内には五千四百餘粁の鐵道が通じ、道路の設備も發達してゐる。



爪哇の米作

實りを祈るバリの女　バリ島の風俗に似たもの多い、農村で米の收穫を祈つてゐる女もバリ島の女は手で臼を搗く。

爪哇の産業中特に注意を引くのは米作で、現在の耕地九百十五萬町歩中、約七百十五萬町歩

が土民の耕作面積であるが、その内水田が三百十五萬町歩を占め、日本内地の米作段別に比して稍多い。然るに爪哇ではこれだけの水田から擧げる收穫が白米にして二千萬石内外に過ぎず一町歩當りにして僅か六石四斗である。これは土民が宗教上の迷信から全然施肥を行はぬ結果で、若し日本式の米作を行つたならば實に跳躍的の增收が得られる筈である。殊に爪哇では一年中を通じ、何時挿秧をしても稻の生育に變りはないといふ特殊の氣候に惠まれてゐるのだから米作地としてまことに都合のよい地位を占めてゐる。この點からしてボルネオあたりの未開墾島嶼の米作に對して日本人は一層注意を拂ふべき價値がある。

世界に於ける第五の大島

スマトラ

○面積人口　本島の面積約十六萬六千方哩(四十三萬方粁)屬島を合せて約四十五萬方粁、人口は約五百萬である。

○人種宗教　馬來人種であるが、オランマムマ、オランタラング、クブなどゝいふ原始馬來種に屬する者がある。メナングカバウ、アチエーなどゝ呼ばれる種族は文化が稍進んでゐる。宗教は回教が信ぜられる。

煙草と石油

路傍の賭博　スマトラの島民は賭博が好きで、常に木蔭に集つて公々然と輸贏を爭つてゐる。

○都市　東スマトラ州の首府メダンは人口四萬五千、西スマトラ州の首府パダンが四萬一千、東南部パレムバン州の首府パレムバンは六萬二千である。

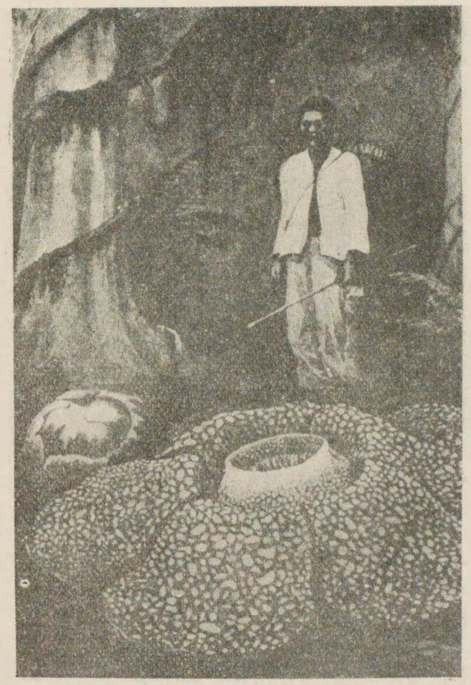
○産業　煙草、珈琲、胡椒、茶、棉、ゴム等を産し、特に煙草は優良品として名高い。鑛産は石油が主要なもので諸地方に油井があり、精油所も數ケ所に設けられてゐる。赤道が島の中部を通過してゐるから氣溫が一般に高く、土地の開拓が遲れてゐる。商業は主として支那人や亞剌比亞人によつて營まれてゐる、

セレベス

○面積人口　面積約六萬九千五百方哩(十八萬方粁)、人口二百三十七萬五千。

首狩種族

○人種宗教　馬來種のインドネシヤ派に屬するアルフル人が多く、杭上屋に住み、その未開な者は首狩を行ふ風習を持つてゐるが、多數は勞働に從事してゐる。西南部にはマカツサル人、南半島にはブギ人が住み、宗教は回教である。アルフル人中には基督教を奉ずる者もある。この島でも矢張り支那人が有力な地歩を占めてゐる。



フラフレシヤの花　マストラ島に咲く世界一の大きな花フラフレシヤの圖、一輪の花が直徑三尺もあつて黃色に紅の斑があるる、熱國ならでは見られぬ怪物。

○都市　南半島西岸のマカツサルは良港で人口五萬四千を有し、メナドは東北半島の自由港で人口二萬五千を有する。

○產業　鑛產が豐富で、銅を第一位に、錫、鐵、ニツケル、硫黃、褐炭等を產し、農產物には珈琲、椰子實、椰子油、米、棉、コ、ア、煙草、ゴム、肉荳蔻等がある。山地からは木材を出し、特產物としては鼈甲、高瀨貝、極樂鳥がある。西本願寺の大谷光瑞氏はメナド港の近くで大農園を經營してゐる。この島は熱帶にあるけれど、土地の高度が大なのと、海岸に屈曲が多いので暑氣を凌ぎ易く、且つ風光がよく溫泉などもある。

光瑞師の大農園

有望なる新移住地

尙ほこの島だけは他島と異り島內の農產物により食糧が自給自足されてゐる。

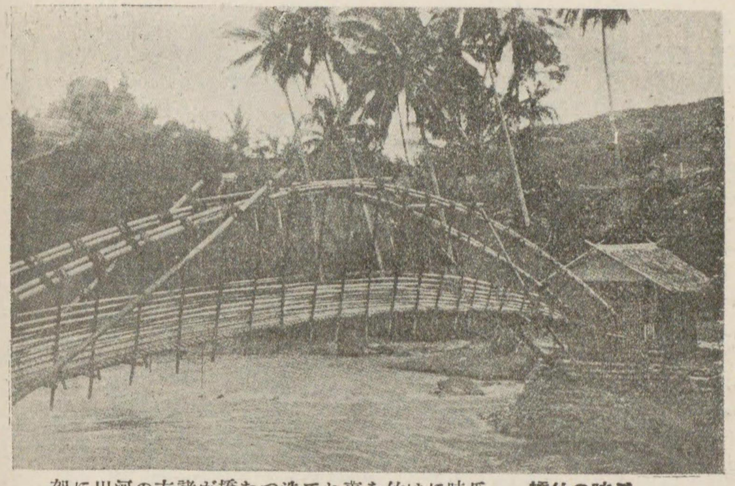
ボルネオ

○面積人口　蘭領印度中最大の島で、面積二十八萬九千五百餘方哩（七十四萬方粁）、人口約二百四十萬、英領の人口を合して三百二十八萬餘に過ぎず、人口密度が稀薄である。それだけ島內の開發が遲れて居り、新移住地として有望である。

○人種宗教　海岸及び河岸地方には稍文北の進んだ馬來人が住み、先住民たるダヤク人は山岳地方に驅逐されてゐる。宗教は矢張り回教である。支那人は約五萬在住し商業上優越の地歩を占めてゐる。

○領屬區劃　この島は前記の如く英蘭兩國に分屬し、北部ボルネオの面積約八萬方粁（人口二十五萬八千）は英領北ボルネオ會社の所有地で、同會社重役會で選擧し英國皇帝の勅許を經たる總督が行政權を有し、ブルネイ（面積六千五百方粁、人口二萬七千）、サラワク（面積十萬八

無盡藏の寶庫



爪哇の竹橋　爪哇には竹を束ねて造つた橋が諸方の河川に架けてあるこの圖は爪哇の植物園内の竹橋を寫したものであるあでの

千方粁、人口約六十萬）の二王國も英の保護國となつてゐる。以上を除外したものが蘭領である。

○都市　バンヂエルマシンは東部の政治經濟の中心都市で人口六萬五千を有し、ポンチヤナクは西部の代表都市で人口が三萬四千ある。其他石油產地の中心地たるバリクパパン及び東海岸のサマリンダは將來の發展を豫想されてゐる。

○產業　無限の寶庫を藏すといはれるけれど、廣漠たる原野は今尙ほ未墾のまゝで拓殖が行屆かず欝蒼たる天然林で蔽はれてゐる地方が多い。中央南部の河川流域では米、甘蔗、ゴム、煙草、落花生等をも產する。鑛產には石炭及び鐵の埋藏量が多く、東部地方は石油產地として多大の價値を有し、其他、金剛石、砂金、滿俺をも產する。林產物には檳榔椰子、コ、椰子、鐵木、黑檀、籐その他建築用材に富み、コプラ、パラフイン蠟、硫酸、ゴムが輸出される。由來蘭領印度では爪哇が先づ開發され、次でスマトラが開發され、今漸くボルネオに開發の手が着けられ初めたばかりであるが、今後の發展は刮目に値する。

モルツカ群島

優良なる木材

○面積人口　モルツカ群島は、スラ、ブル、セラム、アムボイナ等の諸島から成り、一に香料群島とも稱される。面積は各島を合せ約二萬九千二百方哩（五萬五千七百方粁）で、人口は約六十萬强である。一般に小島は大島より開發が進んでゐる。

○人種宗教　各島の住民は大概馬來人種で、未開のネグリート族も住んでゐる。その他支那人及び亞剌比亞人が舊い時代から來住して經濟上主要な地位を占めてゐる。土人の間には基督教が流布してゐる。

○產業　各島ともに樹木欝蒼として茂り、丁香が特產物であり、又輸出上最重要の地位を占めてゐる。住民の主要食料はサゴヤシで、甘蔗、珈琲、コ、ア、コ、ヤシが栽培されてゐる。森林には優良なる木材に富み、鸚鵡、昆虫、蘭科植物、其他動物鳥類が多いために探檢家の興味

をそゝる。アムボイナの首府アムボイナが人口一萬二千許りを有する外、都邑と稱する程のものはない。

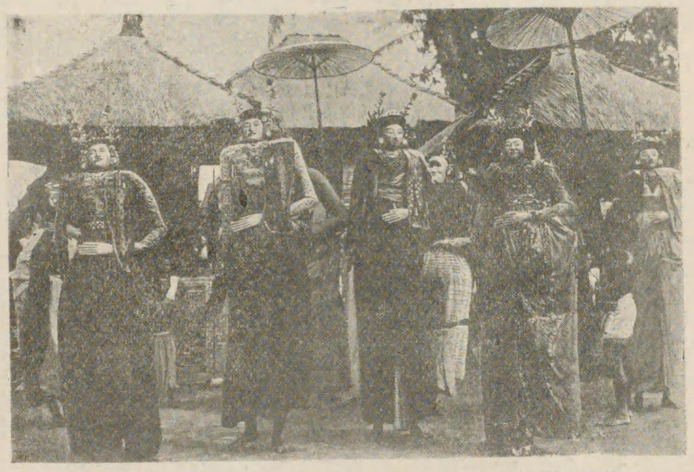
特異性を有するバリとロンボク

モルツカの土民　モルツカ島には美しい羽毛を持つた極樂鳥が棲む、その羽毛で盛裝した島民の容姿は、とてもグロテスクなものである。

小スンダ列島

○面積人口　爪哇の東に列る、バリ、ロンボク、スンバワ、フロレス、スンバ、チモルの諸島で、面積約三萬二千八百方哩（八萬五千方粁）、人口約百五十萬である。チモル島は西部が蘭領東部が葡領である。

○人種宗教　各島を通じ馬來人種が居住してゐるが、バリ、ロンボクには舊くから婆羅門教を奉ずる者が多く、其他は基督教を奉ずる者と回教を奉ずる者との二種である。フロレス、チモル各島には黑色人種たるパプア人が殘存してゐる。



バリ島の假裝ダンス　年中行事の内でも最も人氣を集める催し物である。バリ島民は形人たつ冠を假面の樣々なトーカスをつけたいろいろな奇怪な巨人のダンスは、はげしい搖ぶりである。

○都邑　ロンボク島西岸のマタラム、フロレス島西部のエンデー、同東部のマンガライ等が稍都邑の狀を呈してゐる外、都會と稱する程のものはない。

○産物　バリ島には米を産し、スムバワ兩島は檀香の産出を以て知られ、フロレス島には稍々見るべき農業及海産がある。チモル島からは檀香、蠟、鼈甲、食用鳥巣を輸出するが、各島を通じて農業、漁業が住民の主たる生業で、一般に經濟的の發達が遲れ、文化の程度は劣等である。

日本との關係

案外少ない在留邦人數

○在留邦人分布狀態　英領北ボルネオ及びサラワクに八五三、爪哇に二六五一、セレベス島及び同屬島に五〇〇、スマトラ島及び同屬島に一四一二、蘭領ボルネオ島及び同屬島に七二六、ニューギニヤ島及びモルツカス島に二五三、バリ、ロンボク、チモール諸島に三九。合計六千五百三十四人で、案外にその數は少ない。

○在留邦人職業別　農耕園藝畜產業一二七、同勞働者一七、森林林產物業一四、同勞働者一六、漁業製鹽業三八、同勞働者四七五、窯業一、金屬工業四、機械機具製造八、化學工業一、染色洗濯業二三、皮革骨角羽毛品類製造二、竹木類製品業一、飲食料品嗜好品製造五一、被服裝身具製造一五、土木建築業一四、大工左官石工ペンキ職一三四、製版印刷製本業五、學藝娛樂裝飾品製造業七、瓦斯電氣業一、其他工業一二、工場勞働者一一、物品販賣業五三三、貿易商四二、媒介周旋業八、物品賃貸及預り業一、銀行會社商店員一〇二八、旅館料理貸席及藝妓業其他娛樂場一八二、藝娼妓酌婦一〇、理髮浴場業八五、其他商業三五、車馬業自動車運轉手四二、船舶從業者一九、運輸取扱業五、官吏雇員一八、宗教關係者一、教育關係者九、醫務に關する業一九、新聞雜誌記者通信員著述者一三、美術家寫眞師一三〇、其他自由業二六。

貿易上に於ける日本の地位

○主なる會社商店　爪哇のバタヴイヤには日本郵船、大阪商船、正金銀行、臺灣銀行、三井物產等の支店出張所、南洋倉庫、日蘭貿易、東洋商會、川原商店、有馬洋行等があり、セレベスに南洋貿易會社、ボルネオに蘭領印度拓殖會社、ボルネオ護謨工業會社、スマトラにスマトラ護謨拓殖會社、蘇島木材洋行、スマトラ興業株式會社等がある。爪哇事情の紹介にはバタヴイヤの南洋協會支部と爪哇日報が當つてゐる。

○貿易額及重要商品　我が對蘭領印度貿易は左記の如き成績を示してゐるが、輸出品は各種の商品を包括し、現に蘭領東印度輸入貿易の第二位を占め、最も有望なる商品市場である。（單位圓）

	輸出	輸入
昭和四年	八七、一二五、四五一	七七、三四五、六一九
同五年	六六、〇四七、六四六	五九、九六三、五〇四

我國からの輸出品の重なるものは、綿布、綿糸、絹織物、綿毛布、莫大小類、タオル、琺瑯鐵器、陶磁器、硝子類、鹽乾魚罐詰類等の食料品其他種類頗る多く、輸入品は、砂糖、石油、鐵、ゴム、タピオカ及マニオカ、玉蜀黍、珈琲、錫、木材、藥材等である。

歴史

支那と爪哇

蘭領東印度諸島は、支那の唐の時代から爵婆（ジャバ）といふ名で知られてゐた。元の世祖が日本を攻略せんとして失敗した後、大軍を爪哇に送つて征服し、その時代から支那人は移住を始めたのである。歐洲人が進出を始めたのは我が後柏原天皇の永正六年（西暦一五〇九年）葡萄牙人がスマトラ島に來て土人を征服したのを最初とし、葡萄牙人はモルツカ諸島を中心に貿易を行ひ、次で我が慶長元年（一五九六年）和蘭人がスマトラに來り、同七年和蘭東印度會社を設立して爪哇の西端バンタムに本部を置くに及び、開發の事業は急テンポを以て發達するやうになつた。

英蘭兩國の衝突

英國が東印度會社を組織したのは慶長五年（一六〇〇年）で、英國も亦南洋印度に進出を企てつゝあつた爲め、其處に忽ち衝突を起し、元和九年（一六二三年）にはアンボイナで和蘭人が英、葡兩國人の大虐殺を行つたといふ如き事件も起つた。

斯く歐洲人が進出を始めた時代よりも、ずつと以前、卽ち紀元第一世紀頃、爪哇には既に一個の王國が存立し、第五世紀から六世紀頃にかけては隆盛を極め、所謂マヤフイツト王朝の文化として知らるゝ爪哇文明が發達したのであるが、十三世紀の頃、回教が傳來するに及び佛教を以て立つたマヤフイツト王朝も衰微に向ひ、葡蘭英の諸國が侵入した爲めに實權はこれら歐洲人の掌裡に移つてしまつたのである。英、蘭の兩東印度會社は南洋主要物產を歐洲市場に輸出することによつて巨利を博したが、和蘭の活躍は最も目覺ましく、武力によつて勢力を張るので英國も遂に南洋方面に於ける競爭を斷念し、專ら印度に力を注ぐことゝなつた。十八世紀の末、和蘭本國に革命が起つたのに乘じ、英國は再び南洋に勢力を張つたけれど、十九世紀の初め再び和蘭に實權を委ね、爾來和蘭はその領有を確實にして今日に及んだものである。

和蘭の優勝

英領ボルネオは明治十七年（一八八一年）英國北ボルネオ會社がブルネイ及びサラワクのサルタンから租借したもので、會社は英國政府の贊成を得て知事を置き之を支配してゐたが、明治二十一年（一八八八年）正式に保護領とし、翌年邊境地方を奪ひて漸次內地を占領するに至つたものである。

政治上の地位

蘭領東印度諸島は現代に於ける地上の樂園である。その位置が赤道直下にあるに拘らず、想像する程暑熱も甚しからず、地味は肥え、物資は豐かに產し、廣大なる面積を有する諸島嶼は

開放せる門戸

今尙ほ殆ど原始的の狀態を保ち將來の開發を待つて居り、生活費は安くて爲すべき事業は多く、しかも東印度政廳は何人に對しても門戸を開放してゐるのである。されば近年外國資本は滔々として東印度諸島に流れ込み、その開發は加速度的に行はれて、重要なる生產地となると同時に復た有望なる消費地と化し、國際上に於ける經濟的地位は年と共に向上しつゝある。今試みに蘭領東印度當局が最近四半世紀間の貿易狀態に就て發表した報告書の一部を摘記して蘭領東印度の如何なる地であるかを窺つて見やう。

驚くべき發展

『今世紀の初めより四半世紀間に於ける蘭領東印度の經濟的發達の跡を尋ねる者は、誰しもその貿易と農業の異常なる發展に驚かざるを得ないであらう。蘭領東印度は一九〇〇年以來躍進の時代を經過したのであつて、この間に世界貿易の重要なる分け前を獲得し、世界市場への原料供給者として一躍重要なる地位を占めるに至つた。前世紀の終りに當領の將來に就てなされたる最も大膽なる樂觀者の豫想さへも遙かに及ばなかつた程、その發展は迅速であつた。斯の如き結果を見るを得たのは其處に幾多の都合よき原因があつたからである。その中にも一九〇二年のブリュッセル砂糖協約以後に於ける砂糖界の好況、護謨、茶等の急激なる發展、外領地方の鎭定、平和と、之に伴ふ外領地方の開發、熱帶產物に對する世界需要の

躍進的の趨勢

土人の經濟狀態

增加、土人の購買力の向上等が重なるものである。蘭領地方に於ける產業の發展は最も明瞭に貿易の數字に現はれ、四半世紀間に輸入は四・六五倍し、輸出は實に七・七三倍の增加を呈し、特に重要輸出品の輸出額に於て、砂糖は約三倍に、ゴムは二十八倍に、茶は六倍に、錫は四倍に、石油は二十一倍にそれ〳〵增加してゐる。更に蘭領東印度に取り有利な點は、輸出重要品中、世界に於て殆ど獨占的の地位を占めて居るものが數種あることで、これらは蘭領全體の貿易に對する割合は比較的に少いけれど、世界產額に對する割合から見ると、胡椒は世界全產額の八割、カボック棉は同八割五分、シザル麻は同六割、規那は同九割を占めてゐる。之に反し輸出品の大宗たる砂糖は全世界の九・六パーセントにしか當らない。又蘭領東印度に於ては、時局の變轉、相場の變動に適應し且つ能く耐へる力となる他の一つの要素がある。それは土人の輸出向農作物栽培の增加で、近時特に重要性を帶びて來た。いふまでもなくこれは土人に取つての富の增加、購買力の增大、より大なる經濟的防備力、而してより少く外國の資本に依賴することを意味する。輸出農產物の栽培と共に內地向食糧の栽培は勿論放擲するのでないから、經濟界が不況となれば直に本來の食糧作物に轉換する。この點は歐人の栽培に比べて明かに危險率が少いといふことが出來る。而してゴム、コプラ、カ

ボツク棉、珈琲、胡椒、檳榔子は土人によつて最も多く產出されてゐるのである。

輸入に關しては蘭領が農業國であつて工業的企業に殆ど缺けてゐることをよく反映してゐる。輸入品の最も重なる種類は、織物類、鐵鋼製品、機械といふやうなもので、之に次では食糧品の大宗たる米である。蘭領東印度は人口五千一百萬を擁する熱帶國である。從つて安價なる織物、金巾、シーチング、キャンブリックス等の重要なる市場である。尤も蘭領の織物消費量は支那や印度に比べると少いであらうけれども、この兩國は段々自國で織物を生產しつゝあるに反して蘭領內では織物工業は殆ど論ずるに足らぬ。斯の如き事情と當領の貿易開放主義とが原因となつて輸入織物に就ては、蘭、英、日の三國間に激甚なる競爭が行はれ中にも日本の活躍が目覺ましい』云々。

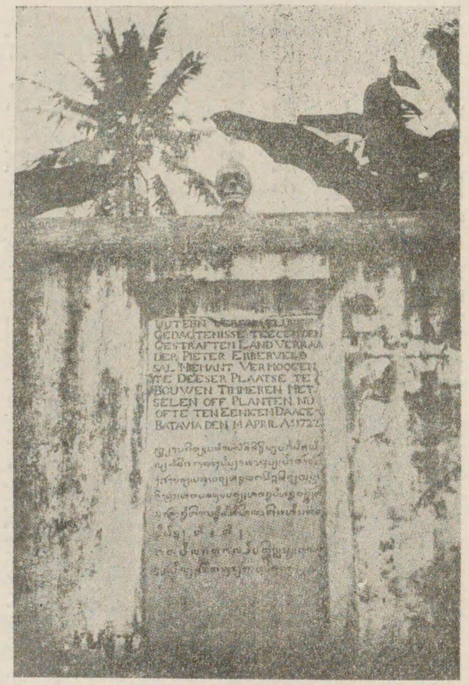
日英蘭の爭覇戰

斯の如き躍進的發展を見つゝある植民地を有する和蘭は甚だ惠まれた國といはなければならぬが、從來蘭領東印度に對する和蘭の植民政策は「慈父の壓制」と評せらるゝ傳統的の方針によつて行はれ、表面に慈愛を以て臨みつゝ實は搾取政策の一點張りで押通して來たのであつて、土人が柔順にその政策に服從してゐる限りは、泰平無事で濟む譯であるけれど、時勢の波はやはりこの島を襲ふて土人の覺醒を促がし、最も開明の度の進んだ爪哇に於て、その現はれが著

慈父の壓制

しく看取されるやうになつて來た。いふまでもなく爪哇は二千年の歷史を有する國で、紀元一世紀の頃既に相當の文化を有してゐた。それが言語宗教を異にする國に征服されて、唯々征服者の搾取の下に立たされてゐる中に、全く元氣を失つた弱小民族と化してしまつたのは已むを得ないことであつたが、島內が目覺ましく開發されると共に新文化の洗禮を受けてやがて又民族的の覺醒が民衆の胸に萠ざし初めるのも當然で、一九〇六年にブヂ・ウトモ黨なるものが爪哇に生れて、先づ爪哇人の黎明運動の前驅をなすことゝなつた。ブヂ・ウトモとはサンスクリット語で「最善の努力」といふ意味を現はしたもので、爪哇人の爪哇を建設するために最善の努力をなさんとする同志の者の團

新文化の洗禮



叛逆者の梟首　一七二二年和蘭政府に對し叛逆を謀つたバタビヤの混血兒ピエルエルベルベルフルエルズの首は今以てそのさらされたる壁面の上に記し罪狀をそれとなく。

民族自決主義の高唱

蘭領東印度の運命

體として結成されたのである。その翌年には、サリカット・ダガン・イスラム（回教徒商業組合）なるものが出現し、やがて一九一六年には別に蘭領東印度自由聯盟なるものが結成され、引續いて一九一九年には政治經濟聯盟が生れた。これらの團體は夫れ々々異つた主張の上に立ち、或るものは頗る穩健なる團體で單なる政黨たるに過ぎぬけれど、サリカット・イスラムの如きは民族的運動として鮮明なる旗幟を掲げ、現在三百萬の會員を有し、獨立した機關新聞をも有する程に發達してゐる。更に一九二七年に成立した東印度國民黨の如きは、明かに民族自決を標榜して廣く民衆に呼び掛けてゐる。これらの團體に對して、支那の國民革命や、印度の獨立運動に關する種々の報道は尠からざる刺戟を與へ、今や颯爽として自主を叫び自治を唱へて、慕地に目的達成のために進まうとする氣配のあるに對し、和蘭政府は甚だしく脅威を感じてゐる。現在では蘭領東印度に於ける經濟的の實權は、大概歐米人や支那人によつて掌握されてゐて、爪哇人はその勢力下に立たざるを得ない實情にあるが、蘭領東印度の政治經濟の中心は爪哇であり、次いで開發の比較的進んでゐるスマトラも爪哇からの移住者によつて開發された有樣であるから、爪哇人の民族運動がやがて蘭領東印度の運命を支配するに至る日なしとは何人も斷定することが出來ない。

爪哇人の服裝

總ての植民地が發達するにつれて、漸く母國から離れ去らうとするのは現代の著しい一般傾向である。殊に人種を異にする植民地を領有する國の惱みが漸次增大すべき事情にあるのは何としても致し方のない次第である。和蘭は東印度の發展を謳歌してゐる一面に於て、一種の爆發物を抱いてゐるやうな感じを催さゞるを得なくなつてゐる。

風俗

島々により、又人種によつて風俗習慣を異にしてゐるから一概に之を述べることは出來ない、文化の代表的なものは爪哇人で、最も原始的なのはボルネオの山地に住むダヤク族である。ダヤク族は今でも首狩の蠻風を持つてゐる。

○服裝　爪哇の王族や貴族は毛織物、天鵞絨又は絹に美しい刺繍を施し、それに金銀珠玉を鏤めたものを式服として着用し、一般の者も禮服には刺繍を施したものを着用する。日用の服裝は極めて簡單で、男女とも圓い筒形のサロン（袴）で胸の邊まで掩ふ外は上半身を露出してゐる。子供は十歳頃までは男女の別なく赤裸々の裸體生活である。しかし市街地には近來洋服を着し靴を穿いてゐる土民が少くない。洋服着用者以外の者は普通半股引の上に大幅の更紗で腰を包

熱帶街に見る日傘の情調

爪哇の神話劇　印度教の神話に因み、種々の動物に扮裝して演ずる劇で、印度教の傳說に存する白猿が出て大いに活躍するなど、却々興味に富んだものである。

み筒袖の上衣を着け、外出の際は暑さを防ぐために竹製其他の笠を被つてゐる。可笑しいことには彼等が洋服を着た時にも大幅金巾の更紗を幅一尺位に疊んで恰も日本の力士の化粧廻しのやうに腰に卷いてゐることである。婦人は近頃洋裝を眞似た薄布の筒袖上衣を着け、胸のところを美しい留針で綴ぢ合せてゐるのもある。但しそれは中流以上の者で、大部分は胸部迄サロンを纏ひ、それから上は露出して平氣でゐる。婦人は日中外出の時は長柄の日傘か、日傘の代りに美しい色彩の薄絹又は更紗を頭から被るが、その風情は却々趣致がある。

ボルネオの土人中の未開な者には、男子は褌に似た小さな布を着けるか、又は全然裸體でゐるのがあり、女は胸から腰にかけて籐製の輪を

手輕に出來る住宅

バダクの假裝ダンス　マスラトラ島のバダク族は食人種としてたつた頃は近頃がなんそれ習慣が止んだ、バダクは祭禮に木で造つた假面と木製の手で假裝した奇々怪々のダンスを行ふ。

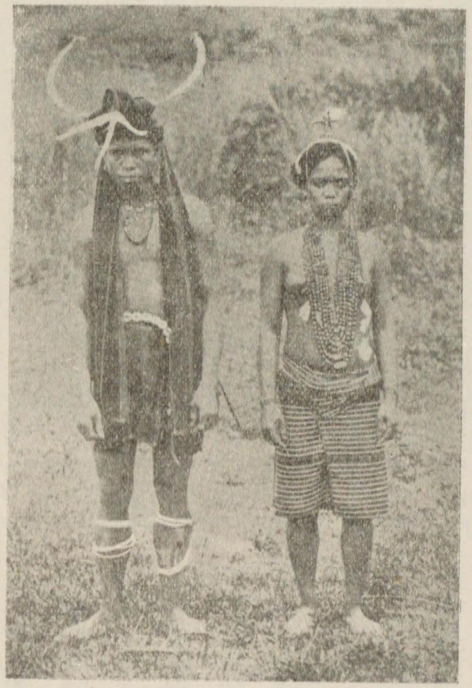
植込み、生垣か又は竹垣を繞らし、低い土塀を設けて門構へにしてゐるのもある。

卷いてゐるのがある。

○住居　爪哇には木造、石造、煉瓦造り等で爪哇一流の彫刻を施した雅致のある住宅があるが中流以下の者の家屋は至極簡單質素で、一挺の山刀と僅の材料と四五人の手傳ひさへあれば一日中で出來あがる程度のものである。家屋の前面には比較的廣い縁側を有し、その奥に寢臺を置き、窓は設けないで光線は周圍を取廻らした竹材の割れ目から入るばかりである。貧民の住宅は一家一室で中に幕を張つて數區に仕切るだけに止り、中流以上になると家の中央に通路を設け、その左右に幾室かの部屋がある。屋根は草か椰子の葉などで葺き、家の周圍には果樹を

ダヤク族は幾百尺もの長い一棟の家に幾十家族も同居してゐる。彼等の家は床が高くなつてゐて、梯子で出入するやうになつてゐる。

○飲食　爪哇人は、米、野菜、果實を常食とし、回教を奉ずる者は豚を食はず、印度教を奉ずる者は牛を食はない。米飯は銅又は土で造つた釜に湯を沸かして、洗つた米を笊に盛りその上にかけ、蓋をして蒸氣で蒸して炊くのである。肉類は水牛や山羊の肉又は魚肉を食ひ、好んで唐辛其他カレー粉等の刺戟物を嗜好する。食事には箸を使はないで指でつまんで食ふ。酒は極めてアルコール分の少いものが釀造されるが彼等は酒よりも寧ろ椰子の實から取れる液汁を愛飲する。島によつては玉蜀黍やサゴを主食とするところもあるが、何分にも、甘藷、椰子、ババイヤ、バナナ、パンの木等が到る處に產するのであるから、餓を滿すべき果實類は容易に且つ豐富に得られ、其處には今日の大都會に於けるルンペンが襲はれてゐるやうな生活難はない。因みに爪哇で一般に馳走とされる椰子の實の水で炊いた白米の飯に、鳥獸魚肉野菜等の數々を調理したものを混せて、爪哇の特產たる芳烈なカレーをかけた料理は非常な美味で、一度食つたら長くその味が忘れられないさうである。



イフガオ族の結婚姿　比律賓のイフガオ族が結婚の時の最上級の晴れの裝ひである。

家果汁の美味

○婚姻　一般の回教國と同じやうに一人で妻を四人まで持つことを許されてゐる。バスマ族等を除いては一般に性的道德は餘り嚴重でない。爪哇の王室では常に島內各地から九歲以上の少女を集めて朝夕舞を授けてゐるが、その數は百名以上を算し、その中から士族の娘で容貌秀で才智のすぐれたものが選ばれて王宮に養はれ、王子はそれらの中から王妃を選擇するといふ習慣が今でも殘つてゐる。爪哇では許嫁による結婚が多く、豫て親々の間で約束をしておいて、相當の年齡に達した時正式に媒酌人を立てゝ結納の取交はしをなし、盛んな結婚式を擧げることは日本古來の風習によく似てゐる。ボルネオでは土人の結婚する時には新婦は米の粉を顏に塗つて、附添ひの女と共に回教の寺院で待つてゐると、新郎は美々しく飾つた馬に跨つてやつて來て、村長又は回教僧侶に結婚に關する誓ひをなし、口紅用の梧椰子で新婦の頰を打ち、新婦は

米の粉を塗つた花嫁

墓地尊重の美風

膝を屈して新郎の脚を洗つてやる。次ぎに新郎は新婦の口へ匙で飯を入れてやつて、殘りの飯を自分が食つてしまふ。斯くして式が終ると鐘、銅羅、太鼓、胡弓などで囃し立てつゝ夜を徹して披露の酒宴を催すのである。

スマトラの結婚奇習　スマトラにはさまざまの結婚奇習があるが最も奇拔なのは北部中央地方のバタクの族の結婚で新郎新婦が晝間村の街道に並び臥して夫婦であることを示すことによつて結婚が成立するのである。

○葬式　南洋土人は多く回教徒であるから葬式も回教の儀式に從つて行ふが、地方によつて多少の相違がある。爪哇では屍體を白布に包んで竹の輿に載せその上にサロンを被らせて、後から親戚始め會葬者が葬列を作つて從つて行く。途中は輿の上へ細い紙片を撒き散らしながら、僧侶の音頭につれて、一同聲を合せて經を誦しつゝ進むのである。一般に墓地を尊重する風があり、參詣と掃除とを怠つては神罰を蒙ると稱せられるので、何處の墓所も清潔に掃除されてゐる。

六百二十三島

第八節　帝國委任統治領

位置

日本帝國の委任統治地たる南洋諸島は東經百三十度から百七十五度、北緯零度から二十二度に亘る南北千二百哩、東西二千五百哩の海面に碁布する六百二十三の島嶼より成り、東は遙に米領布哇に對し、西は比律賓諸島及び蘭領セレベス島に隣りし、南はニューギニヤ島及びビスマルク諸島に面し、北は我が小笠原島及び硫黄諸島に連つてゐる。大別してマリアナ、カロリン、マーシャルの三群島とし、三群島中主要な島はマリアナ群島のサイパン島、テニアン島、ロタ島。カロリン群島のヤップ島、バベルダオブ島、アンガウル島、春島、夏島、水曜島、ポナペ島、クサイ島、マーシャル群島のヤルート島である。

面積人口

面積は百三十九方里三二で、ほゞ東京府の面積に等しく、人口は六萬九千六百二十七を算し、

錯雜せる人種

その內邦人一萬九千八百三十一人、外國人九十五人である。

ポナペ島民の踊　揃た揃よた踊子が揃た、踊り の好きなポナペの島民が手拍手、足拍手揃へて踊つてゐる光景。

人種宗教

土人の種族については、或は馬來半島から東遷したものとする說や、或は東方ポリネシア人が西進したものだとする說があつて所說が一定しない。たゞ各群島土人の言語、風俗習慣の相異る點から觀察して極めて錯雜した人種であることが想像される。現今では概別してチヤモロ、カナカの二種族とし、チヤモロ族は性質溫順勤勉で衣食住も進步してゐるがその數少く、カナカ族も溫順で快活ではあるが極めて懶惰で文化の程度が低く、まだ原始的狀態を脫してゐない。カナカ族はその數に於てチヤモロ族の約十六倍の人口を有する。土人の間には特に宗教と稱する程のものなく、動植物を神聖視して崇拜する如き迷信が盛んであるが、稍進步せる分子は基督教を信じてゐる。

村吏には酋長を任命

政治上の區劃

南洋廳は西カロリン群島中のコロール島に置かれ、全群島をサイパン、ヤップ、パラオ、トラック、ポナペ、ヤルートの六支廳管區に分ち、地方行政に就ては舊慣に依る大酋長、又は酋長を村吏に任じ、法規の周知に關すること、願、屆の進達に關すること、支廳長から發した命令の傳達、又はその執行に關することなどを掌らせてゐる。これらの村吏には總村長、區長、村長、助役などの名稱が與へられてゐる。

產業

全群島の總面積二十二萬町步の內、農耕適地又は椰子林適地たるもの約七萬町步と推定されてゐるが、既耕地約九千六百町步、椰子林二萬八千餘町步で尙將來三萬餘町步は開拓さるべき可能性を持つてゐる。島民の農業狀態は頗る原始的で、玉蜀黍、甘藷、タピオカ、薯蕷、甘蔗

産業的價値

麭麵果、鳳梨、バナヽ、蜜柑等を産し、牛、豚、鷄の飼養も行はれてゐる。林産物としては椰子樹、紅樹（マングローブ）、象牙椰子、鐵木、ウカル、タマナ、マンゴー等があり、鑛産物としてはアンガウル島の燐鑛だけである。水産業は海底が殆ど珊瑚礁なるため漁撈の作業が困難で未だ十分な發達を見ないが、高瀨貝及び蝶貝が採取され、將來は眞珠其他貝類の養殖場として發展すべき素質を有してゐる。

ポナペ島の婦女　裸體生活から着衣の生活に變らとうとしてゐるポナペの婦女が、最上級の禮裝を凝らしたる晴れの姿である

歴史

マーシャル群島は天明元年（西暦一七八一年）英國の船長マーシャルの探檢によつて、その存在が確められ、その名に因んでマーシャル群島と呼ぶことゝなつたが、獨逸は之を自國の有に歸せんとして、ハンブルグのボテー商會に勸め開拓の任に當らしめ、天明七年軍艦を派遣し、ヤルート島の酋長に交渉して、サモア群島中のサルアフアタ及びビスマルク諸島中のミオラの二地點に貯炭所を設け、更に明治十八年再び軍艦を派遣して各酋長と折衝した結果、ヤルート島其他附近の諸島を完全に占領してヤルート會社を設立した。然るに濠洲の英國商人もこの方面で活躍を期しつゝあつたため衝突を起し、明治二十一年英獨間に於て交渉を重ねた末、一の協定を作つてギルバート島を英領とし、マーシャル群島及びナウル群島を獨逸の植民地と定め、明治三十九年に至り、ヤルート會社の手から獨逸政府の直接管理に移した。

英獨の爭奪

獨逸の領有

マリアナ群島は我が大永元年（西暦一五二一年）西班牙のマゼランに依て發見され、永祿八年（一五六五年）西班牙の領有となり、當時の西班牙皇后マリア・アンナの名を取つてマリアンナ群島と命名された。明治三十二年（一八九九年）米西戰爭に敗れた西班牙は比律賓を米國に割讓し、本群島の管理にも困難を感じつゝあつた際、獨逸の希望により二千五百萬ペソ（我九百六十萬圓）で獨逸に讓渡した。

カロリン群島は大永七年（西暦一五二七年）葡萄牙のディエゴ・ダ・ロシャが發見し、貞享三年（一六八六年）西班牙の領有に歸し、國王カロル二世の名を取つてカロリン群島と稱することゝ

なつた、其後明治十八年獨逸人がこの島に上陸して占領を企てた爲め紛爭を生じたが、羅馬法王の仲裁に依りて解決し、明治三十二年遂にマリアナ群島と共に獨逸に讓渡したのである。

我が海軍の占領

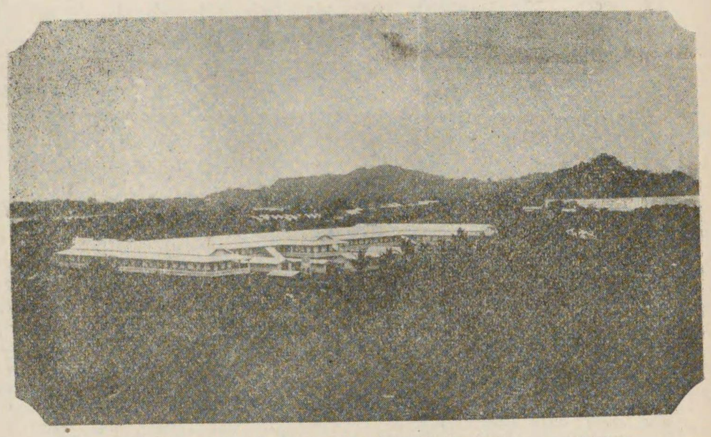
大正三年歐洲大戰起り、日獨の國交斷絶するや、同年秋我が海軍は先づマーシャル諸島を占領し、次でカロリン、マリアナ諸島をも占領し、ヴエルサイユ媾和條約により大正十年四月我が國の委任統治領となつたのであつて、大正十一年四月から南洋廳が設置され今日に及んでゐる。

政治上の地位

委任統治の方式

南洋の我が委任統治地は前述の通り經濟的見地からすればその價値は餘り大なるものではない。元々獨逸は海外經略に就ては最も遲れて活動を始め、獨逸が太平洋方面に乘出して來た時には既に目星しき土地は先進諸國の手中に歸し、僅に拋棄された若干の殘滓を存せるに過ぎなかつたから、獨逸はニューギニアの一部と、マーシャル、カロリン諸島を獲て纔に渴望を慰め得たに過ぎない。すなはち我が南洋諸島はさうした貧弱な價値しか持たない地である。國際聯盟規約によつてもC式委任統治は「人口の稀薄、面積の狹小、文明の中心より遠きこと、又は

國防上の障壁



南洋廳　南洋群島を統治する南洋廳はパラオ諸島中のコロール島にあるもの。海風にそよぐ綠樹の間に廳舍が聳え、皇化普く群島及んでゐる。

受任國領土と隣接せること、其他の事情により云々」と規定してあつて、人口の稀薄、面積の狹小といふやうな經濟價値の貧弱なことを前提條件としてゐる程である。しかしC式委任統治は「受任國領土の構成部分として其の國法の下に施政を行ふ」ことになつてゐるから、南洋諸島に對してC式委任統治權を有する我國の立場は、シリヤやパレスタインに對する英佛の委任統治等とは大に趣を異にするはいふまでもない。殊にマーシャル、カロリン諸島は軍事上からいつて東洋の屏風たる地位を占め、我が國防上一の外廓的牆壁を成してゐる點に顧れば、その價値は頗る大である。獨逸が西班牙の財政紊亂に乘じ、多額の代價を拂つてこの群島を買收したのも、東洋に進出する足場とする目的に出でたのは明である。又ヴエルサ

軍事的には重要の地

イユ媾和會議の際、米國は最初この群島を殆ど問題としてゐなかつたが、中途に至りウイルソンが米領グアム島と比律賓との間に介在するヤップ島の重要なるに氣付き、垂涎萬丈、之を日本に委ねるに忍びず、該島の處分を保留せんとして努力を試みた程である。

ヤップ島には西カロリン會社時代に設けた大貯水タンクの外に、獨蘭電信會社の造つた貯水タンクもあつて、この方面に遊弋する艦隊は給水の便を得べく、且つ三四千噸級の艦船を裕に出入せしむる港があり、又トラク島には珊瑚礁で圍まれた灣があつて大艦隊を入れることが出來る。殊に通信上の中心地點としてヤップ島は最も重要な位置を占めて居るのであるから、日本が太平洋の眞中にこの群島を持つてゐるといふことは甚だ軍事上の强味を加ふる譯である。

尙又この群島は芋、甘藷、馬鈴薯、その他の蔬菜類の耕作に適し、豚、鷄等の繁殖力にも富んでゐるから、戰時に於ける空軍、海軍の根據地點として其の價値は絶大である。試に軍事眼から考察すると、米國の大西洋艦隊がパナマを通過して桑港又は布哇で太平洋艦隊と合し、更にグアム島まで來るには少くとも三十日内外の日子を要するが、日本から南洋群島へは一時間十浬の經濟速力で走つても八九日で到着することが出來るから、米國の太西洋太平洋の兩艦隊が桑港か布哇で合隊するに先ち、我が艦隊はグアムを占領することが出來る。既にグアムが我が手に落ちると、米國艦隊は比律賓に直航することが不可能となり、索敵行動を取つて我が艦隊を撃破するか、大迂回をしてマニラ灣に逃げ込むかの二途しかないことになる。

日本語の普及

我が帝國の運命が將來太平洋の覇權を掌握すると否とによりて重大なる相違を來すとせば、南洋の委任統治諸島は之と至大の關係を有するは言を俟たず、單純なる經濟論を以て南洋諸島の價値を律すべからざる所以は實にこゝにある。

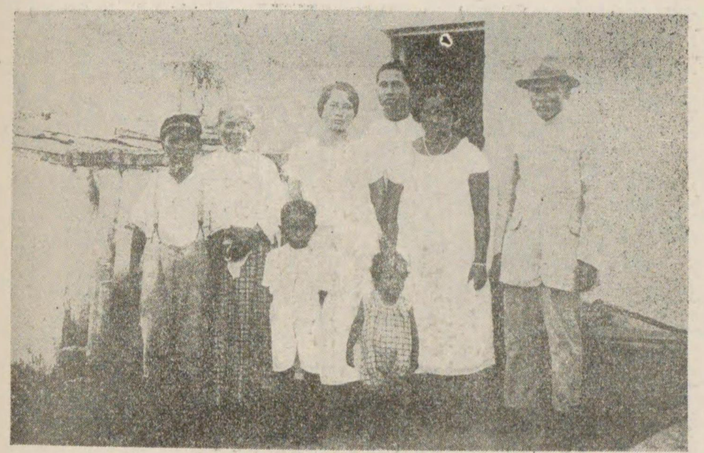
風俗

我が國の占領に歸して以來、教育の普及に努め、民風の善導を圖つてゐるので、次第に人智も開け、言語の如きも從來各群島の主要島を中心として各種の言語が存し、互に相通ぜざる狀態であつたけれど、今では日本語がほゞ一般に通用するまでに普及した。

○服裝　チャモロ族及び東部のカナカ族の一部を除いては大抵、褌、腰卷を着けるだけで裸體で暮らすのを常態としてゐたが、文化の風潮は先づ形式的に土人の居常に現はれて、漸次著衣するものが增加した。男子はシャツに半袴を穿き、女子は更紗金巾等で作つた西洋婦人の寢衣樣のものを著てゐる。下層の島民は殆ど寢具を用ゐず、一般に林投樹（タコノキ）の葉を巧みに編んだ敷物

安易な自然生活

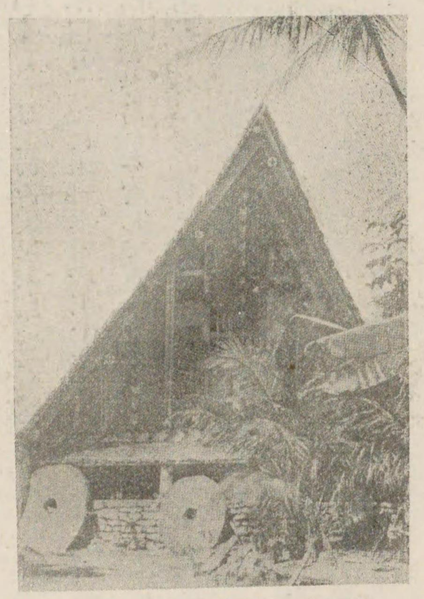
を敷き、座臥飲食すべてその上でする。枕はカボックを入れたものを用ゐるのが普通である。文身、裂耳、耳環、腕環、頸飾、彩身などで身體を裝飾する風習が存するが、それも文化の進むにつれて次第に減つて來た。



チヤモロ風俗　南洋委任統治地の島民中チヤモロ族は比較的高い文化を有してゐる、その住宅も服裝も他よりは一段優れてゐる。

○食物　天惠に富む群島の事とて食物を得るには頗る簡易で、少數の上流者を除き、多くは野生の植物を食ひ、間々漁獲した魚介に簡單な調理を加へて食ふといふ程度である。主食物の種類は、麵麭樹、椰子樹等の果實、タロ芋（里芋の類）、ヤム芋（山芋の類）、甘藷、タピオカ等で地方によりてはボーイ（南洋栗）、玉蜀黍を食し最近では米を食する者も多くなつた。牛、豚、山羊、鷄、鴨、犬等の鳥獸肉、蟹、シャコ貝其他の魚類及び蜜柑、パインアップル、マンゴー、バナヽ、ババイヤ等の果實は彼等の好んで食する所である。その他島民の最も嗜好するのは、酒、煙草及び檳榔子であるが、酒を飲むと兇暴性を現はす動機となるのと衞生上の必要もあつて、南洋廳は飲酒を禁ずる方針を取つてゐる。飲料水は概して雨水又は椰子の實から得るのが例であるが、中には溪流又は井戸水を用ゐてゐる者もある。

○住居　家屋は一般に粗雜で簡單であるが島々により特色を現はしてゐる。西カロリン群島の諸島は稍々進歩せる構造を有し、殊にパラオ諸島の家屋は堅牢で床上高く採光通風等にも多少の考慮を拂つてゐる跡が認められる、そのアバイと稱する彼等の集會所は比較的規模も宏大で種々の彫刻その他の裝飾を施し濃麗な色彩を加へたものである。西カロリン群島トラック諸島及びマーシャル群島に於ける住居は概して劣等で、簡單な床上又は土間に莫蓙を



ヤップ島民集會所と石貨　ヤップ島民は好んで丸い石を用ひて、その前に穴を掘り、昔は石貨を使用した。この集會所は島民の建物であるこの計設のあるこの石貨はあるこの集會所はあるこの石貨はあるこの集會所はあるこの石貨はあるこの集會所は

文化向上

敷き、椰子の葉を編んで周圍を覆ひ、屋根は椰子又は林投樹（タコノキ）の葉で葺いてゐる。資産のある者又はチヤモロ族の多くは木造又はコンクリート建、亞鉛板葺の洋風家屋に住み、殊にサイパン島のチヤモロ族の住居は洋風コンクリート建の家屋が軒を連ねて一街區をなしてゐる。

○教育　日本の占領以來島民學校又は公學校を開設して島民兒童の教育を施した結果、昭和五年四月までに本科卒業者五千七百八十八人、補習科卒業者千七百五十六人を算し、それらの卒業生が各島に分布してゐるので、これがために一般の文化は著しく向上して來た。又島民の卒業者で公學校の助教員として教鞭を取つてゐる者が二十餘名もある。

密接なる關係を有する地域

血は水よりも濃し

第七章　關係地方

第一節　概說

前章までゞ地理上に於ける亞細亞各地の說述を終つたが、亞細亞を主題とする本書の編述の趣旨からして尙ほ此の外に若干の瞥見を送らなければならぬ地方が存在してゐる。それは地理的に甚だ密接な關係を有して、殆ど亞細亞の一部とも見るべき地位を有する土地と、政治的經濟的にそれらの土地の背景をなす邦國である。埃及領のシナイ半島の如きは自然的には當然亞細亞の一部と見るべきで、人文的に埃及と共に亞弗利加の部に於て取扱はれて居るに過ぎず、又た南太平洋のニューギニヤは從來亞細亞の一部なるかの如く解せられてゐた程で、是れも本書で一應の說述を試みるのが至當である。ニューギニヤに就て說かんとすれば、それと一體をなしてゐる濠洲聯邦の一斑を語ることがまた必要となつて來る。其他人種的の關係からして、どうしても看過するを得ない亞細亞民族の國家が他にあるのであつて、それらの脈絡を辿つて行くと歐洲に國する匈牙利、フインランド、エストニヤ等の諸國は吾等に無限の興味を與へる

國家であることを感ぜざるを得ない。まして世界の大勢は人種的の感情を刺戟することが漸く深刻となり、復興亞細亞の將來を按ずるものに取つては、人種竝に宗教に關する考察が頗る重大な意義を齎らすものであることを發見するのである。血は水よりも濃しといふが、國際間に流るゝ思想感情は正にそれが一つの眞理であることを證明しつゝある。是れ本章に於て更に關係地方として、恐らく人の意表に出づるであらう諸國に對して考察を試みやうとする所以である。

亞細亞の關門

第二節　埃及

位置面積人口

埃及は亞弗利加洲の北部に位するも、それが亞細亞近東に近きと共に、その國土の一部たるシナイ半島は地中海と紅海の間にあつて亞細亞の一部をなしてゐる。殊にスエズ運河が亞細亞の一關門たる關係上、本章に編入するは寧ろ當然である。總面積は三十八萬三千方哩、概ね平原にして有名なるナイル河の貫流するあり、兩岸の地は肥沃で能く物を產する。人口は一千四百二十餘萬である。

英埃の紛爭

政治上の地位

埃及は元土耳古領なりしが、歐洲大戰勃發の年、卽ち一九一四年十二月十八日、英國は軍事の必要上、亞細亞に於ける英領への關門たるスエズ運河を掌中に收めるべく、之れを占領し保護領とした。爾來英埃間には獨立に關する鬪爭が絕えず行はれつゝあるも、未だ半獨立的地位にある。一九二二年三月十五日卽位したファウド陛下の統治に成る王國で、全國は五州十四縣に分れ、それ〴〵長官が配置されてゐる。

都市

首府カイロはナイル河沿岸に位し面積六十二方哩、人口百六萬四千餘を有し、第二の都市たるアレキサンドリアは人口五十七萬を有する。ポートサイドは人口十萬、スエズ四萬である。

人種

主としてアリアン系統にして、ネグロ系の雜種もある。

宗教

回教徒最も多數にして、全體の九割一分餘を占め、耶蘇教徒は八分餘、ユダヤ教徒は極めて稀にして全體の四厘五毛を算へるに過ぎない。

産業

埃及の産物

主として農業が盛んであり、棉、米、麥、大豆、鑛物（マンガン、硫黄等）、石油其他を産するが、棉は世界的に有名であり、英國が此國を領有して手放さないのは、埃及が棉の世界的産額を支配してゐる故といはれてゐる。

交通

世界交通の一關門たるスエズ運河は長さ百三哩に及び、一八六九年十一月十一日の開通に成る。國内鐵道、及びナイル河の航行が交通機關の主なるものであり、ロシアよりカイロに及ぶ定期航空路が存在する。

レセップの偉業

スエズ運河の將來

スエズ運河

紅海と地中海とを繫ぐスエズ運河は、佛人レセップが十三年の歲月を費して一八六九年に開鑿したものである。運河の水路は百三哩の延長を有し、ポートサイド、イスメリア、スエズの三箇所に監督所を置き、別に十六箇所に假泊所をも設けて航行の安全を期してゐる。運河航行中は一時間四浬内外の緩速力で進むことになつてゐるから通過に要する時間は約一晝夜である。この運河は最初より運河會社の經營に委せられてゐるが、會社の株券は現在大部分英國政府や英國人の手に歸して居て、年々通過船舶が增加するため、運河會社は通過料の增收により經營狀態が佳良となり、株主へ配當する利益が增進してゐる。一箇年間に於ける通過船舶噸數は近年三千萬噸以上に達し、通過旅客數も三十萬人以上を算するやうになつた。

しかし、時勢は又たスエズ運河の地位をして何時までも順調ならしめないのであつて、今や同運河に影響を及ぼすべき交通上の變化を來たさうとしてゐる。元來スエズ運河の重要性は歐洲と東洋との商業上の主要通路であると同時に、英國其他の諸强國艦隊が東洋植民地への通路に當る點にあつた。然るに最近この重要性は商業上にも軍事上にも失はれんとする傾向にある。

軍事眼から見た運河

それはメソポタミヤの項下に記した通りバグダードとパレスタインのハイファとの間に沙漠横斷鐵道が計畫され、今や實現に近づきつゝあることで、この鐵道が完成する曉には西部亞細亞を對象とする貿易の大部分がスエズ運河を經由しないで鐵道に依つて行はれるに至ることが豫想される。尙ほ英國政府當局はハイファと紅海とを連絡するためにアカバに出づる鐵道を計畫中であると傳へられ、又た猶太復興運動者の間にはアカバ灣と地中海とを連絡する運河を開鑿してスエズ運河の地位を奪はんとする企圖も存在してゐる。アカバ運河の計畫はシオニストの空想から發したものと見られて居り、その實現性は疑はれるが、將來若し猶太系富豪の投資により之が實現されるやうなことになればスエズ運河に重大な影響を與ふべきはいふまでもない。

英國參謀本部の意向に依れば、近年航海造船術の進歩した結果、スエズ運河經由と喜望峰迂回との差は大に縮少されたのみならず、喜望峰迂回の航路は特に戰時に於て英國海軍に取り却つて安全であるといふ說とが認容されるに至つたやうである。蓋し戰時に於ては佛伊等地中海の海軍國が潛水艇、水雷艇等を以て英國艦隊をスエズ運河附近で脅かし得る危險が大であると認められるからである。斯うした事實は、埃及に取つて勿怪の幸で、スエズ運河が軍事上の重要性を失へば、英國の埃及に對する壓迫が減るであらうといふ期待が埃及國民の腦裡にも浮んでゐる。それは暫く措き前述の如き鐵道計畫が實現すると共にハイファ港の大修築が完成すれば必然地中海に於ける大開港場となり、埃及のアレキサンドリヤ港の繁榮に影響を及ぼすは勿論、バグダード、波斯其他中部亞細亞諸國との聯絡に一大變化を及ぼすは明かである。右の如き理由でスエズ運河も過去に見た如き順調なる運命が永く將來にも續くものとは思はれない。

○日本との關係　カイロには日本商品館が數年前から開設され、日埃貿易は大いに促進されつゝある。在留邦人はアレキサンドリヤ總領事館管內に六十六人、ポートサイド領事館管內に十四人である。日埃間には昭和五年三月通商暫定取極が成立し、關稅には最惠國條款が適用されてゐる。

第三節　ニューギニヤ

位置面積人口

南太平洋上にある一大島で、蘭領東印度諸島の東方に位置し、一名パプア島とも稱する。總

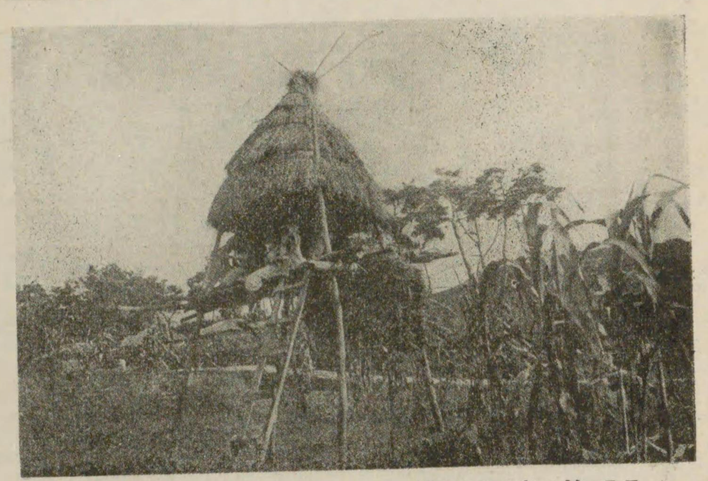
人口は稀薄

面積約三十一萬二千方哩(七十萬八千方粁)で、その内、蘭領十五萬方哩、英領九萬方哩、濠洲聯邦の委任統治地たる舊獨領が七萬二千方哩である。人口は全體を合して凡そ八十五萬と推定されて居り、その内蘭領に約二十二三萬人の土人があり、英領に住する土人は約二十五萬内外と算せられ、濠洲委任統治地も略ぼ之と同數の土人が居る。白人は英、蘭、獨、米の諸國人が居住し、東洋人は日本人及び支那人が在住してゐる。

パプアの美人　男女共に見るもの胸部の表情は、ニューギニヤのパプア族の女性の有する魅惑は、別段の豐滿に達するまで、付かぬ程度に達するものである。

人種宗教

土人は馬來種で、土着のパプア族も殘存してゐる。宗教は一般に基督教を奉じてゐる。



ニューギニヤ土人の小屋　ニューギニヤの土人は粗末な小屋に住む。しかも、この住居は敵の來襲を見張る望樓でもある。

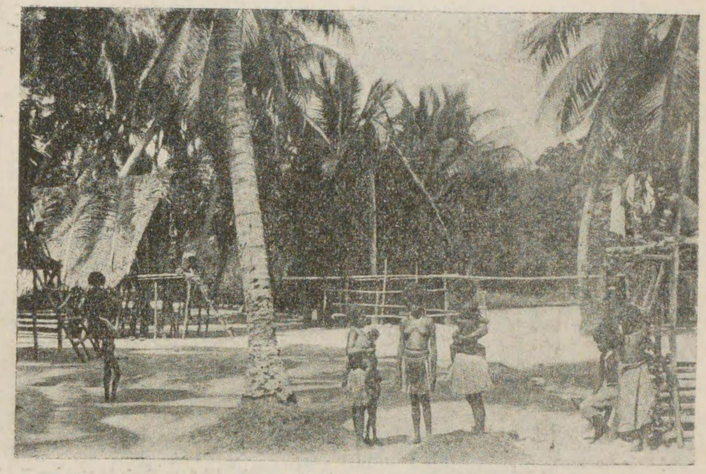
屬領區劃

本島の西半部が蘭領で、東南部が英領卽ち濠洲聯邦に屬し、サマライ、ミシマ等の諸島が附屬してゐる。北東部は一八八四年以來獨逸の領有に歸しカイザー・ウヰルヘルムランドと稱して附近のビスマルク諸島をも併有してゐたが、世界大戰後、巴里平和條約により濠洲聯邦政府の委任統治地と定められ、C式委任統治が布かれてゐる。

都會

英領のモレスビー、サマライ、ダルー等が都邑の形をなし、舊獨領のラバウルが最も施設の完備した商港である。

白濠主義の適用



ニユギニアニ蠻人の合宿所　蠻民部落には合宿所があつて、妻子のある男子も其處に集合して寢起きをする。團結が力である。と云ふことを彼等は最も能く知つてゐる。

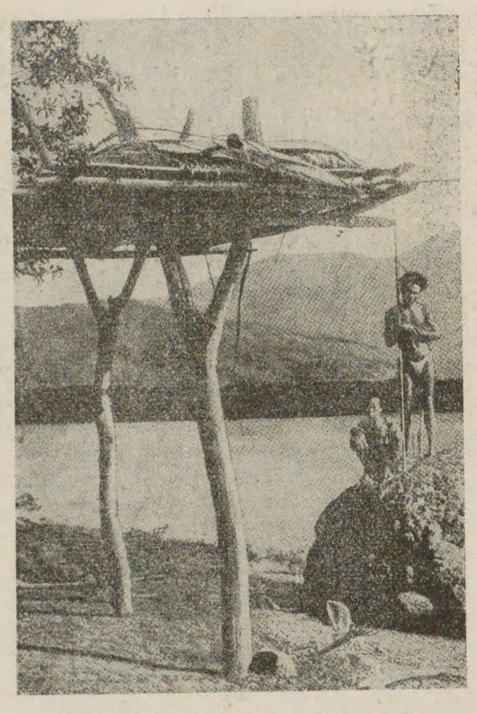
濠洲聯邦の委任統治地となり、C式委任統治が行はれるやうになつた結果、この區域にも濠洲移民法が適用され、その上濠洲とニユーギニアとの間には沿岸航海に關する法規が適用されるやうになつて、本邦商船は濠洲とラバウル港との間に於て一切運送に從事するを得ないことゝなり、邦人の發展は殆ど全く阻止されてしまつた。蘭領は面積廣きも甚しき不健康地で、和蘭の守備隊が疫病のため全滅して和蘭は一時この地を拋棄しようとした程であるから、英領及びその委任統治地が現在の如き狀態である限り日本に取りては關係が疎遠となり、僅に眞珠採取に就ては日本人が特殊の技能を有するため入國を許されてゐるに過ぎない有樣である。

産物

英領には金、銀、銅、鐵、鉛、錫、硫黃、石炭、石油、黃玉、綠玉等を産し、特にミシマ島に鑛産が多い。其他全體を通じ椰子、ゴム、珈琲、コ、ア、肉桂、檀香、籐等を産する。又蘭領には砂糖、舊獨領には眞珠を産する。

日本との關係

從來邦人にしてニューギニアに發展を企て、相當の成功を收むる者もあつたが、一九〇六年英領が濠洲聯邦政府の所屬となつて、所謂白濠主義の下に置かれ、更に歐洲大戰後、舊獨領が



奇妙な葬式　ニューギニヤの土人は人が死ぬると野外に棚を設けて屍體を其の上に葬る、時としては一つ棚へ數人の屍體を葬ることもある。

第四節　濠洲聯邦

位置面積人口

太平洋の南にある大陸で、面積二百九十七萬四千五百八十一方哩（七百七十萬四千百餘方粁）人口六百三十七萬三千で、人口密度甚だ低く一方哩約二人强、しかも總人口中、都市居住者が約半數を占めてゐるから、地方の人口密度は一方哩一人といふ稀薄さである。

地廣く人煙稀薄

人種宗教

人種は大部分が英人系で南東部に集中して居住し、中部以西内陸の大部分は殆ど無人境である。土人は漸減して七萬人内外を算するに過ぎぬ。宗教は基督教が行はれてゐる。

政治上の區劃

濠洲は英帝國の自治領で一九〇一年聯邦となつたものである。聯邦は六州と二地方より成り立法權は議會にあり、總督の下に内閣があつて、行政權は英國皇帝に代り總督が行ふ組織となつてゐる。上院は各州より六人づゝを選出し、三十六人の議員より成り、下院は各州の人口に比例して選出され、大體上院の倍數の議員より成る。

濠洲の羊飼養數は一億八十二萬頭

都市

シドニー（人口百十二萬）、メルボルン（百萬）、ブリスベン（三十萬）、アデレード（三十三萬）、パース（二十萬）、ホバート（五萬）、首府は近年シドニーからキャンベラに移された。

産業

農業、牧畜を主とし土地が肥沃で小麥の産額多く、玉蜀黍、葡萄、甘蔗、柑橘類の栽培も盛である。羊、牛、馬の牧畜盛に行はれ、羊毛は世界産額の二割を占め、冷凍肉、バタも多量に輸出する。西部沙漠地方は金の産地として知られ、又ニュー・サウス・ウエールスの石炭、南部アイヤンノツブの鐵鑛、ブロークンヒルの銀鉛鑛は何れも豐富なる埋藏量を有してゐる。トレス海峽の木曜島及び西オーストラリアの北西海中には眞珠貝が多く、その採取に日本人が出稼

濠洲の牧場　濠洲は羊の國、その廣濶なる牧場に悠々として羊の大群が草を喰むでゐる光景は、濠洲の產業の一面を如實に示す。

人の住民を有するに過ぎない有樣で、聯邦といふ名稱の堂々と聞え、富源の豐富なるを稱せらぎしてゐる。

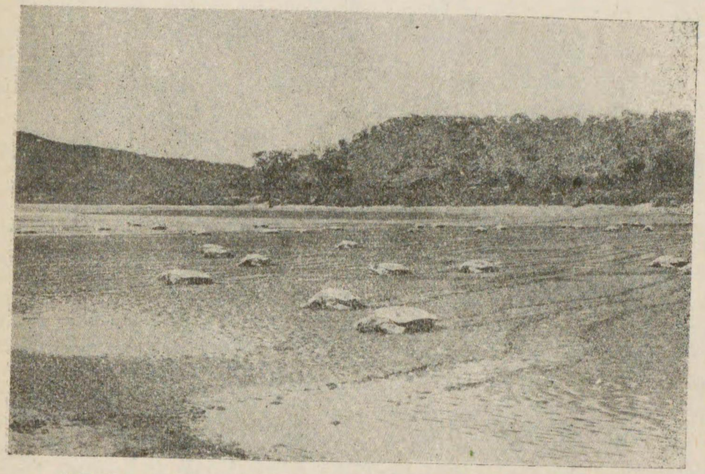
政治上の地位

十八世紀の後半、キャプテン・クックによつて濠洲大陸が確實に英人の手に收められてから後も、英國は此地を唯だ罪人の流謫地としてのみ遇して來たのであるが、土地肥沃、氣候溫和なる南東部は自然に開發され、其後金鑛が發見されるに及び、一攫千金を夢みる移民が英國から多數に渡來した。それらの移民により人口が增殖するに連れ自治植民地となり、次で濠太刺利聯邦を組織するに至つた。しかし、面積三百萬方哩に近い廣い地域に現在まだ僅に六百餘萬

れるに拘らず、その開發は遲々として進んでゐない。日本內地の人口密度は一方粁百六十五人、英本國のそれは百八十七人である。然るに濠洲のそれは一人に滿たないのであるから、斯の如き稀薄な人口は當然勞力の不足を意味し、あたら廣大なる肥沃の土地を抱きながら、それを充分に活用し得ないのみならず、一般產業の發達を期待することが出來ないのである。

元來、濠洲は勞働者を中心として國を建て、最初、富源の豐富なるまゝに勞働者の樂園と稱せられた土地である。その勞働階級に取りては新來の移民が增加することは、やがて既住の勞働者の勞働條件を不利に導くといふ理由から、異民族の入國を固く阻止し、所謂白人濠洲主義によつて日本や支那の移民を絕對に排斥して來たのである。白人のみによつて濠洲を支配せんとする傳統的の方針も或る程度までは成功して、農業牧畜並に鑛產による富の增進目覺ましく、勞働者の天國たることを如實に示したのであるけれど、今や濠洲聯邦そのものは人口稀薄なために、いたく不安と焦燥とに驅られなければならぬ立場に置かれてゐる。その產業的立場を見るに、羊毛と小麥とは濠洲の主要輸出品であるが、羊毛は近年人造羊毛が發明されて羊毛の消費は世界的に減退せんとする上に、人造絹絲が素晴らしき勢を以て毛織物を壓迫するに至り、更に又南阿、露西亞を始め其他の各地の羊毛產額が增加するといふ有樣で、羊毛の價格は大暴

落を告げたのである。小麥も亦世界的の生産過剰で暴落し、濠洲の誇とするこの二大生産物は甚しき打撃を受けた。一方、住民の日常使用品は國内に生産せられず、豫て輸入に仰ぎ來つたのであるから、主要輸出品の減退せるに拘らず、それらの日用品は輸入に待たなければならぬので、忽ち輸出入の均衡を失し、國際經濟政策としては釣瓶打に關稅の引上を行つたり、金輸出の制限を行つたりしたが、それも却つて自繩自縛に陷る結果となつて非常なる財政難、經濟難に直面してゐるのである。今更産業政策の建直しを圖らうとしても、僅々六百萬の住民を擁するに過ぎない國内市場を相手として、大生産組織による工業が成立つ筈もなく、



龜の競走　濠洲沿岸には多數の大海龜が棲んでゐる、産卵期には夜間陸に上つて産卵し、朝になるとまた急いで海へ還つて行くのである、さながら龜の競走といふ珍な光景を展開する。漁夫はそれを待ち構へて捕獲するのだが、龜も一生懸命に逃げ

産業上の受難

白晝幽鬼に怯びゆる濠洲人

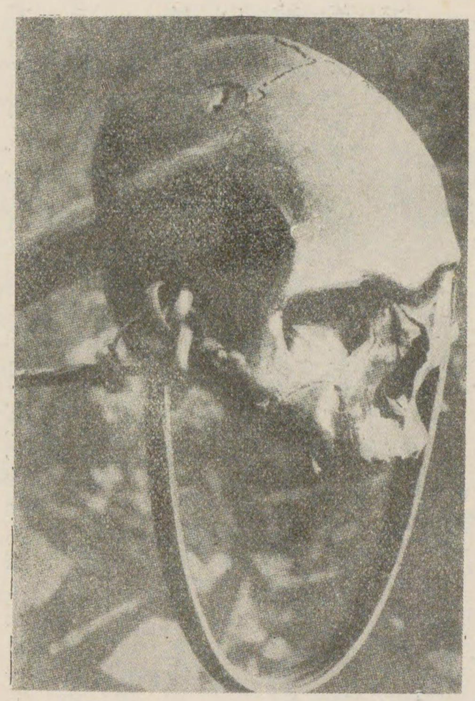
日本の態度

殊に勞働者の樂園として、他國に比し勞働賃銀が非常に高い國情であるのだから一層其處に惱みも深く、聯邦政府當局も困り拔いてゐるのである。

今一つの惱みは國防上の不安であつて、あれだけの廣大なる面積の地に、六百萬の人口を有するに過ぎず、且つ南太平洋に孤立して四面海に圍まれてゐるのでは、何時、如何なる敵が、どの方面から襲擊して來ても、それを防ぐことが困難であるといふ危惧の情は、濠洲人をして甚しく神經的ならしめてゐる。白濠主義を嚴守して、日本移民の入國を禁じてゐる一半の理由は、濠洲の如き人口稀薄の地へ、日本人の如き國民を多數に入れては、將來の危險測り難しといふ警戒心から出でたもので、これは勞働者階級に於ける移民排斥とは觀念上の相違はあるが結論に於ては相一致し、日本人に對して益々門戸を堅く鎖す理由となつてゐる。だから濠洲は英國の新嘉坡軍港築造に對して最も熱心に之を支持し、又自ら海軍を建造すべく努めてゐるのである。

日本が濠洲に野心ありとすれば、世界大戰の際の如きは最も乘ずべき絶好の機會で、一擧にしてその目的を遂げたであらうけれど、日本は日英同盟の誼によつて英國を援け、濠洲の安全を庇護したのであつて、その時濠洲人の幻覺は見事に拂拭された筈である。日本は濠洲に對し

て何等の領土的野心は抱かないのであるから、濠洲聯邦たるものは速にその傳統的鎖國主義を拋棄し、日本移民のために潔く門戸を開放して天與の沃土を開發し、相倶に利福を享受するの途に出づべきである。徒らに疑心暗鬼を抱いて偏狹なる鎖國主義を固執するのは却つて濠洲自身のために不利の結果を齎らすこと現下の濠洲國情が明かに證明してゐる所である。日本は進んで彼等の謬想を打破し、その門戸を開かしむるだけの用意がなければならぬ。



無氣味な通行止　ニユーギニアの中部に住むタブー族は頭蓋骨を柱に掲げて侵入者に對する通行止の標示としてゐる、世に程無氣味な通行止はないであらう。

第五節　匈牙利

位置面積人口

匈牙利は中部歐洲に國し、北はチエツコスロバキヤ、東はルーマニヤ、西は墺太利、南はユーゴースラビヤと境を接する王國にして、面積三萬五千八百七十五方哩(九萬二千九百方粁)、人口八百六十萬餘である。

人種宗教

匈牙利は白人國間に介在するも、人種上亞細亞民族卽ちウラル・アルタイ族に屬し、歷史的に亞細亞と特殊の關係を有するのみならず、その傳統と現實の國情とは特に日本民族との血緣關係を密接に繫ぐものがある。是れ本書に匈牙利を收錄する所以であつて、その人種上に於ける關係を摘記すると左の通りである。

白人國間の異彩

一、匈牙利人の嬰兒には亞細亞人種の特徵たる蒙古斑(モンゴリアン・スポット)と稱する斑紋が臀部に現はれる。この蒙古斑は日本民族にも幼年時代には共通的に認める現象で、醫學界では母斑と稱せられるが、白色人種には之が現はれない。匈牙利人に蒙古斑が現はれるのは、

蒙古斑のある人種

其の種族が亞細亞人種たるを實證するものである。

二、匈牙利語は、日本語、朝鮮語、蒙古語、フインランド語、土耳古語等と同じくウラル・アルタイ語系に屬し、膠着語（てにをはの如きで膠着する語）である。

三、匈牙利民族の間には、紀元五千年前、中央亞細亞に住んでゐた古代民族が、一は東に移住して今日の日本民族となり、一は西に移住して今日の匈牙利人となつたといふ傳說が存在してゐる。

四、匈牙利とは外國人が付けた名稱で、匈牙利人は自國人をマジャールと呼んでゐる。匈牙利の語原は匈奴（ハン）といふ種族的名稱から出たのはいふまでもない。

宗教は各派の基督教が雜然と存在してゐるが、その內羅馬舊教が六割四分强の多數を占め、基督教以外には少數の猶太教徒と回教徒とが存在する。

王のなき王國

政治上の區劃

王國と稱するも現在では空位になつてゐて、攝政官が國を代表してゐる。上下兩院が存し、上院は、地方議會、各宗派、陸軍、司法官其他の代表者によつて組織され、下院は普通選擧によつて選出された議員によつて組織されてゐる。內閣は首相の下に十省が設置され、地方行政は、市町村に夫れ〳〵地方議會があつて自治制度が行はれてゐる。

都市

首府ブダペストは人口九十七萬餘を有する大都市で、この他にセゲット（十二萬五千）、デブレセン（十萬八千）を始め人口五萬以上を有する都市が八つある。

農業本位の國

產業

ドナウ河及びその支流タイス河が國內を流れ灌漑の便多きため、全面積の五割九分が耕地で小麥、裸麥、大麥、燕麥、馬鈴薯、甘蔗、葡萄等の收穫が多く、又牧畜が發達して、馬八十九萬頭、牛百八十二萬頭、羊百五十七萬頭、豚二百五十八萬頭が飼養されてゐる。農業本位の國である爲め工業は寧ろ附隨的の立場にあり、製粉、釀造、製糖、製麻の諸工業及び鐵工業が發達してゐる。匈牙利は一九二〇年のトリアノン條約によつて國土の七割一分、人口の六割三分を削られ、鐵鑛の如きは九割九分までが他國の手に歸し、其他の產業資源の大部分を失つた爲

め遂に斯くの如き國情となつたのである。

日本との關係

汎ツラン運動

匈牙利を中心として汎ツラニズムと稱する民族的運動が存し、此ツラニズムの中心機關たるツラン協會は事務所を匈牙利國會議事堂内に置き、既に二十年の長きに亘り運動を續けてゐる。而して匈牙利人は、日本民族も亦ツラン民族であるといふ關係に於て日本に對し特に深き憧憬を有し、大正十三年六月、匈牙利では日匈協會が設立され、日本と匈牙利との民族的血緣關係の意識を增進すると共に、日本人の對匈興味を喚起し、匈牙利の文藝學術を日本に紹介し、更に進んで日匈兩國間の經濟關係を密接ならしむることを目的として活動を續けてゐる。歐洲大戰の際は日本と匈牙利は敵對關係にあつたが、直接砲火を交へた如き場合は絕無で、當時露軍の俘虜となつた匈牙利人は、後に西伯利亞で日本の派遣軍に移管されたが、それらの匈牙利人は歸國後、日本軍から好遇を受けたことを感謝し、眞に日本は武士道の國であるとてツラン同胞としての日本に深き親みを感じ、斯くは日匈協會を設立するに至つた次第で、現に匈牙利では日本文化に多大の興味を有し、日本研究熱が盛んとなり、ブダペスト大學には日本語の講座が設けられてゐて、故外山正一博士の息高一氏は大正十年から同十三年頃までそこで日本語の教授を擔任してゐた。

日匈協會の設立

先年東北大學の佐々木教授がブダペストで客死した時にも、日匈協會の會員は親身も及ばぬ親切さを以て看病から葬儀まで犧牲的に盡力し、同教授臨終の際には、同協會長センガリ・アンタール氏が日本から持歸つて大切に保存してゐた櫻の栞を同教授に與へたので若き病める教授はかすかに目を見開き、嬉しげにこの花を眺めつゝ不歸の客となつたといふやうな挿話もあり、日匈協會からは東北大學へ一週間目毎に病床日記を送り、日本の外務省へも詳細な報告を送つて來た。又關東大震災の際、匈牙利は財政窮乏の際なりしに拘はらず、東京帝國大學の圖書館復興の企圖を聞き、多數の圖書を寄贈して來た。

日本にもツラン同盟の烽火揚る

之れより前、大正十年には匈牙利ツラン協會の全權使節としてバトラン・バログ・ベネディック氏が日本に來朝してツラン同盟の必要を力說し朝野の諒解を求めたが、更に昭和三年冬には日本帝國名譽領事でブダペスト大學教授たるプレーレー博士が來朝した。この時には日本の有志家も之を上野精養軒に歡迎してツラン同盟の烽火を揚げた。同博士は現にブダペスト大學で日本文學の講座を擔任してゐる程の日本通で且つ非常な親日家であるが、當時汎太平洋倶樂部

我國の親匈團體

で流暢な日本語で日匈兩國の親善を說いて列席者を感歎せしめた。超えて昭和五年春には匈牙利の前首相シモニイ・セマダム・シヤンドル博士が、日本との間に文化的經濟的接近を圖るため政府の命を帶びて來朝し、その時にも亦た角岡知良、內田良平、田鍋安之助の諸氏等を始め我國の有志數十名は同博士の歡迎會を日比谷松本樓で開いて交驩した上、その席上匈牙利のホルテイ・ミクロッシュ攝政官に贈る來國俊の短刀贈呈式を行つた。

プレーレー博士歡迎會撮影（昭和三年十月廿九日於上野精養軒）
前列中央無髯プレーレー博士。向其右鍋安之助氏。內田良平氏。松田禎輔氏。望月龍太郎氏。博士同左、五百木良三氏。大久保高明氏信夫氏。

斯く匈牙利の親日熱の旺盛なるに對し、我國に於ても日匈親善の增進を目的とする大道社なる團體が東京で結成されて居り、仙臺に於ても東北大學を中心として日匈協會が設立され、兩國民の精神的交涉は益々密接の度を加へんとしつゝあり、昭和六年の初頭には大道社から日本精神の象徵たる櫻の苗木五十本を匈牙利農務大臣を通じて同國民に贈つた處、匈牙利の新聞紙などは非常な好感を以てこの事を報道したとのことである。

高松宮の御訪匈

昭和六年一月御渡歐中の高松宮宣仁親王、同妃兩殿下が、御微行にてブダペストを御訪問あらせられた際には、官邊公式の歡迎は一切御辭退遊ばさるゝことゝなつてゐたが、匈牙利では同國政府として公になし得ざる御歡待を全部ブダペスト市が代行するといふ形式の下に、皇族奉迎の規定に準ずる歡迎準備を整へ、凡ゆる點に於て手落ちなきやう熱誠の籠れる歡迎をなしたのであつた。御到着の砌、停車場には匈牙利の高官貴紳が御召車の前に整列して奉迎し、殿下が日匈兩國の隨員を從へて驛頭に出でさせらるゝや、陸軍々樂隊は日本國歌を吹奏し、儀仗兵の閱兵を行はせられた處、儀仗隊の旗手は司令官の號令下に「處女マリヤ聯隊旗」を低く地上に垂れ、殿下に對する最高の敬意を表明した。元來同聯隊旗は國王に對してのみ地上に垂れさせることゝなつてゐるのであつて、これは實に同國の官民が殿下に對して至上の尊敬を表せることを物語るものであつた。やがて殿下が御宿泊所に向はせらるゝ沿道には、無數の市民が雲集して帽子手巾を打振り聲を限りに萬歲を叫び、その興奮は容易に鎭まるべくも見えなかつ

た。二日間の御滯在中は豫定のプログラムに從つて盛なる歡迎の意を表したが、ブダペスト驛附近は目も覺めるばかりの裝飾が施され、如何に同國民が心からの歡迎を表したかを窺ふに餘りあつた。又セゲツト市からは殿下を御招待申上げたいと申出でたが御旅程の御都合により御聽許にならなかつた。

傳へらるゝ所に依れば、匈牙利人は日本を憧憬する純情より、世界に於て最も尊嚴なる我が皇室より皇族殿下を迎へて國王に推戴したいとの希望を有し、數年前、この事が同國の議會に提案されたとの事である。

匈牙利人の希望

昭和五年、我が　天皇陛下の天長節に、日匈協會の企てゞブダペストのラヂオを利用し「日本の夕」なる催しが行はれた。又昭和六年五月にはブダペストで日本美術展覽會が開かれたが、開會式當日匈牙利攝政官ホルテイ・ミクロッシュ殿下は開會の令旨に於て『我が國民は絶えず同胞日本民族の驚異的發展を目して自己の喜びとなし來れり云々』と述べられ、文相クレベルス伯は、その祝辭中にツラニズムを强調し、日匈兩ツラン民族の文化的接近を熱望する旨を述べた。

現に我が國と匈牙利とは修好條約國であつて、匈牙利公使は駐墺公使有田八郎氏が兼任してゐる。何分地理的關係からして經濟的接近は未だ充分でないが、前述の如き親善關係に鑑み將來圓滿なる進展を見るに至るであらうと信ずる。

尙ほ日匈關係と關聯して茲に特記せねばならないのは、歐洲に於けるツラン民族の國たる匈牙利、フインランド、エストニヤの三國間に文化的經濟的提携を目的とするフインノ・ウグリアン文化會議なるものが存在し、その委員會の決議により「血族の日」なる特殊な民族祭が催されてゐることである。第一回の「血族の日」は一九三〇年十月十八、十九の兩日右の三國に亘り學校及び諸團體で盛大に行はれ、同血民族に生を享けたる喜悅と榮譽とを祝福したが、昭和六年には恰も我が神嘗祭の當日前記三國に於て第二回目の「血族の日」が盛大に行はれた。之より前、同年六月にはフインランド共和國の首都ヘルシンキに於て第四回フインノ・ウグリアン文化會議が開催され、三血族國の參加者は恰も兄弟一堂に相會するが如く和氣靄々として會議を進め、この三國間に事實上血族聯盟が形成されたことを如實に證明したといふことである。

血族の日

歴史

匈牙利は一八九六年首府ブダペストに於て建國一千年の祝典を擧行したが、その建國の歴史は更に第四世紀の昔に遡り、今尚ほ當時に於ける傳説が匈牙利國民に多大の民族的矜持を與へてゐる。中央亞細亞に蟠居せしフン族は第四世紀の頃、西進して歐洲に入り、先づオストロゴス人を征服し、ビシゴス人を驅逐して猛威を揮ひ、更にヴアンダル人と戰つて之を擊破し漸次その版圖を擴めたが、五世紀の中頃「神の鞭」と綽名された勇將アツチラが王となるに及び、進んで東羅馬帝國の版圖を侵し、北はバルチツク海より南はドナウ河に至る中歐の天地を席捲して、アツチラの過ぐる所、野に青草なしとまで稱せられる侵略的威勢を示した。彼はタイス河畔に都し、歐洲の諸民族をその脚下に跪かせたが、當時ライツサ河以東の地を委ねられてゐたアツチラの弟ブダが、兄アツチラとの盟約に背いて領域の外に出で、シカンブリヤに城を築いて自己の名を冠しブダ城と稱したことが、アツチラの逆鱗に觸れ、アツチラは自ら征討軍を督してブダ城を圍み遂にブダを殺戮してしまつた。今日のブダペストは卽ちこのブダ城の名殘を留めた地名なのである。其後アツチラは西羅馬の將アエチウスと戰つて勝ち、一路羅馬を指して軍を進めたが、僧正レオは戰禍の羅馬文化に及ぶを恐れてアツチラに軍を收めて去らんことを哀訴歎願したので、遂にその請ひを容れシカンブリヤに兵を旋へし、其處で第二の妻ミコルナと結婚したが、結婚式の當夜急に病を發して歿した。アツチラの死後その二子が後繼問題に就て相爭へるに乘じ、往年アツチラの爲に破られた羅馬の敗將デトレが大軍を提げて來攻した爲め打破られ、アツチラの遺子チヤバは纔に一萬五千の兵を纏めて一路バルカンへと退き希臘で防ぎ戰はうとしたが、其處にも踏み止り得ないで遂に父祖の故鄕なる中央亞細亞へ引揚げた。

古英雄アツチラ

一方歐洲に殘留したフン族はトランシルバニヤの嶮に據つて防戰よく努め、チヤバの再擧して來るのを待つたが、それは空しい期待に過ぎなかつた。しかし、この一團は度知れぬ敵の攻擊奇襲をもよく支へて、長い歲月の間子孫相繼いで對抗を續けた。

後年、チヤバの直裔でアールモシユが出づるに及び亞細亞のマジヤール族は再び西行運動を開始し、ボルガ河の沿岸地方を斬り從へて、ドナウ河とタイス河の岸に沿ひ北上した。進んでムンカーチに達した時には曾て祖先アツチラが大帝國を建設した中歐の平野が眼下に展開してゐるのを認め、壯圖の既に成れるを感じ、此處で神に向つて感謝の祈りを捧げたのであるが、不幸にもその時總帥アールモシユが急死し、之に代つてマヂヤール族の酋長アールバードが全軍を統率した。之より前、アールモシユが進軍を續けつゝある途中、中歐トランシルバニヤに踏止つて子々孫々孤軍奮鬪してゐたフン族の使者が、亞細亞の方面を目指して來りつゝあるに

フン族の奮鬪

マヂヤール王國の建設

會し、歐洲進擊の計畫を告げたので、使者は急いで之をトランシルバニヤの味方に報じた爲め、アールバードが後繼總帥となつて次期攻擊に移るべく、疲勞せる全軍を休息させてゐる所へ、トランシルバニヤからの出迎への軍が到着し、士氣頓に振ふことゝなつた。之より意氣衝天の概を以て進んだアールバードの軍は、當時まだ乘馬の術に熟しなかつた歐洲軍を馬蹄の下に蹂躙して、連戰連捷、遂にスラブの勇將たるモラヴィア王スヴァトブルグの軍をも擊破して漸次附近を攻略し、遂にマヂヤール王國の基礎を確立したのである。時に西曆八九七年で（一說にはそれが西曆一〇〇一年とも稱される）、匈牙利の建國はこの時に始まる。

外寇と復興

爾來、匈牙利は中歐に雄視し、歐洲白人國の間に伍して久しく勢威を振ひつゝ亞細亞が歐羅巴を克服した史的證憑たる名譽ある存在を續けて來たのである。しかし匈牙利の建國以來の歷史は決して平和なものでなく、一二四一年には蒙古軍の侵入によつて國土を荒らされ、更に一五二六年土耳古軍侵入の際には西歐の堡壘と稱せられたほど能く防ぎ戰つて、その國民的勇武の面目を發揮したけれど、遂に非常なる掠奪を受けて、都市は潰滅し財寶は奪ひ去られ、實に慘憺たる受難を嘗めたのである。斯く二回までも外敵の侵害を被り乍ら能く國勢の復興に努力し、久しからずして更生したが、一八六六年の普墺戰爭後、匈牙利は戰敗國たる墺太利と併合し、

致命的のトリアノン條約

所謂墺匈帝國の名の下に各々特別の憲法を設け、特別の內閣を組織し、更に帝國內閣を置きて兩部の軍事及び外交事務を統一することゝなり、自由主義によりて新政を行ひ、富强を謀りしも、斯の如き畸形的國家の健全に發達すべき筈もなく、內紛を繰返す裡に歐洲大戰が勃發し、匈牙利は墺太利と共に獨逸側に加擔して、その國命を誤ることゝなつた。則ち匈牙利は歐洲大戰直後、カーロイ伯等を中心として共和政府が樹立され、墺太利と分離したが、幾何もなくしてクン・ベラ一派の勞農政治が行はれ、更に又ルーマニヤ軍が國內に侵入して要地を占領する如き事態を發生し、確乎たる政府が存在しなかつたゝめ、ヴェルサイユ媾和會議に代表を派遣することが遲れ、一九二〇年一月匈牙利の代表委員が巴里に到着した時には既に對獨平和條約が締結された後だつたので、各國の全權委員は匈牙利の處分は部下に一任して多くの注意を之に拂はないやうな有樣であつた。從つてヴェルサイユ條約の一部分ともいふべき匈牙利に關するトリアノン條約では、滅茶々々に不利なる條件が强制せられ、國土の七十一パーセント、人口の六十三パーセントが、チエツコスロバキヤ、ユーゴースラビヤ、ルーマニア等に分割せられ、之につれて鐵道の大部分、一六八六一箇の學校中の一一二一六校を失ひ、炭田の半分以上と油及び瓦斯供給設備の殆ど全部、水力の六十分の五十九、森林地の九十パーセント、開墾地の半分

以上、畜類の約七十パーセント、製糖所の四十パーセント、其他之に準ずる國富が奪ひ去られてしまつたのである。條約締結の當時常に指導的立場にあつた米國のウイルソンや英國のロイド・ジョージが中歐の事情に無知識だつたのと、媾和會議の開催中匈牙利に勞農革命が勃發して、全歐に蔓延すべき危險を持つてゐたことが、斯の如き過酷の處分を見るに至つた有力な理由であるが、兎にも角にも斯くして匈牙利は小弱國たるべき運命を課せられてしまつたのである。匈牙利國民の之に對する不滿と憤慨は非常なもので、トリアノン條約の改訂を要望して已まず、現にこの條約に關する匈牙利國民の相言葉として「ネム、ネム、ショハー！」（否、否、斷じて）といふ語が高唱されてゐるのも當然である。

否、否、斷じて！

政治上の地位

一九二〇年のトリアノン條約は匈牙利に過酷の制裁を課して殆ど致命的の打擊を與へた。國土の七十一パーセントが削り去られたことは、さらぬだに境域の狹くなつてゐた匈牙利をして益々微弱な小國と化せしめた。英雄アッチラの昔を憶ひ起して匈牙利國民が俯仰感慨に沈むのも無理からぬことである。

反抗の意氣

反抗精神の高揚

戰敗に次ぐに政變混亂を以てし、而して又斯くの如き國土の割讓を强ひられた匈牙利は、自ら立つべき力をも失ふかと想はれたが、否（ネム）、否（ネム）、斷（ショハー）じて！の相言葉に反抗の意氣を猛り立たせて、トリアノン條約の改訂を高唱しつゝあるが、それが果して目的を遂げ得べき要求であるか、無理が通つて道理が引込む國際社會の通弊に照らして甚だ心細く感ぜられると共に、勇敢にして愛國心に富めるこのツラン民族の要求が滿されない曉には、中歐の平和が何時破らるべきかも測り難い危險を孕んでゐるのである。匈牙利に於ける汎ツラニズムの運動は遠く歐洲大戰前より存するのであるが、トリアノン條約はこの汎ツラニズムの運動に一層の熱を與へる結果となつたのは爭ひ難く、同じ血に繫がる所のフインランドやエストニヤとの提携が、やがて「血族の日」といふ共通的の民族祭にまで發展したのは輕々に看過すべきことではない。

サー・ロバート・ドナルドの記する所によれば『匈牙利は兩腕を堅く縛られて檻の中に監禁せられてゐる。それでも匈牙利の精神は亡びず、氣位の高い、高尚な男性的な匈牙利人は比類なき回復の力と熱烈なる國民的意識を有して居り、彼等は國を八つ裂きにされ不具にされたけれど、襲ひかゝる不幸に對して打勝つ決心を持つてゐる。如何なる國に於ても匈牙利に於けるが如き熱烈なる愛國心の發現を見ることが出來ない。國民的愛國心は火の燃ゆる如く熾烈で、凡

愛國心は神聖なる教義となる

ゆる方法によりそれを現はしてゐる。この國は今や地圖、徽章、封緘紙、スタンプ、繪葉書、封筒、金屬板、金屬製圓板、ポスター等の類に記されたる愛國的スローガンの國である。そのスローガンは普遍的であり又何れも效果的のものである。就中、否、否、斷じてといふスローガンは文房具にも、蒲團にも、家具にも、旗にも、廣告ビラにも、掲示板にも記されてあり、大抵の場合には分割された匈牙利の慘めな姿を國民の腦裡に印象づけるための地圖がついてゐる。この地圖も凡ゆる場所に掲げられ、戸にも、窓にも、公共建築物にも、到る處に掲げられてあり、文學者も之に共鳴し、パンフレットや繪畫の洪水が印刷所から流れ出て、同じ叫びを四方八方に傳へてゐる云々』とあり、又『愛國心は神聖なる教義となり、それが神格化されて民族の自尊心は人民を高揚せしめてゐる。鐵道にも、電車にも、學校にも、公共建築物にも、この敬虔なる信仰告白文が掲げられ、教會でも、學校でも、感化院でも、監獄でも、匈牙利人の國民的信仰と稱する次の如き祈りの言葉が唱へられてゐる』と記してゐる。

『私は一つの神を信ずる。私は私の國の統一を信ずる。私は一の永遠なる神の正義を信ずる。私は匈牙利の復活を信ずる。アーメン』

右の如き熱烈なる復活の信條に對しては、單にツラン民族のみならず、國際的正義の觀念を抱くものが同情を禁ぜざる所であつて、歐洲平和の前途に鑑みるも冷淡に看過すべき事態でないのは勿論である。匈牙利は、今、王のなき王國で、曩にクン・ベラの勞農政府を倒し、掠奪を恣にせるルーマニヤ軍を撤退せしめて殊功を建てたホルテイ・ミクロシュ提督が攝政の重任を佩び國政を統べてゐるが、何れは國王迎立問題を解決せねばならず、然もそれに對しては人選上に可なり複雜なる事情が伏在し、且又た小協商國と稱せらるゝチエッコスロバキヤ、ルーマニヤ、ユーゴースラビヤが神經過敏なる干渉を試みんとしてゐる有樣で、事は甚だ面倒なやうである。羽翼を全くもがれた裸鳥の如くなつて、その上常備軍を三萬五千以上は置くことを許されぬやうな立場にある匈牙利としては、惡意に滿てる四隣の間に介在して、轉た國歩の艱難を感せざるを得ないのである。

面倒な國王迎立問題

我が國の如きは、匈牙利國民が、日本に對して有する熱誠なる好意に鑑みるも、直接間接に、この氣の毒なるツラン民族の國家を支援し、その國運の打開に寄與する所あつて然るべきである。殊にツラン民族たる關係に於て、匈牙利、フインランド、エストニヤの血族團體と提携することは、歐亞を通じて國際的の一勢力となり、世界の平和と人道とのために寄與することが出來るであらう。この意味からしても吾等は歐洲に存するツラン民族の國家に多くの同情と注

意とを拂ふべき理由がある。

第六節　フインランド

位置、面積、人口

北歐羅巴のボトニヤ灣とフインランド灣の間に突出し、北は瑞典、諾威に境し、南部及び東部は露西亞に接してゐる。面積十三萬二千六百方哩(三十四萬三千四百三十方粁)、人口は三百六十一萬千七百餘である。

芬蘭もフン族の末裔

政治上の區劃

一八〇九年以來露西亞の領土となつてゐたが、一九一七年十二月獨立して共和國となつた。立法機關は一院制度で、大統領を置き、內閣は首相の下に十省が設けられてゐる。地方は九縣に區分し縣知事は大統領が任命する。縣は縣會を有し、縣は更に區に分れ、各々地方議會を有してゐる。

人種、宗教

五世紀の頃亞細亞の英傑アツチラが侵入せし頃からフン族がこの地方にも分布し、匈牙利の項で述べた如く今日のフインランドはツラン民族の國である。但し一九二〇年の調査に依る言語上の分派を擧げると、フインランド語を用ふる者二百七十五萬餘、瑞典語を用ふる者三十四萬、露西亞語を用ふる者四千八百、獨逸語を用ふる者二千八百、ラプランド語を用ふる者千六百といふ割合である。宗教はルーテル教派の基督教が國教となつてゐるが、信仰は自由で各派基督教が混在してゐる。

都市

首府ヘルシンキ(舊名ヘルシングフオールス)の人口二十二萬七千。チュルク(舊名オーボ)六萬三千、タンペール(舊名タムメルフオールス)五萬四千、ヴイープリ(舊名ヴイボルグ)五萬四千等が主要な都市である。

產業

農業を主とするが國内の耕作地は全面積の六パーセント强に過ぎない。農産物は裸麥、大麥燕麥、馬鈴薯、牧草等の外にバタの産額が多い。家畜は馬三十九萬頭、牛百九十一萬頭、羊百三十一萬頭、山羊一萬頭、豚四十三萬頭が飼養されてゐる。工業は一九二八年には大工場四千二十一を算し、その從業員は約十七萬人であつた。工業の種類は鐵工業及び機械工業を首位に織物製材、製紙、製革及び護謨、化學工業、煙草、電氣、瓦斯といふ順序である。

日露役とフインランド

日本との關係

我國とフインランドとは修好條約國で、我が瑞典駐劄公使が芬蘭公使を兼任してゐるが、東京には專任の芬蘭公使が來任してゐる。日露戰爭の際、明石將軍が露西亞の後方攪亂運動を行つた際、將軍の麾下の有力なる部將として働いた者にフインランドの一志士があつた。國内にはスポーツが盛んで、マラソンの世界的選手ヌルミの如きを出して居り、先年のオリムピック大會では人口一億二千萬の米國が三百五十人の勝者を算へた際、人口三百六十萬のフインランドからは百五十人の勝者を出してゐる程で、國民性の剛健なることが窺はれる。

愛らしき同民族の國

第七節　エストニヤ

○位置面積人口　バルチック海の東岸に位し、面積一萬八千三百五十方哩(四萬七千方粁)で、我が九州と四國を合したより稍小さく、人口は百十一萬六千餘である。

○人種宗教　總人口の八割七分七厘が亞細亞人種たるエストニヤ人で、一割が露西亞人、一分七厘が獨逸人である。宗教は大部分が基督教のルーテル教徒で、他は舊教である。

○都市　首府タルリンは一二二九年にフインランド灣の灣口に建設された都市で人口十三萬を有する。タルツは學校都市で人口六萬五千、リガ灣の港ポルヌは人口二萬二千。ナルヴァは工業都市で人口二萬七千である。

○産業　農業物が主で、裸麥、小麥、大麥、馬鈴薯、燕麥を産し、家畜も牛六十萬頭、羊四十七萬頭、豚二十八萬頭、馬二十萬頭、家禽百三萬羽が飼養されてゐる。この國では産業組合が發達し、バタの製造其他が盛んで、それらの製品が貿易上重要の地位を占めてゐる。工業は織物、製紙、セメント、製油、製材、製革等である。

○政治狀態　この國は十七世紀の初め以來瑞典の屬領となり、一七二一年以來は露國の屬領と

獨立の獲得

なつてゐた。革命により露國の內部が分裂せるに乘じ獨立の恢復を圖り、一九二〇年のタルツ條約に依り遂に露國から獨立を承認せられ共和國となつた。主權は國會に屬し、國會は百名の議員により組織され、行政上の執行權は國長（ステート・ヘッド）及び內閣が有する。同國の獨立に對し日本は瑞典、波蘭等と共に逸早く之を承認した。

（了）

昭和六年十一月十三日　印刷
昭和六年十一月十七日　發行

【定價金六圓】

編輯者　東京市麴町區永田町二丁目八十六番地　黑龍會出版部
發行者　東京市麴町區永田町二丁目八十六番地　知野秀次
印刷者　東京市芝區田村町五十一番地　福井安久太

發行所　東京市麴町區永田町二丁目八十六番地　黑龍會出版部
電話銀座(57)九七一番
振替口座東京一三七九九番

不許複製

安久社印刷

5
2

K 233

554
237